

ORIGAMI

TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E

定価 635円
(本体605円)

クローズアップ Close-up

創作過程のモデル化試論

—次世代の創作理論構築に向けて—

A Meta-Theory of Model-Designing Procedure for the Coming Generations of Designing Theories

堀口直人 Horiguchi Naoto

折り図 Diagrams

シベリアンハスキー

Siberian Husky

川畑文昭

Kawahata Fumiaki

展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

ラクダー15°

15°-Based Camel

西川誠司

Nishikawa Seiji

つまみおり Information

第14回 折紙探偵団
コンベンション情報

The 14th JOAS Origami
Tanteidan Convention Update

第7回 TVチャンピオン
結果速報

The 7th "TV Champion
" Folders" Championship

折り紙の著作権と
その扱いについて
Copyright and Origami



通巻 108 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING

谷折り線
Line indicating
valley fold

山折り線
Line indicating
mountain fold

手前に折る
Fold paper
forwards

後ろへ折る
Fold paper
backwards

折り筋を
つける
Making a crease line

段折り
Pleat fold

裏返す
Turn paper over

引き出す
Pull out

図の見る
位置が変わる
Rotation

図が大きくなる
A magnified view

見えない
ところ
A hidden line

押す、
押しつぶす
Push paper in

切る
Cut

表紙解説

シベリアンハスキー
作:川畑文昭(P.22)

Siberian Husky
by Kawahata Fumiaki (P.22)

■複雑に入り組んだ色分けを表現すると、折り目の線が必然的に増えていってしまうのがインサイドアウト作品の難しいところですが、それをいかにしてデザイン的に活用するかが重要なポイント。極力シンプル化しながら、筋肉がきりりと引き締まった精悍なフォルムにまとめあげた川畑氏の妙技をご覧ください。

(解説:北條高史) Comments: Hojyo Takashi

No. **108**



Siberian Husky : Kawanahata Fumiaki

クローズアップ／Close-up

P.11

創作過程のモデル化試論

-次世代の創作理論構築に向けて-

A Meta-Theory of Model-Designing
 Procedure for the Coming Generations of
 Designing Theories

堀口直人
 Horiguchi Naoto

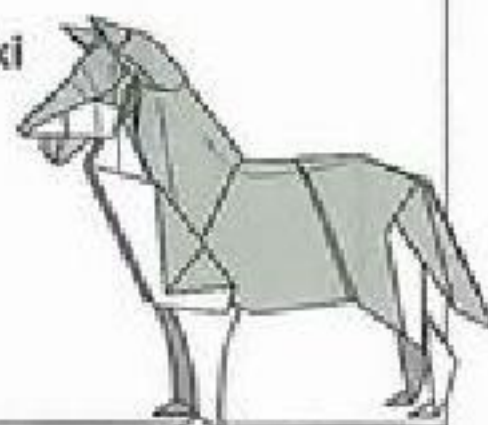
折り図／Diagrams and Crease Pattern

P.22 **シベリアンハスキー**

Siberian Husky

川畑文昭

Kawahata Fumiaki



P.32 **展開図折りに挑戦!**

Crease Pattern Challenge!

ラクダ-15°

15°-Based Camel

西川誠司 Nishikawa Seiji

カラーページ／Color

P.20 **オリガミ・フォトギャラリー**

Origami Photo Gallery

解説・北條高史
 Comments : Hojyo Takashi

折り図／Thematic Series with Diagrams

P.4 **まーしーのユニット・オルタナティブ**

Mercy's Unit Alternative

ユニッター規定種目 6枚組正二十面体

Compulsory Program for Modular Folders:
 A Regular Icosahedron from 6 Sheets

田中将司
 Tanaka Masashi

P.8 **おりがみ我楽多市**

Origami Odds and Ends

T-バッグ

A Bag with "T"

やまぐち真
 Yamaguchi Makoto

読み物／Articles

P.14 **過去の折り紙に学ぶ**

Learning from the Paperfolding of the Past

西洋における折り紙革命：1950年から1960年

The Paperfolding Revolution
 in the West, 1950 to 1960

デビッド・リスター
 David Lister

翻訳：羽鳥公士郎
 Translator : Hatori Koshiro

P.16 **折紙図書館の本棚から**

From the Bookshelves of the JOAS Library

「折り紙入門」

"Introduction to Origami"

小松英夫
 Komatsu Hideo

P.18 **折紙散歩右往左往**

Origami-Sampo to Unexpected Directions

河川武蔵野線

Up The Stream

前川 淳
 Maekawa Jun

P.33 **ペーパーフォルダーの横顔**

Paper Folders on File

マーク・ロビンソン

Mark Robinson

取材：神谷哲史
 Kamiya Satoshi

コラム／Columns

P.7 **折り紙の周辺**

Origami and Its Neighbors

布施知子
 Fuse Tomoko

P.31 **おりすじ**

Orisuzi ("Fold-Creases")

原 司
 Hara Tsukasa

情報／Information

P.34 **日本折紙学会18期事業報告と19期予定**

JOAS Report of the 18th Year (2007) and
 Prospects of the 19th Year (2008)

P.36 **つまみおり** Rabbit Ear

第14回折紙探偵団コンベンション情報

The 14th JOAS Origami Tanteidan Convention Update

ま〜し〜の ユニット オルタナティブ

Mercy's Unit Alternative

田中将司
Tanaka Masashi

第2回 ユニッター規定種目 6枚組正二十面体

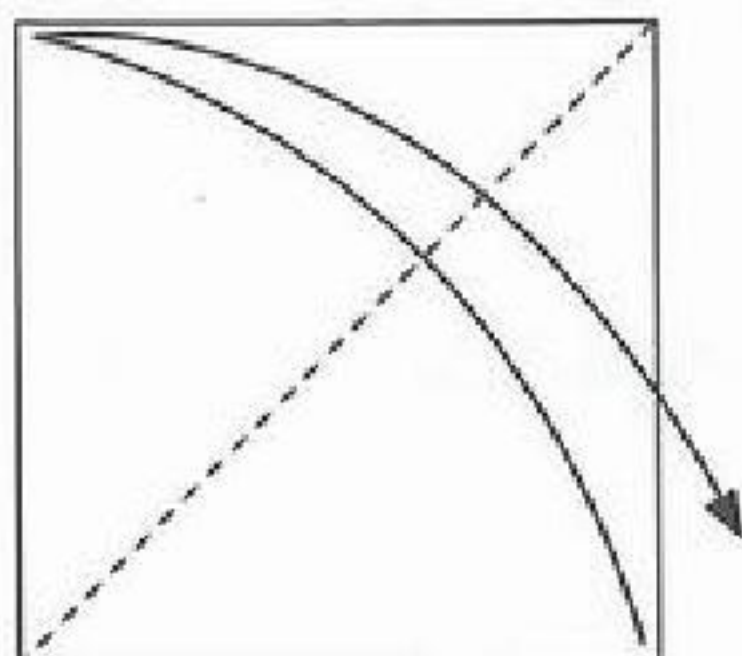
Compulsory Program for Modular Folders:
A Regular Icosahedron from 6 Sheets



KFD-OriClub所属。折紙探偵団東海友の会スタッフ。苦手なものは酔っ払ったYさん。詳細は名古屋コンベンションで。

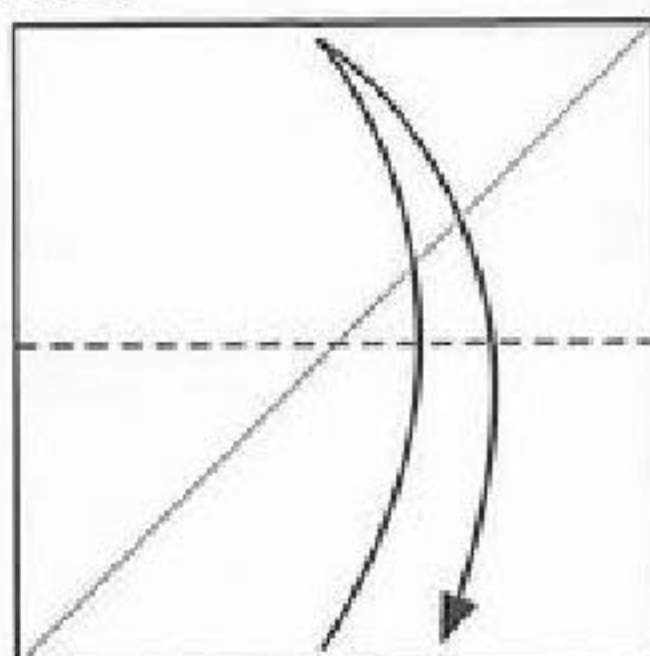
【基準線定規A】 パーツを折る紙と同サイズの正方形を用意する。

A-1.



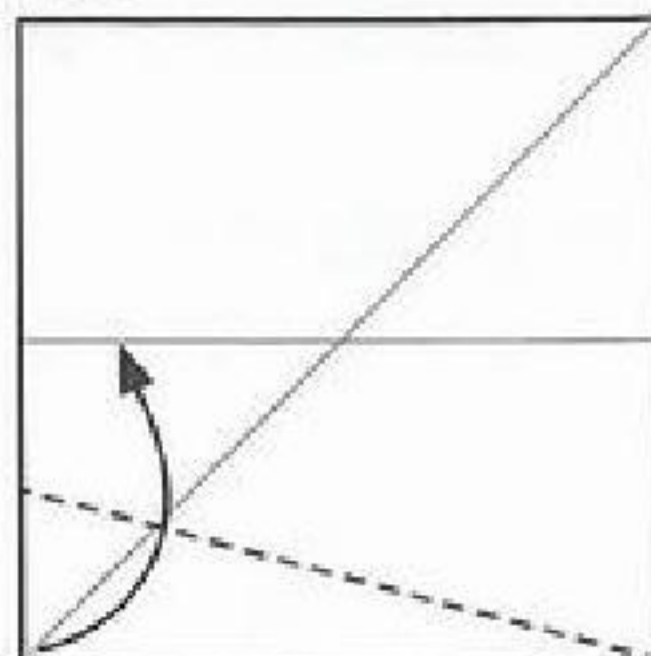
半分に折って開く

A-2.



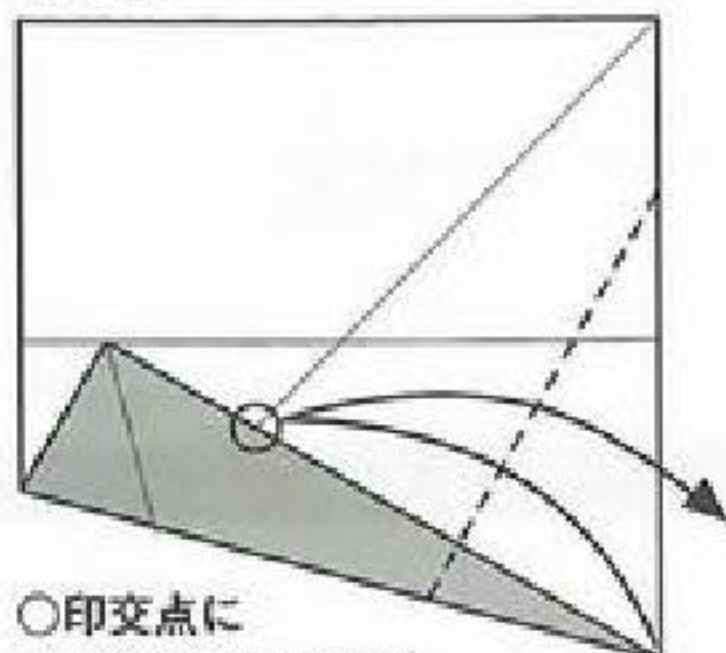
半分に折って開く

A-3.



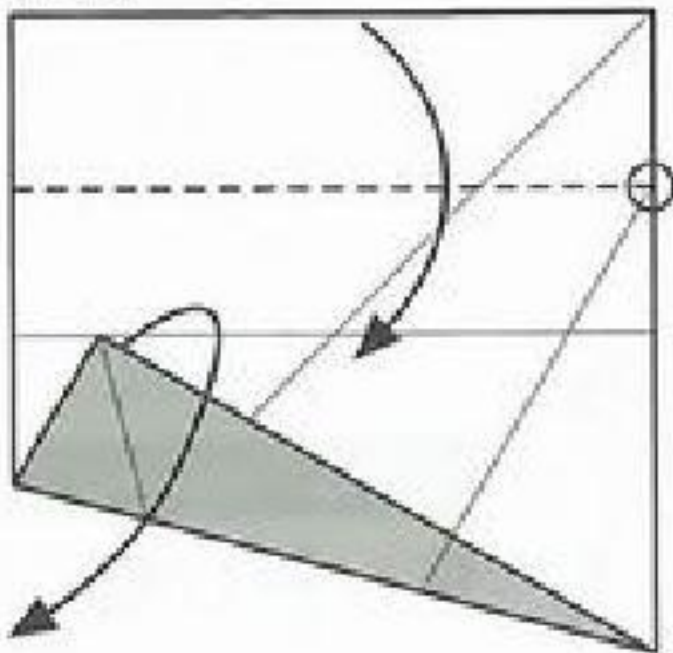
カドを今付けた
折リスジに乗せる

A-4.

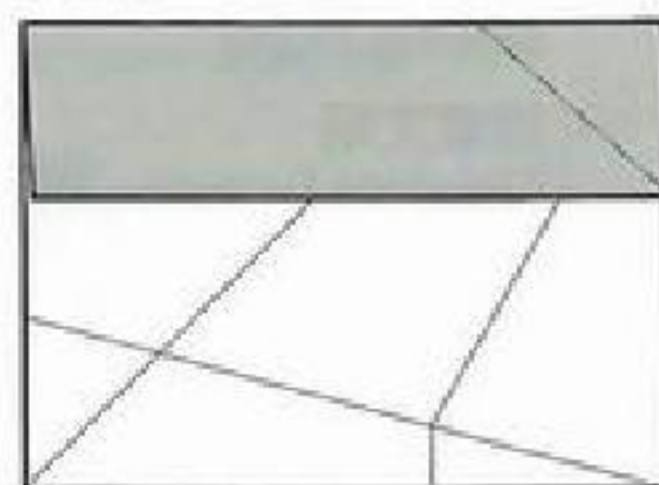


○印交点に
カドを合わせて開く

A-5.



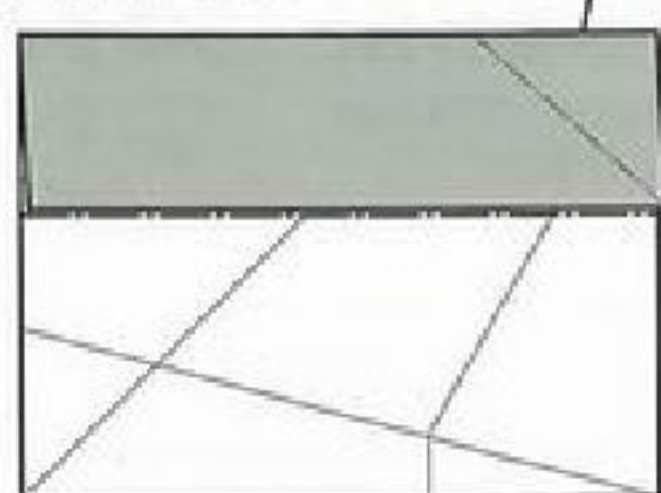
A-6.



基準線定規 A

【基準線定規B】 パーツを折る紙と同サイズの正方形を用意する。定規 A 流用も可。

A-6=B-1.



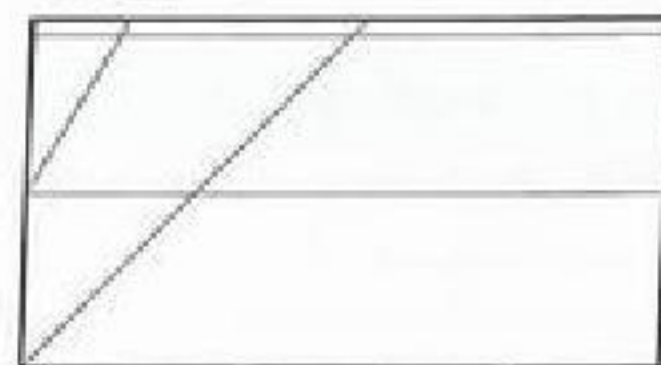
A-5工程で折った分析り倒す

B-2.



開く

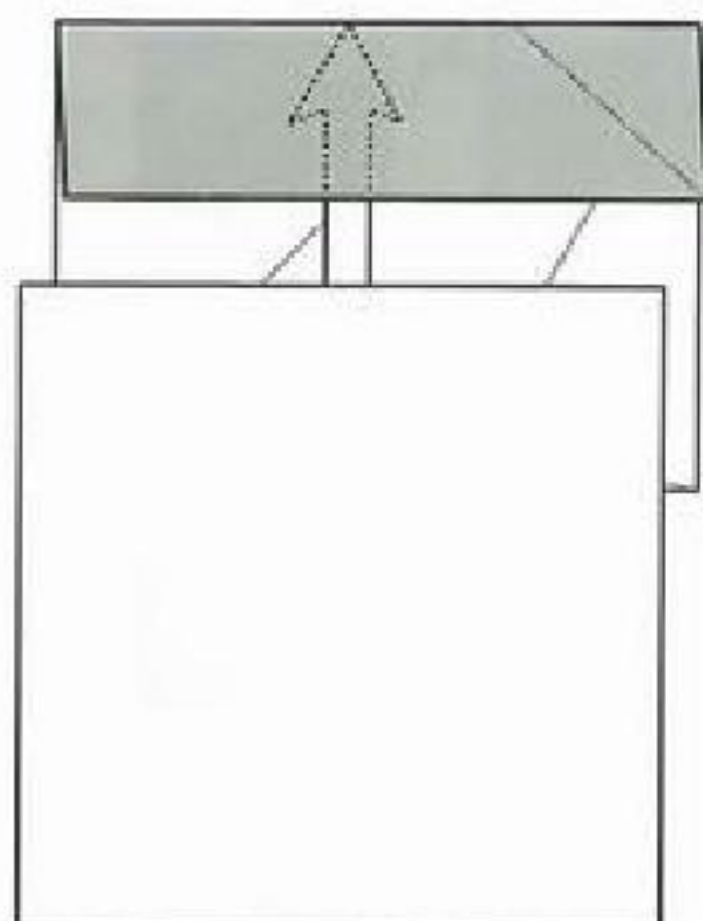
B-3.



基準線定規 B

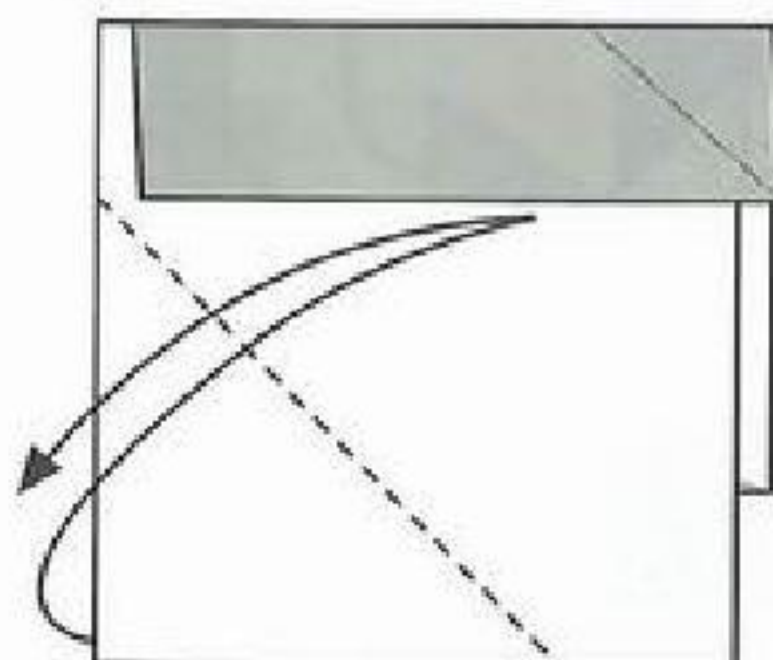
【6枚組正二十面体パーツ】

01.



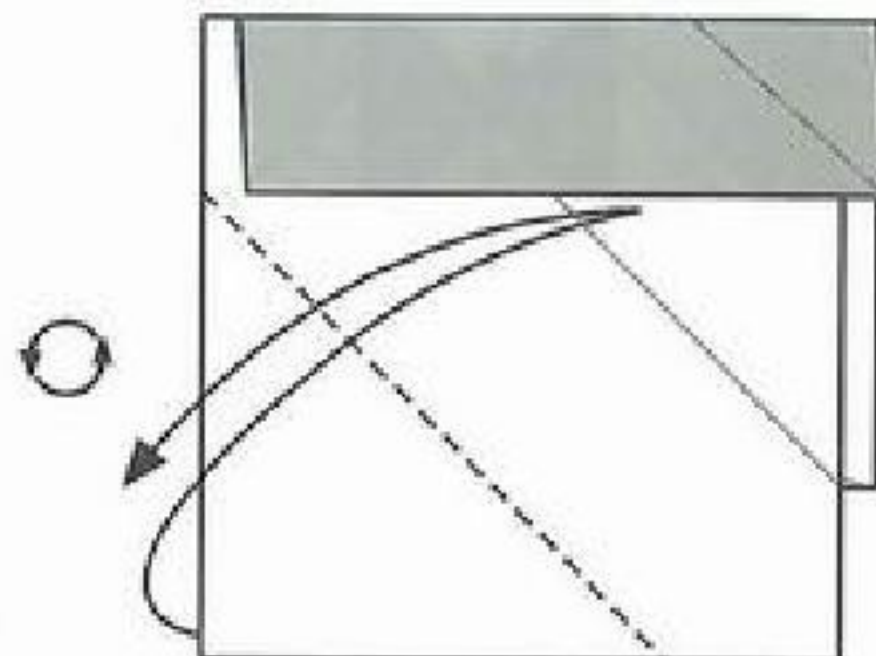
定規Aに
奥まではさみ込む

02.



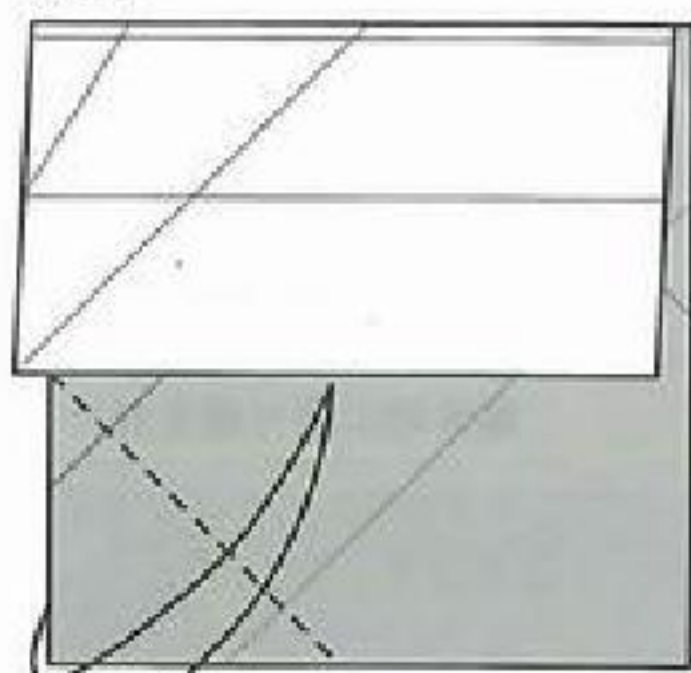
フチとフチを
合わせて折って開く

03.



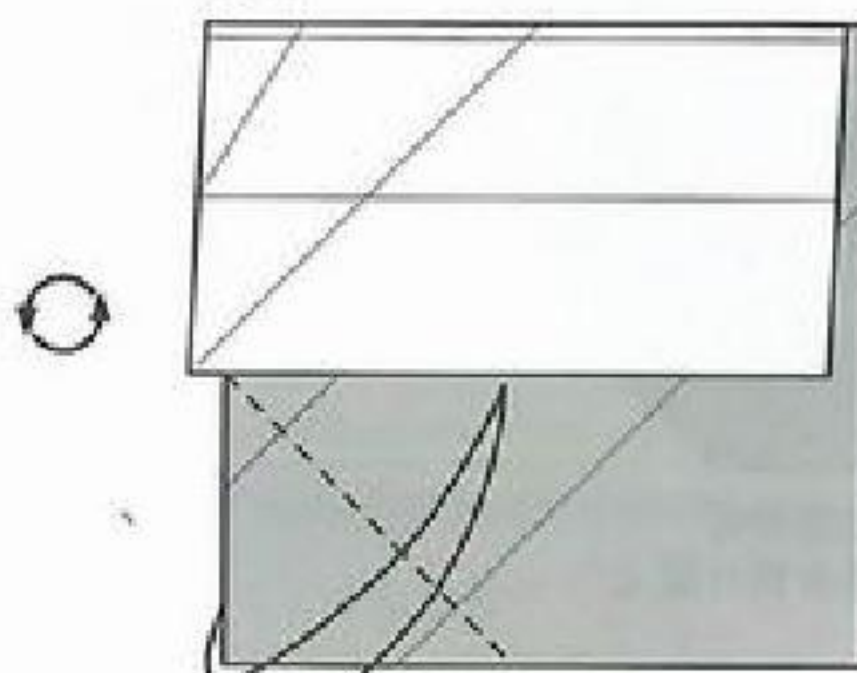
はさんだ紙を
上下逆にして
同様に折る

06.



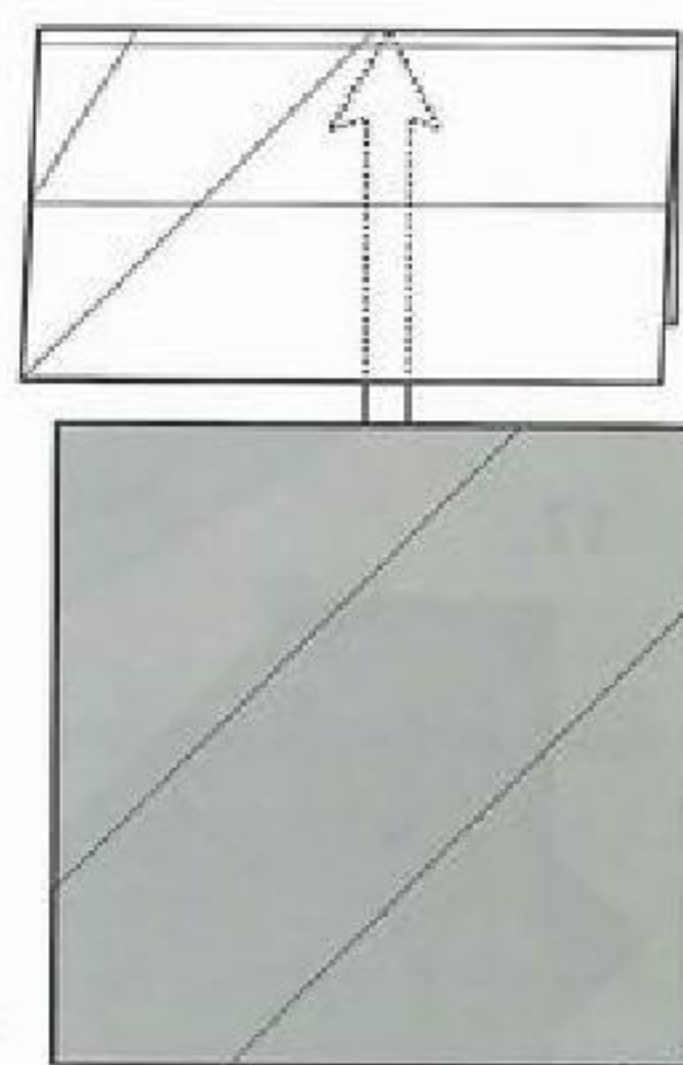
はさんだ紙を
上下逆にして
同様に折る

05.



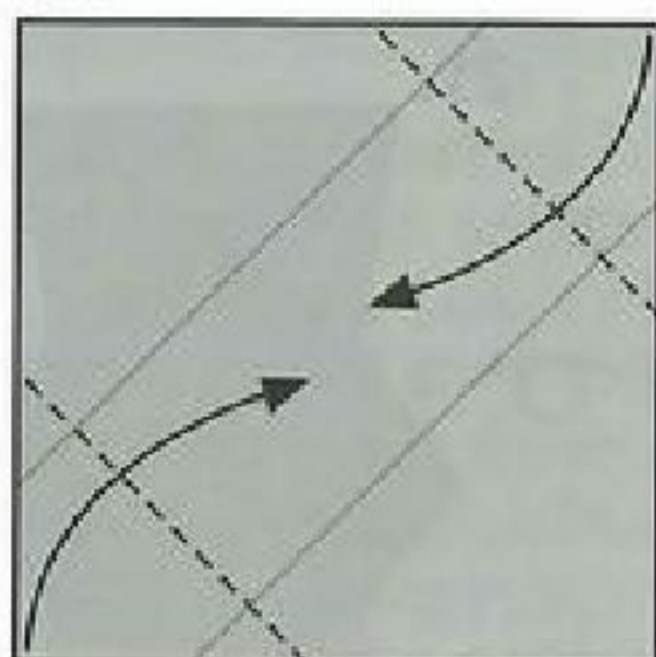
フチとフチを
合わせて折り開く

04.

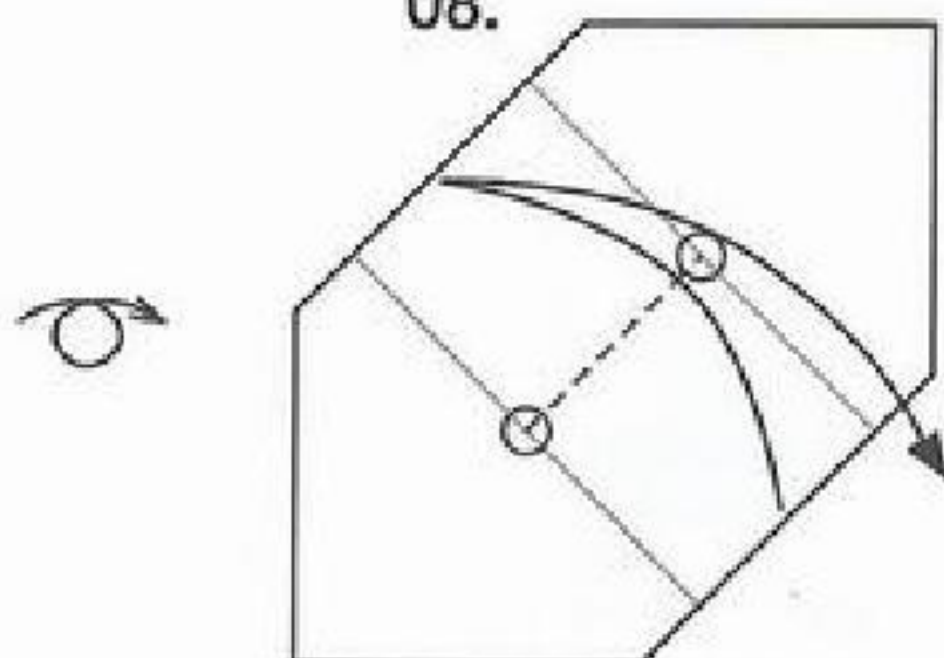


はさんだ紙を
左右逆に裏返し
定規Bにはさみ込む

07.

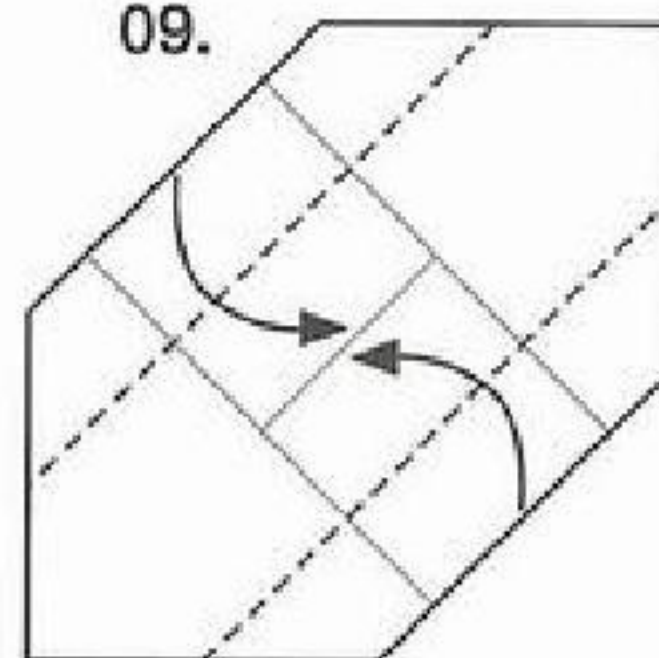


08.

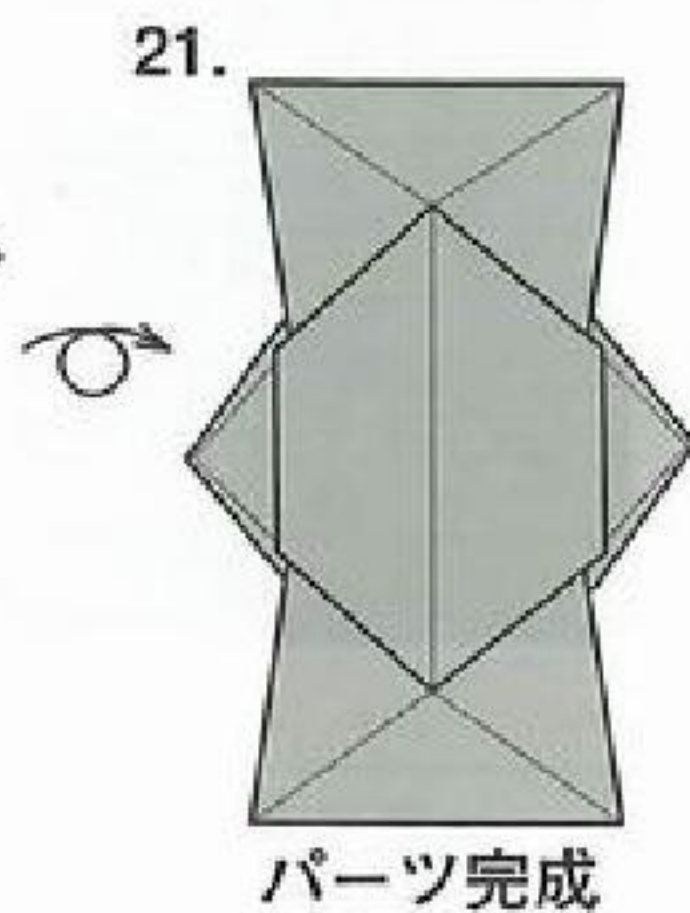
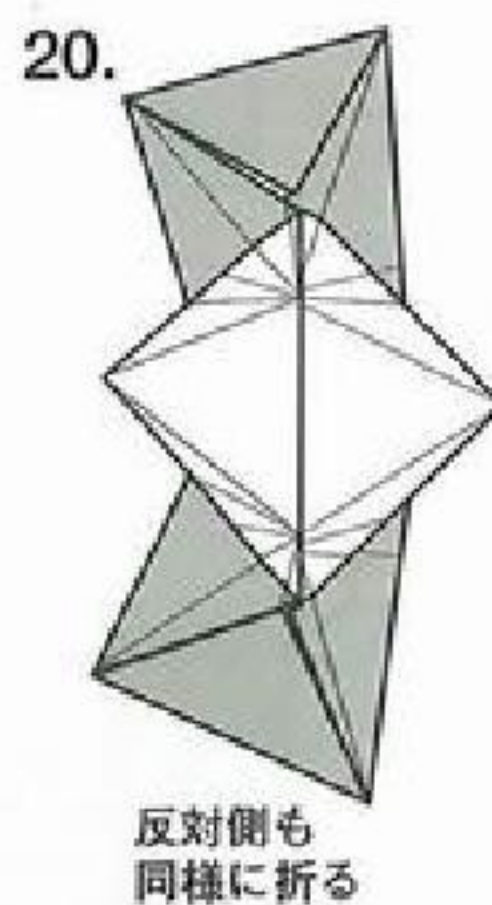
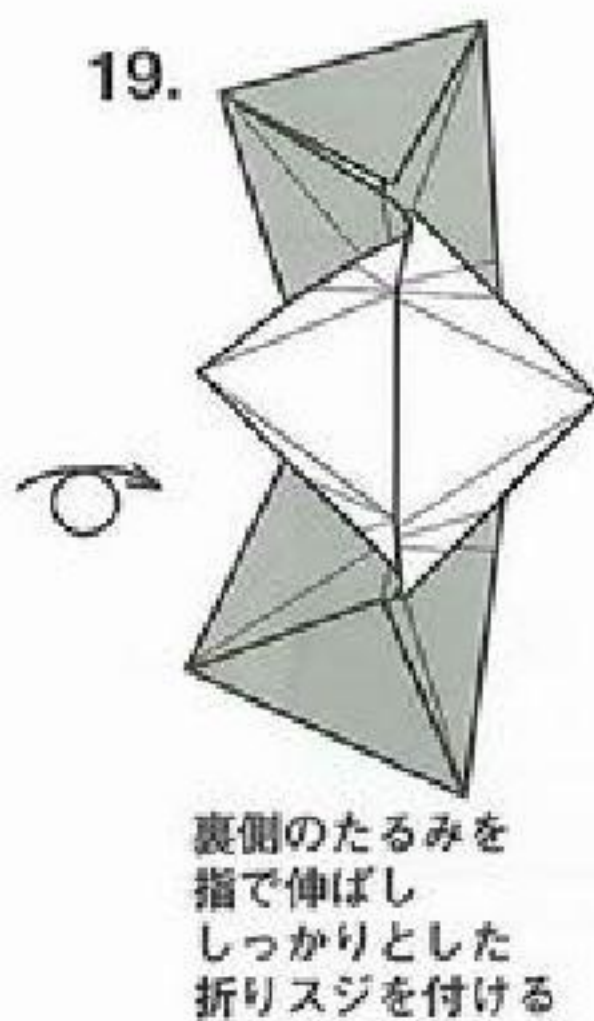
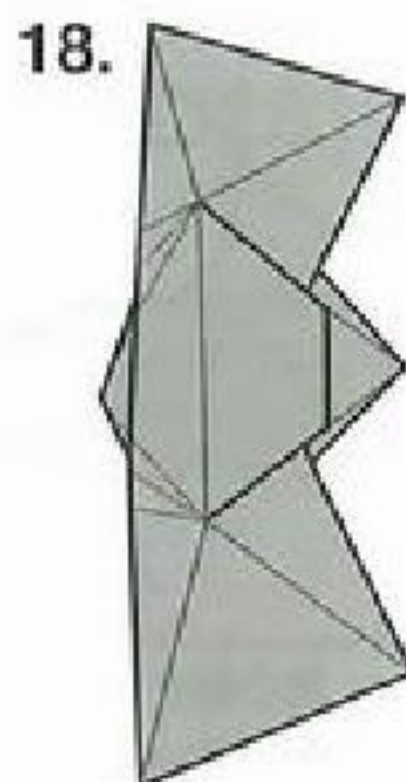
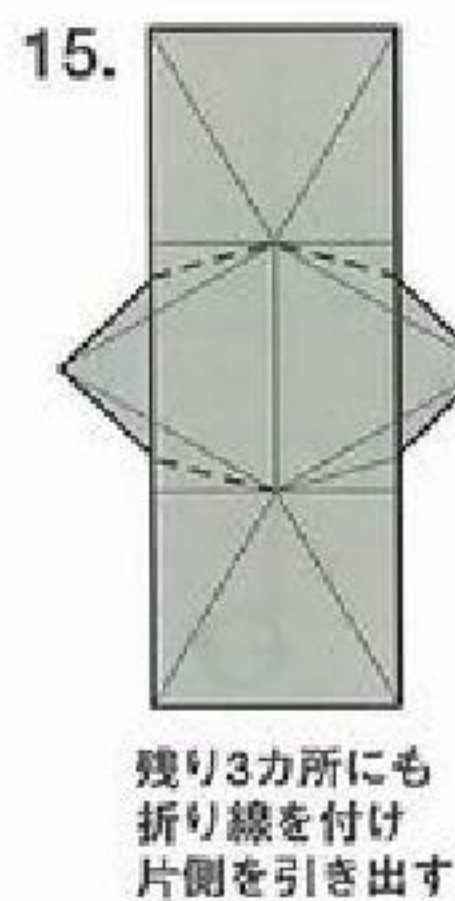
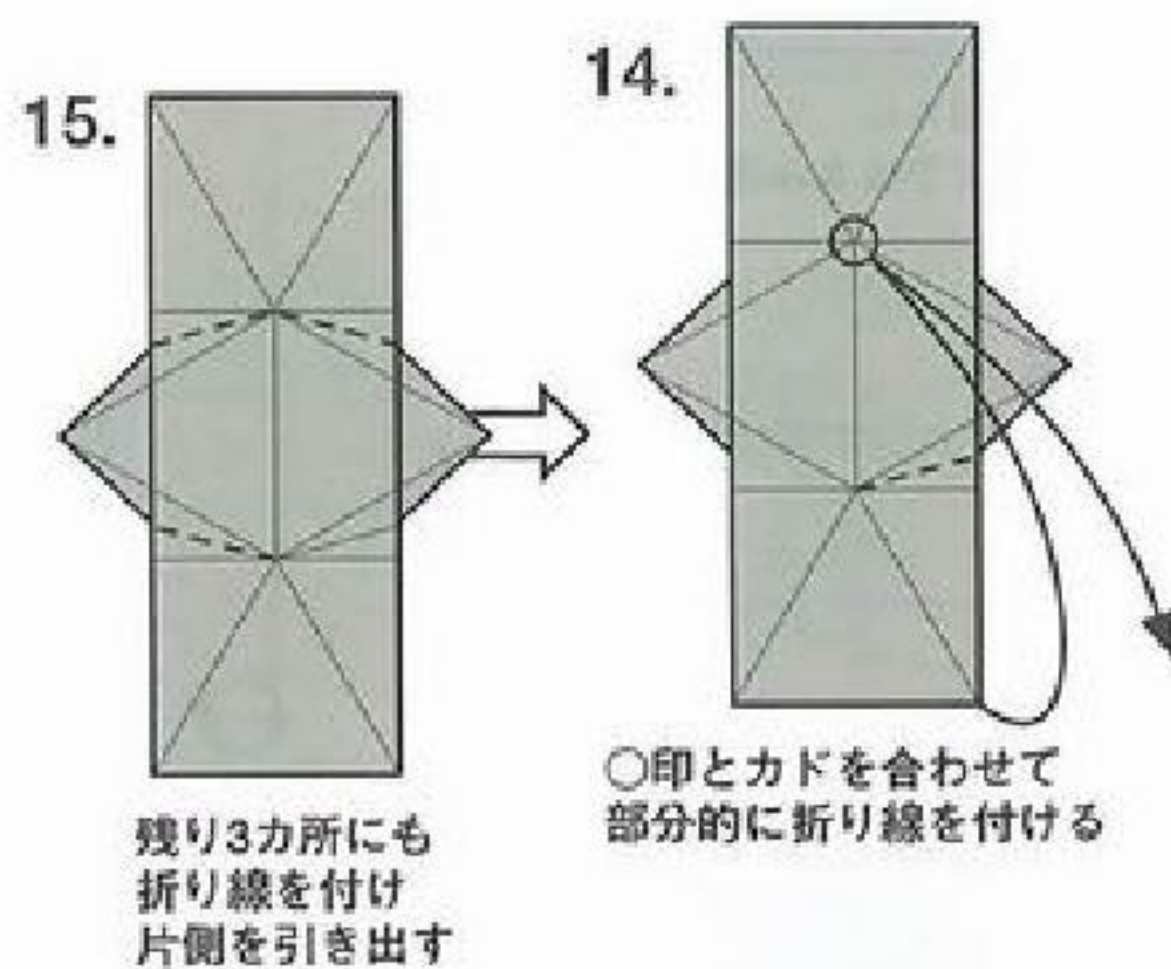
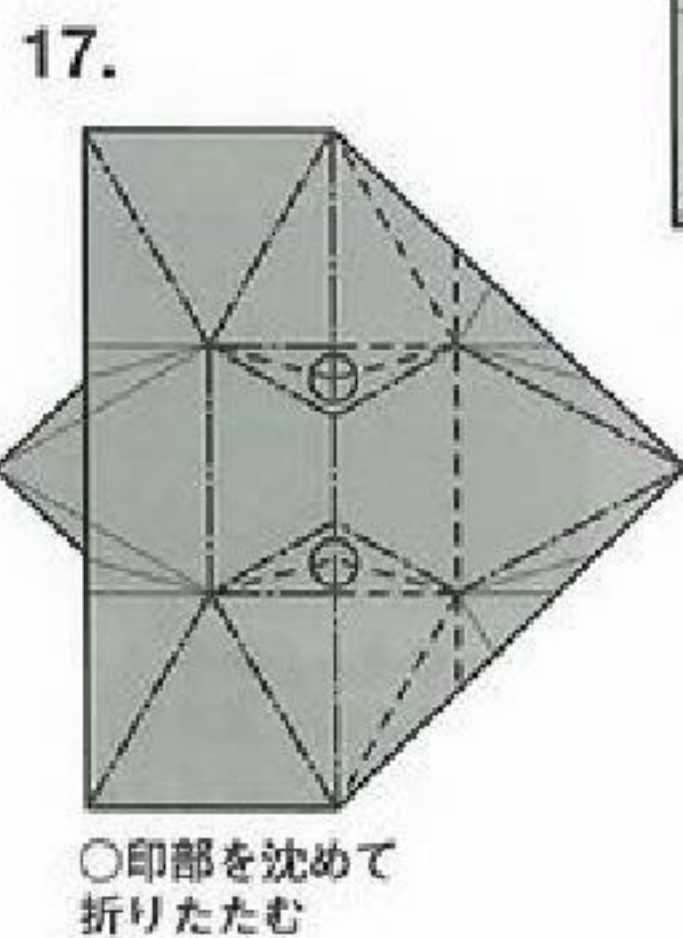
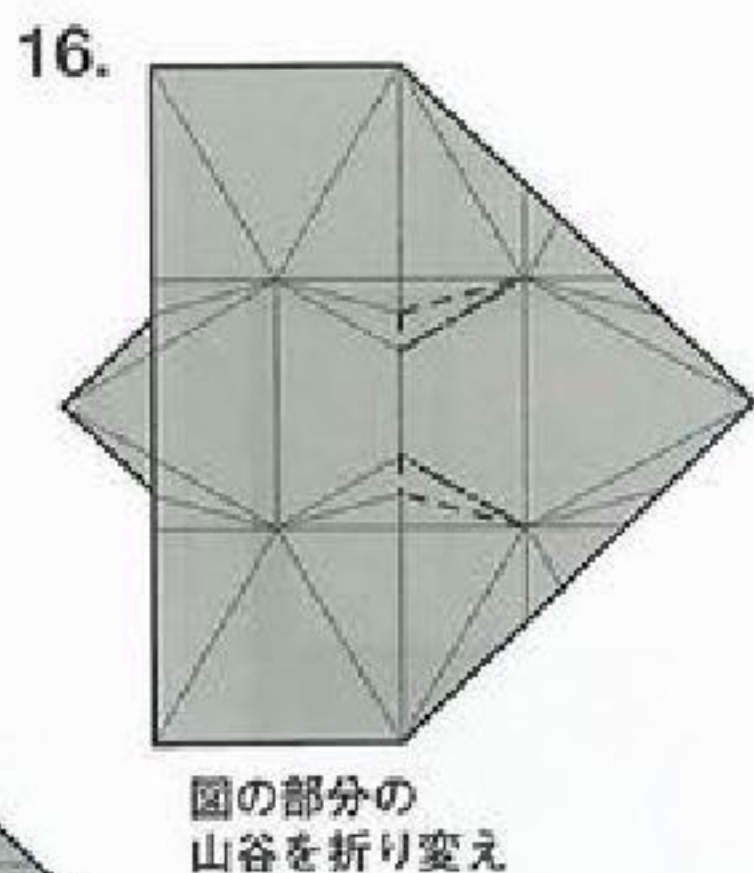
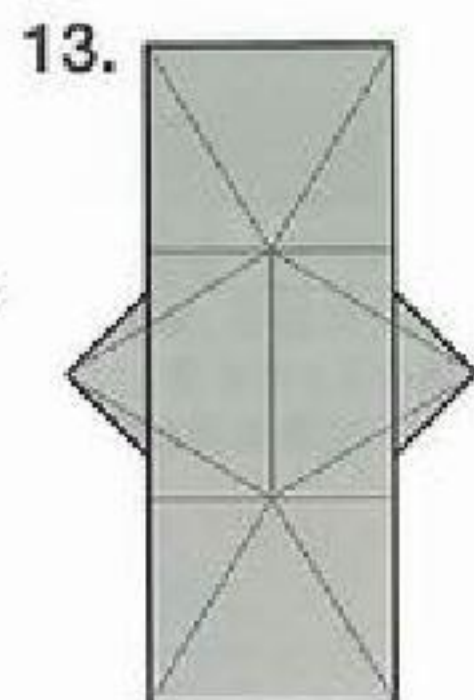
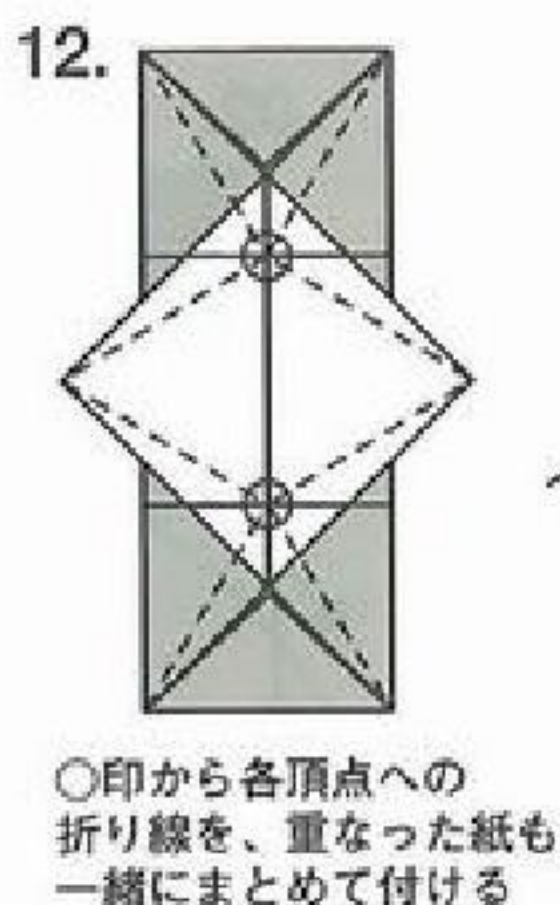
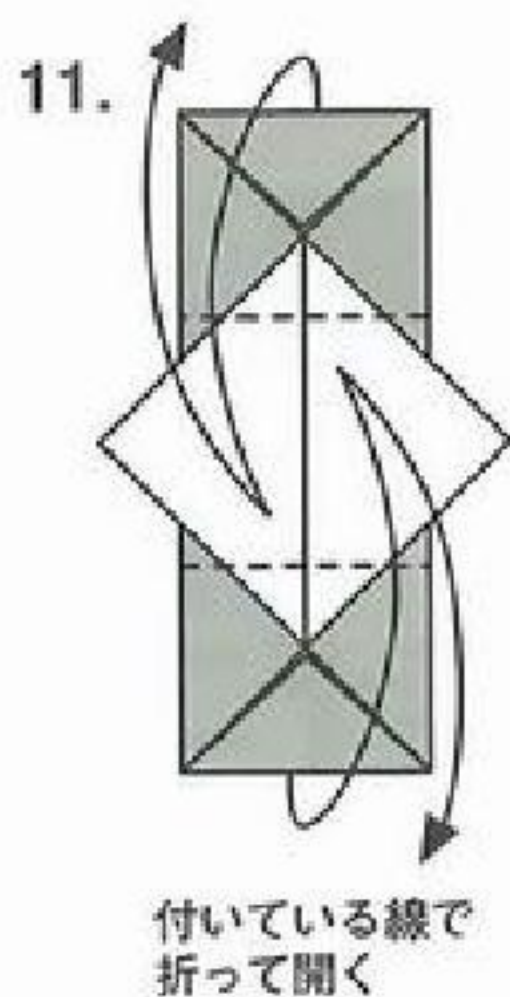
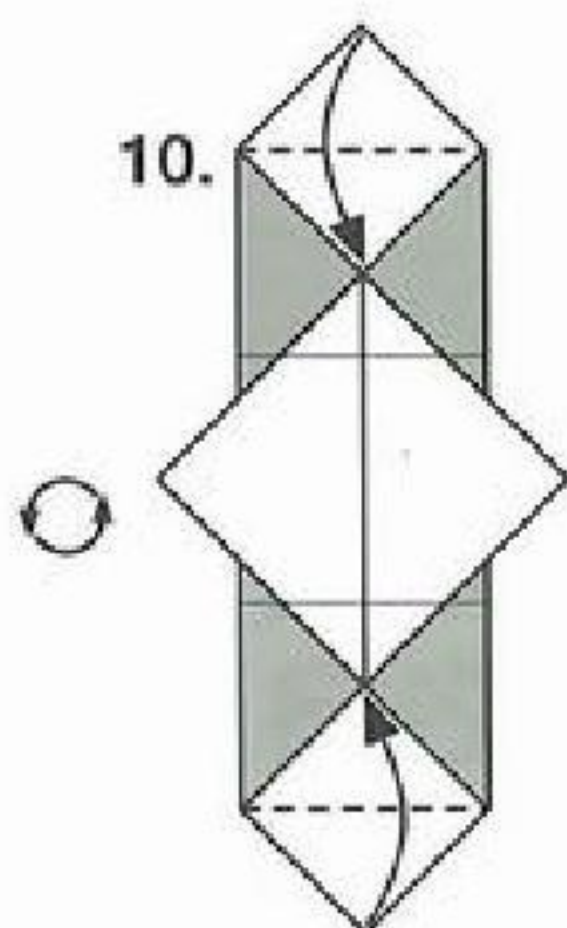


○印間だけ折る

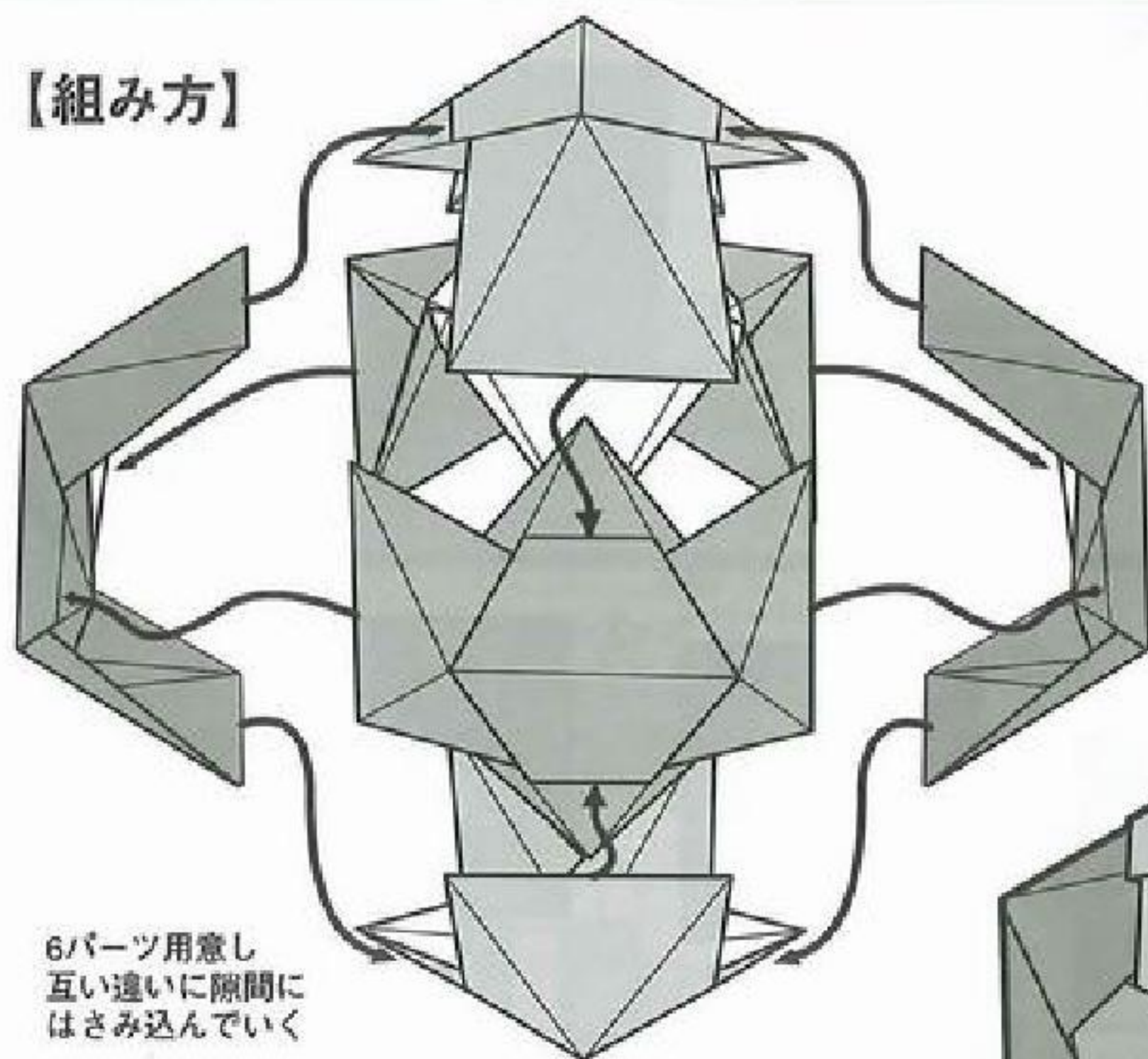
09.



裏の紙を
折らないように折る

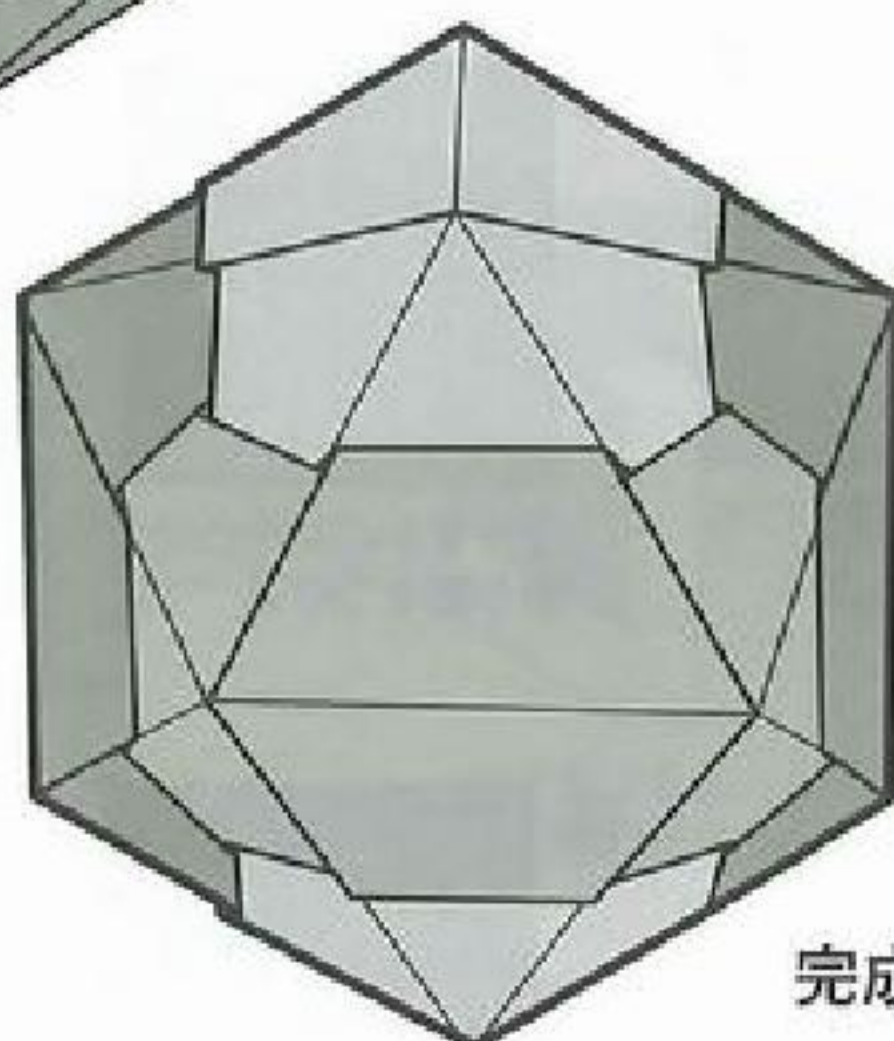
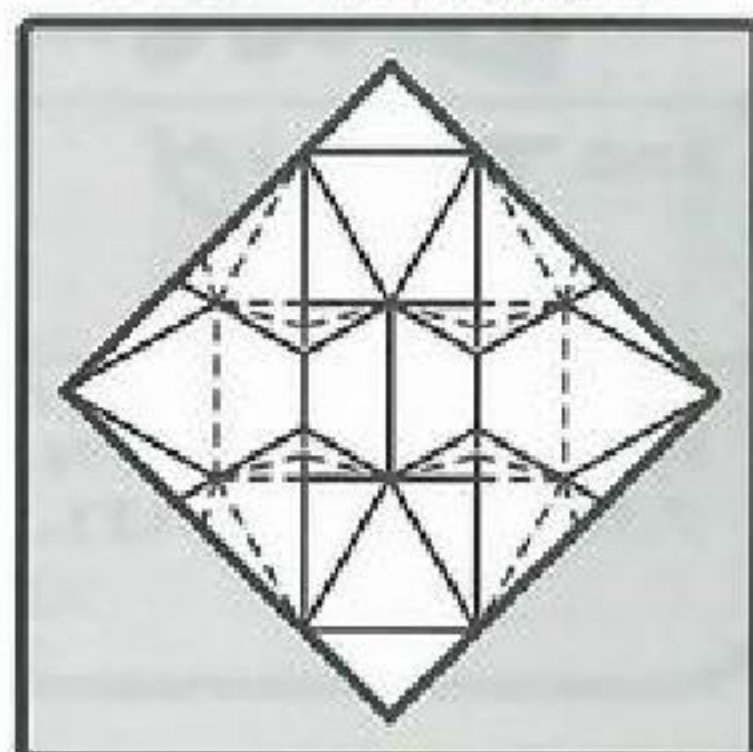


【組み方】



6パーツ用意し
互い違いに隙間にはさみ込んでいく

おまけ 山谷付展開図



完成

折り紙の 周辺

第28回 名刺

Is the Name Something
That Should Be on a
Card?

Origami and
Its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

印 刷した名刺を持たなくなって久しい。必要だろうと感じるときは、手書きを用意していく。また、その場で書く。ある人に「偉いから、偉すぎるから必要ないのね」と言われた。そう感じられるのかなあ。ざっくばらんに言えば面倒になったんです。私はこれこれこういう者です、どうぞよろしく、というのが。これは老化かも知れない。だんだん自由に身軽になっていく。いや

無精になっていくのかな？

たしかに名刺はその人を理解するのに時間の短縮になる。デザイン、肩書きなど、趣味を反映している。名刺を持つ事は社会人の証。仕事上で必要な人も多いだろう。これからよろしく。今後よろしく。機会があったらよろしく。お忘れなく。

手書きの名刺は、タロ氏のエッチングの刷りで失敗したものを切って使っている。失敗といっても、一部かすれたり、インクがのらなかつたりしているもの。捨てるのはもったない。紙は厚いし、名刺にぴったり。片面に住所氏名など書き、片面はジグソーのピースのように、ある図柄の切り取られた一部になっている。犬の鼻先だったり、バラの一部だったり、女性の肩だったり。この人はどの図柄にしようか考えるひそかな楽しみもある。名刺は手書きで充分

という動きに、私はなっている。肩書きはひらがなで「おりがみ」とだけ。

先日、一緒に和紙に関係した仕事をした公務員から、帰りのおみやげに『高級・鳥の子名刺』という名刺用の紙が100枚くらい入っているケースをいただいた。名刺を差し出されて、返すこちらの名刺がなかった。いつも手書きで、その紙を忘れてきて、と言いつつ訳した。その方とは電話やメールで頻繁にやりとりしていたのだが、初めて対面するときは名刺交換が礼儀というもの。なんですね。しまった。

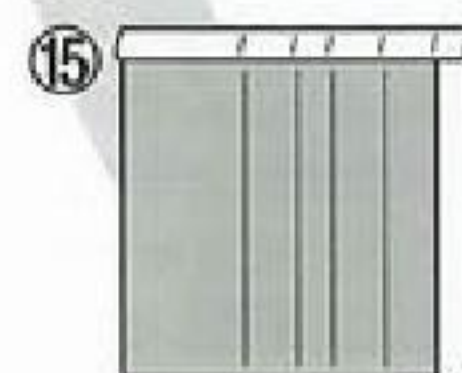
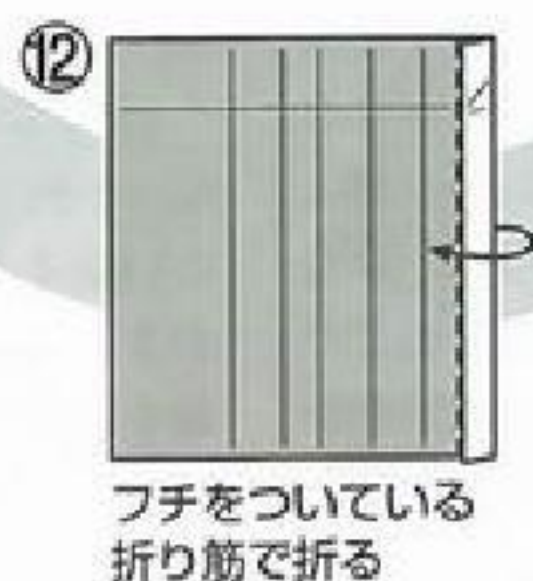
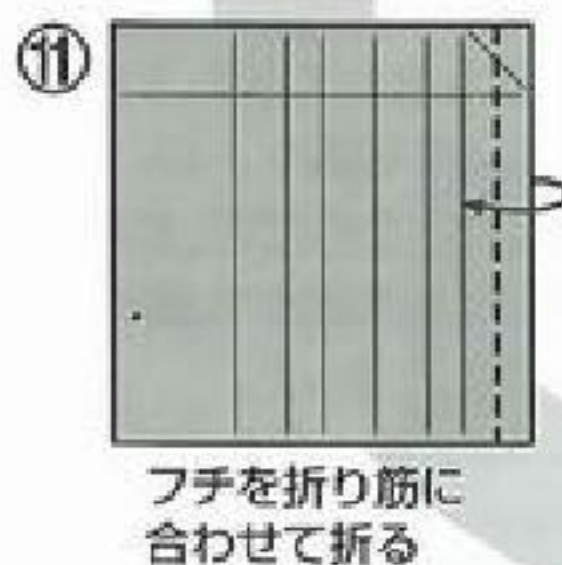
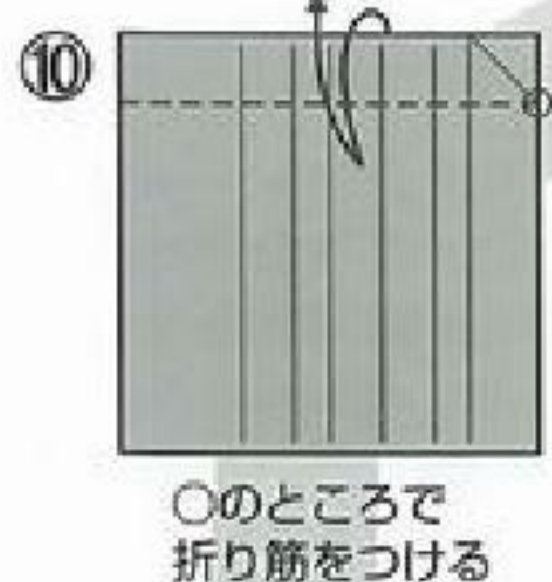
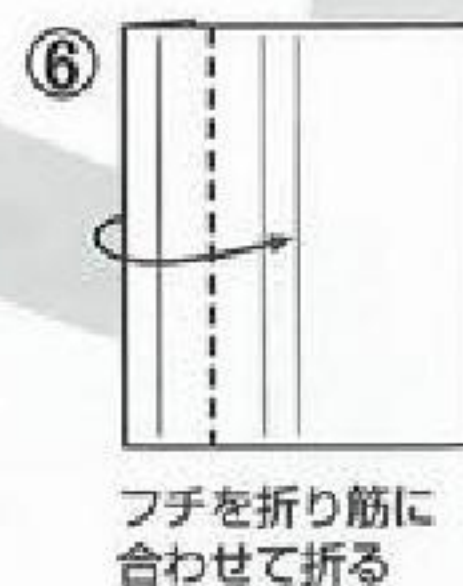
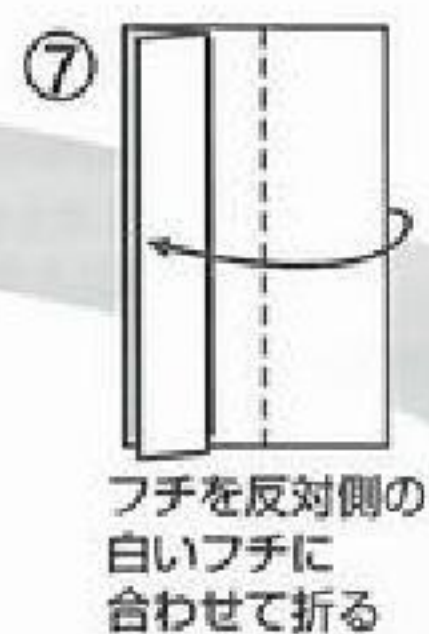
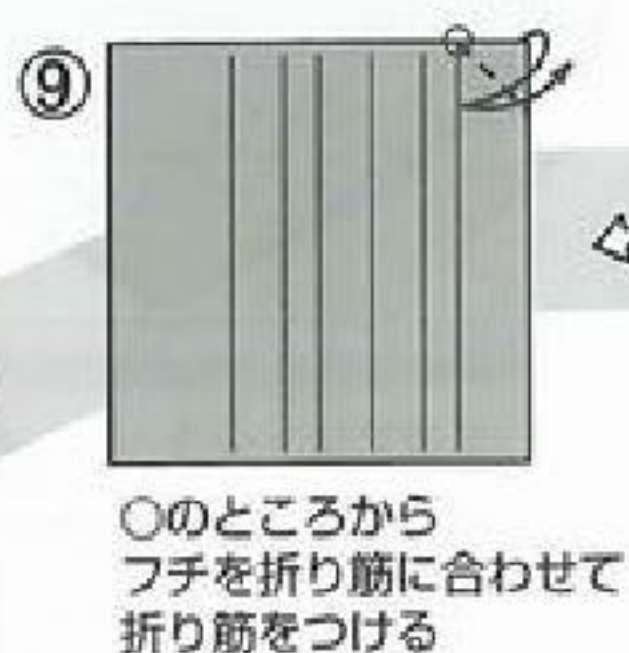
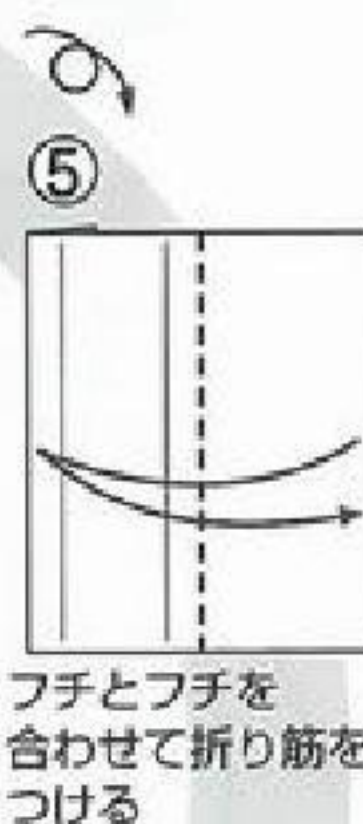
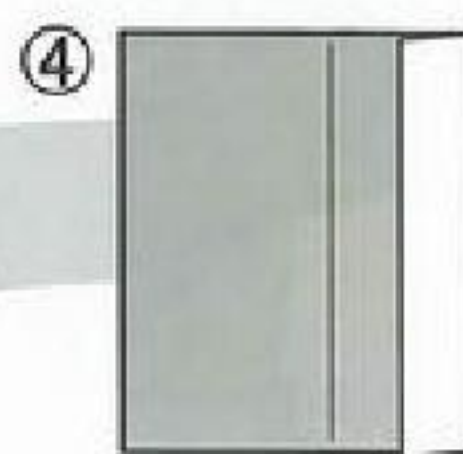
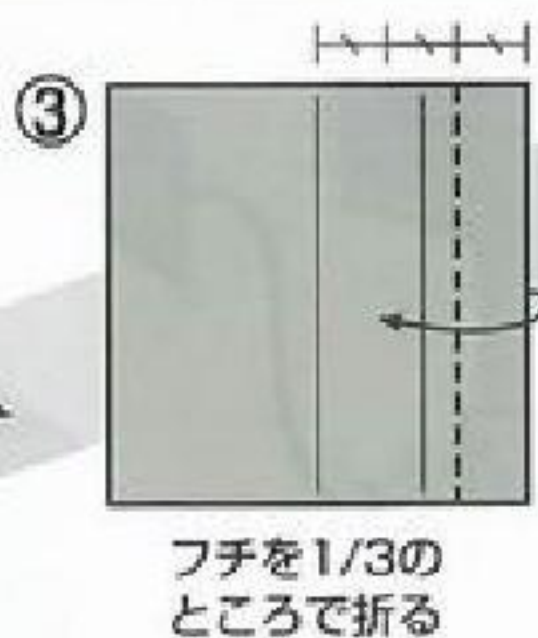
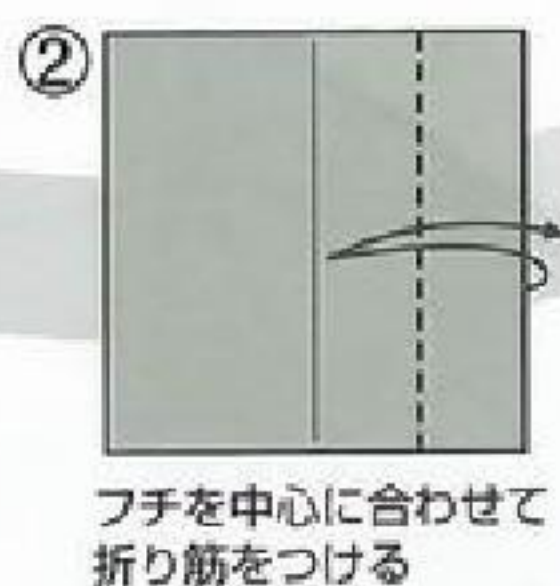
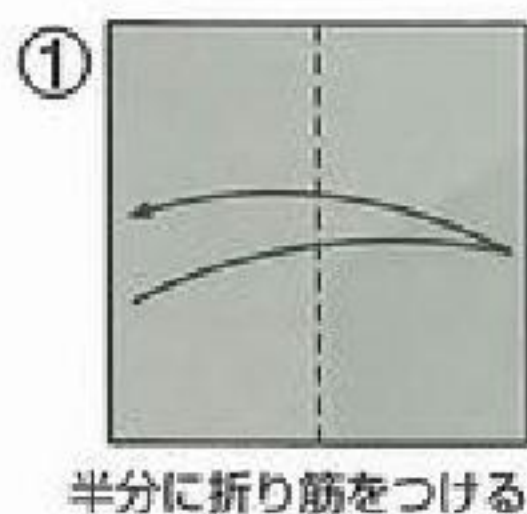
3月になって鳥や獣の動きが活発になってきた。フクロウなど午前中に鳴くこともある。戸を開けると、ふうっと温気がきて、春だ。残雪の上のうるんだ太陽を見ながら、さて、名刺用の紙をどう使ったものかと思案している。

第29回 **T-バッグ**
A Bag with "T"

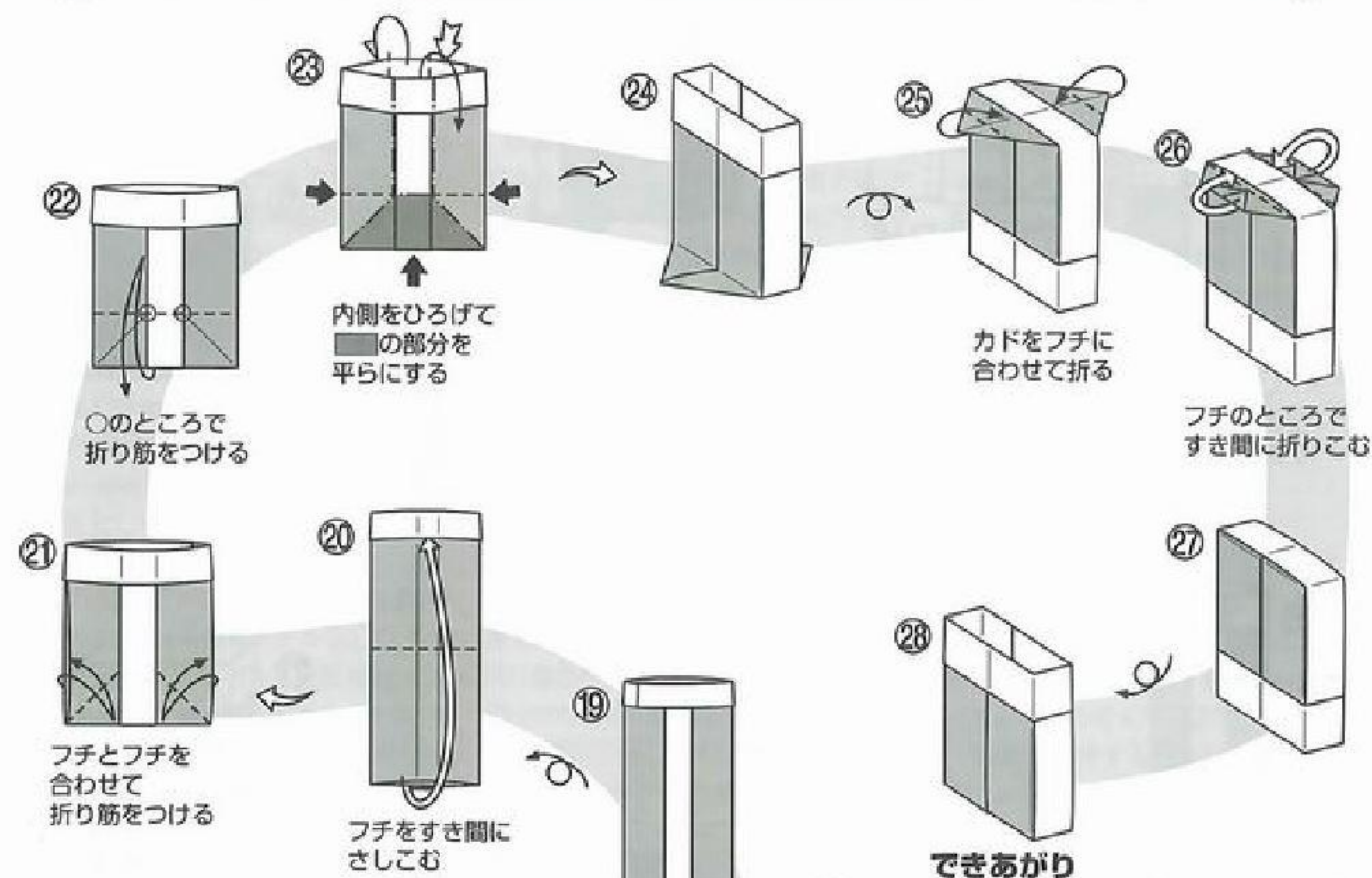
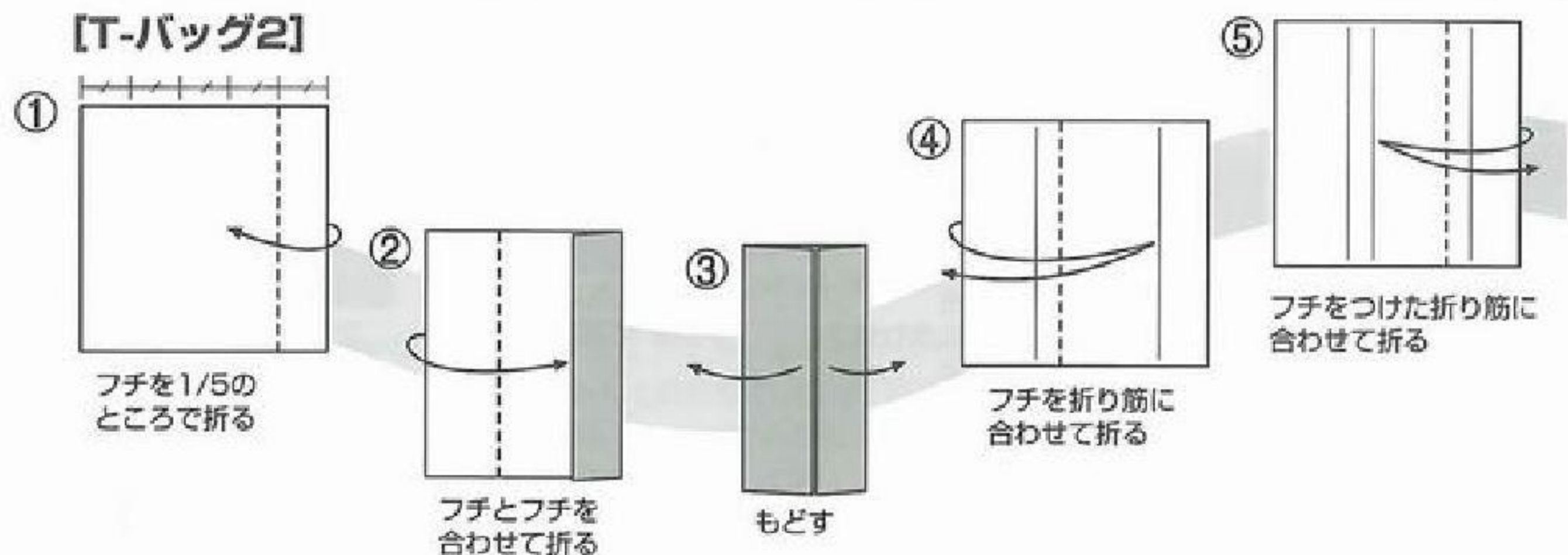
以前ツタヤのCMの仕事の際にたのまれて考えたT字の模様のついたカード入れを使って、しっかりしたバッグを創ることが出来ました。カード入れとバッグ、そのバリエーションを紹介します。

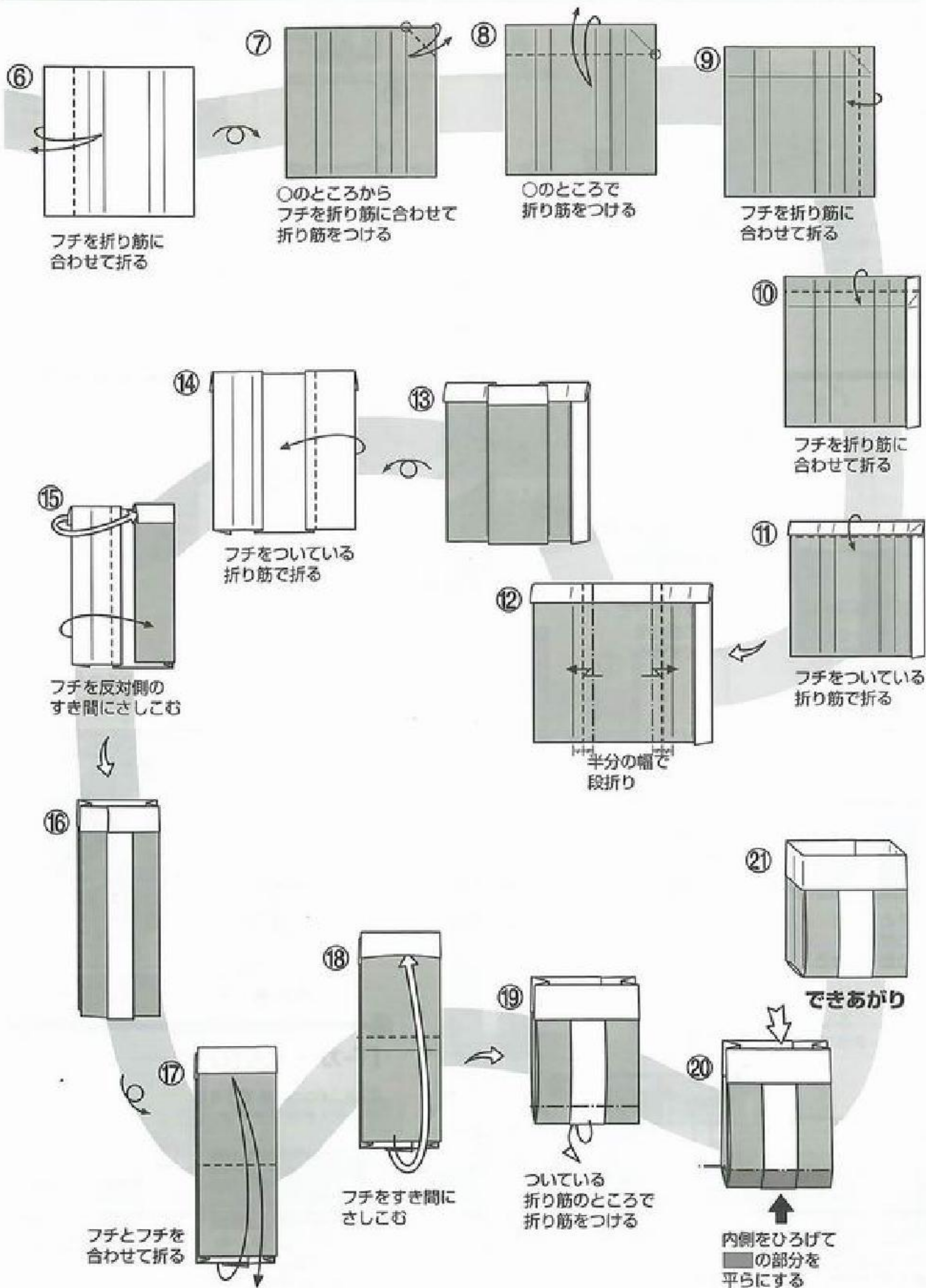


【T-バッグ1】



[T-バッグ2]







創作過程のモデル化試論

—次世代の創作理論構築に向けて—

A Meta-Theory of Model-Designing Procedure for
the Coming Generations of Designing Theories

堀口直人

Horiguchi Naoto

折紙の創作を志す、或いはよりレベルの高い創作を目指す若手に触れることが多くなった。しかし私を含め、こうした若手はどうすれば自分が他の優れた作家に迫るような作品を創り出せるのか日々悩んでいる。レベルアップを目指して、いわゆる「設計理論」のようなものを学んでも、それを創作活動の中でどう生かしてよいのか理解できないままの状態にある。

それもそのはずで、「設計理論」とは創作のための知のなかで言語化、体系化されたものであり、実際の創作活動においては体系化されえない無数の知が同時に動員されている。実際理論を使わずに、こうした非言語的知識のみを使って創作している者も多い。実際の創作とはこれら二つの知のバランスから成り立つものであり、現状では非言語的な知を積極的に体得していくことが、創作活動をより高度化していくのに必要となるだろう。

非言語的な知を理解するためには、個々の作家が実際に行っている創作過程を記述し、それをモデル化して、さらに別の作家のモデルと比較検討することで、作者ごとに異なる考え方や共通する考え方を抽出していくことが最も適切と思われる。津田良夫氏は、「折紙探偵団」98号のクローズアップ記事の中で、創作過程の記述を「非常に貴重で興味深い情報に思える」であり、こうした過程を「しかるべき体裁で文章化しておく必要がある」と言及しているが、私も上記のような視点から同意する。

そこで今回この場を借りて、私の創作過程をモデル化する試みをしてみたいと思う¹⁾。今後多くの作家が自分の創作手法を継承していく中で一つの叩き台になれば幸いである。

私はジャバラ折りを専門としており、目黒俊幸氏が考案した「横分子

蛇腹法」²⁾を用いながら創作を行う事が多い。その意味で、比較的「設計的」な手法をとるタイプであろう。

まずは題材を設定し、画などを描きながらそれを折紙的にデザインする。デザイン化の過程で、対象をパーツに分け、4つに分類する。その4つとは、

- A. 折り方が既知で1パターンのみ
- B. 折り方が既知で複数パターン存在
- C. 折り方未知で方法が未定
- D. 折り方未知だがなんとなくできそう

である。例えば、拙作「佐々木禎子像」³⁾（写真1、図1）の場合、表1のように分類できた。Aパーツは作品の中において、技術的に新しいポイントや作品の見所となる場合が多い。この中でCは実際に紙を持って試行錯誤でパーツを折り、AかBパーツにする。出来ない場合、作品は折れない。この時、パーツの作成は次の配置を考慮しつつ行われていることに注意されたい。

次のステップではこれらのパーツを実際に用紙上に配置する。まず、Aパーツを優先的に配置し、その後、Dパーツに有利に働きそうな領域を確保出来るようにBパーツの中から最も適当なパーツを選択し、配置していく。例えば禎子像の場合、羽織と着物の下側の部分を折るためのカド配置は確定なので、そこから袖の部

分を出す領域を確保できるように、手や前髪等のBパーツを配置していった。

その後、余った領域で実際にDパーツが折れるのかを別折りで確認する。なんとなかなる場合が多いが、もし失敗すれば最初からやり直しとなる。Dパーツの折りが確定した後は、さらに余った領域を帯領域やカドの領域をうねらせて潰す。この場面において完成形の厚みをコントロールするために「横分子蛇腹法」は非常に重要な役割を果たしてくれる。首の部分は細くしたいので主に肩や胴の部分に不要部を当分して食わせるようにするが、例えば腰のくびれを作りたいときはその部分の厚みを削るなど、色々微調整が効く。

このようにして展開図を仕上げた後、実際に1枚で折る。これが通常の流れである。一連の作業工程を大まかに分類すると

1. デザインとパーツ化
2. パーツの作成と選定
3. カド配置
4. 確認と後処理（洗練化）

に分けられる。次に、これらの各工程において、どのような知識がそれぞれ活用されているかを考えてみよう。

折紙を創作するための知識として今までよく言及されてきたのは経験的な知識である。例えば他者の作品を折ってみ



写真1 佐々木禎子像

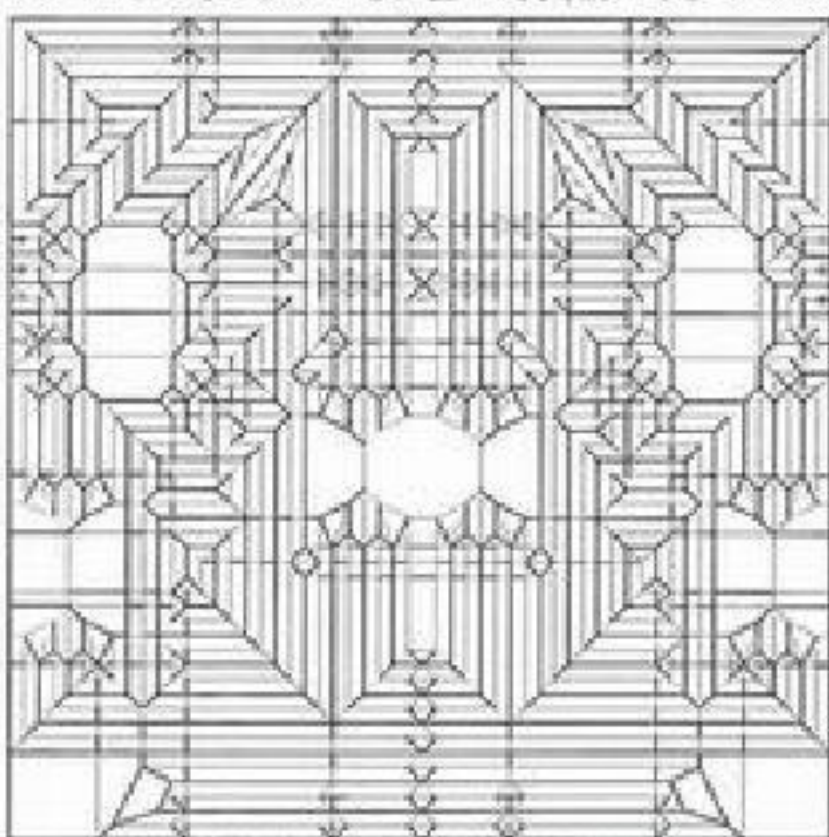


図1 佐々木禎子像展開図

創作過程のモデル化試論

—一次世代の創作理論構築に向けて—

A Meta-Theory of Model-Designing Procedure for the Coming Generations of Designing Theories

堀口直人

Horiguchi Naoto

たり、展開図を検討することは創作にプラスになると考えられている。しかし、創造的な活動はただ単に他者の行為を反復し、蓄積すればできるようになるものではない。そうした蓄積に何らかのプラスアルファの価値を付加しなくてはならない。そのために経験知の中から何らかの問題（～を折りたい）を見だし、その問題を解決するような仮説（～すればできるんじゃないか）を立て、さらに経験値を活用して仮説を現実化（～のやり方を使えば仮説通りになる）する作業が必要となる。こうした仮説を設定し、検証するような思考法²が創作の中で用いられている知の一つと考えられる。

一般には経験を用いて創作する手法と対比する形で設計による創作が持ち出されることが多い。しかし、今回のモデルからは、経験に関わる知と仮説形成に関係する知という二つの知を組み合わせる創作は行われていると考えることが出来る。設計理論はこの2種類の知の組み合わせ方のパターンや運用法を類型化し、体系化したものと見なすことが出来よう。いわば設計理論とはガイドのようなものであり、創作の段階で現れる複雑性を大幅に縮減する働きを持っている。

先ほど作業の工程をいくつかに分類したが、そのそれぞれのプロセスで経験的な知と仮説形成的な知がどのように用いられているか考えてみる。まずCパーツをAパーツへと処理する新しいパーツの作成の段階においては、まずパーツを折り出すための基礎となる折り方のパターン、言い換えるとパーツを折り出すための得

意手となるカドの折り込み方、そして見立てのパターンが経験値として考えられる。

例えば吉野一生氏の「虎」の頭部におけるカドを段沈め折りしてヒダを大量に出す方法、または22.5°のカドを辺に沿って直角に折ってから、引き出し折りをする方法³などがカドの加工の基礎と言える。こうしたものを体得していれば、カドを折り込む際の一つの目安を得ることが出来る。そして多くの作品から見立てを得るためのヒダやカドの“見方”を経験的に得ていけば、折り込んだ形から目標とするパーツを作り出せるだろう。

しかし、こうした経験による知識を組み合わせたり、別のものに転用するためには仮説形成的な知識が必要となる。今まで見なかったような革新的な折りや見立ての組み合わせであったり、思わぬものの応用であったりすることが多い。このような複合化を可能にするのが仮説による思考である。

➤ うして様々な種類のパーツを折れる
➪ ようになったり、同じパーツでも複数のパターンを持てるようになってくると、それ自体が経験的な知となって作家の中に蓄積していく。しかし、パーツはそれ自体で完結するものではない。他のパーツと組み合わせられて、一つの作品の中にとけ込んで初めてその意味を持つ。その意味において、作品の中でどのようなパーツを使うか、また作品に合わせて既知のパーツをどのように使いやすい形に修正するかを決定するのは仮説形成的な知に基づいて行われていると考えられ

る。ここでのパーツ選定の基準や、使いやすい形とは、私の場合で言えば、Dパーツを折りやすくなるような形になるように考慮することで決定される。

カド配置においても同様のことが言える。作家は正方形用紙上のだいたいどこへんから何を折り出せばよいかという、感覚的な位置関係を経験的に持っている。分かりやすい例で言えば、ダイヤ型（編注：対角線対称）で動物を折る際、最初に紙を何：何に分割し、どこから足を出すかという問題がある。手慣れた作家はいくつかの分割パターンを自分の得意手として持っており、通常その中から適切なものを選んで折る。

ジャバラの場合は、何等分に分割するのが適切かが重要な問題となる。私の人物造形の場合、カド配置はほぼ確定しているが、その場合においても、頭部側の紙の角を何に使うか、足を紙の角から出すか辺から出すかが一つの問題となる。襖子像の場合、着物を折るために足側の紙の角を使うので、足は辺からに確定し、また髪の毛に特別細い部分は必要なさそうであったので、羽織を頭側の紙の角から出すことにした。いくつかある経験的な位置関係から、適切なものを選び出すのは、他のパーツとの関係や、特に私の場合Dパーツとの兼ね合いから、仮説形成的に行われる。

こうして各工程において経験的な知識と仮説形成的な知識がどのように使われているかを大まかに分類すると表2のようになる。つまり経験によって候補を作り出し、それを仮説によって選び出すという

パーツ	襖子像の部分
A	羽織（胴部）、顔
B	前髪、指、着物（胸元）帯、耳、脚
C	おさげ、着物（裾）
D	足、羽織（袖）

表1 佐々木襖子像における各パーツの分類

創作の作業	用いる経験知	仮説形成の際考慮すること
C, D パーツ作成	パーツ作成の基礎となる折り込みのパターン	デザインとの一致、用紙に収めるにはどうしたらよいか
パーツの選定	今まで折ってきたパーツの種類やバリエーション	他パーツとの統一感、用紙に収めるにはどうしたらよいか
カド配置	用紙上の位置感覚	BやDのパーツをどう処理するか

表2 創作過程で用いる二つの知で考慮される点の対応

○堀口直人(ほりぐち・なおと)=1983年
神奈川県生まれ。4月から大学院生です。今
後、コンベンションなどで創作に関する
お話をする機会を設けたいと思います。



作業が各段階において行われており、その仮説による選定の基準となるのが実際に今行っている工程段階以外の工程段階である。折紙の創作過程はそれぞれの段階における相似的思考法が連結したり、入れ子状に組み合わせながら相互作用しているイメージで捉えることが出来るよう(図2)。

さて、ここで今まで何度も話題に出してきたDパーツの意義について簡単に話しておこうと思う。何故これをおくことが重要なのか。普通に考えれば、こうした部分をおかず、全てAやBパーツで処理した方がよりよいものが作れるように思えるだろう。

現在の私の考えによれば、まずこうした部分をおくことで飛躍的に完成の確率が高まること、利点としてあげられる。あえて構造の中に“ゆらぎ”を設けておくことで、配置の段階において自分の意図や思惑通りにいかなかったとき(実際そうしたケースの方が遙かに多い)にその被害を最小限に抑える機能を果たす。

また、自分が完全に制御できない部分をおくことで、作品が自分の意図を超える可能性の余地を残しておくことも出来る。実際、後々自分の作品を見ておもしろいと思うのはこうした予想外の部分から生まれたパーツが多い。

今回自分の創作過程を振り返ってみることで、創作の際我々がどのようなことを考えているのかについての

モデル化を試みてみた。重ねて強調しておくが、創作したことはないが創作をしてみたいという人は別として、このモデルは模倣するためにあるのではない。少しでも創作をしたことがある方は、まず自分の創作過程のモデルを構築してみて、それをこのモデルと比較検討することで初めて今回の試みは価値を持つ。

何らかの一致点が見いだせればそれは創作活動における普遍的な要素を見いだしたことになるし、相違点があればそれは自分の作風の確立に繋がるだろう。こうした意味から今回の私のモデルが創作する上にあたって持つ欠点を指摘しておくのは重要と思われる。

まずこのモデルだとパーツに分割し、それを組み合わせていくので作品の完成が、試行錯誤を多く用いるモデルに比べて速い。しかしその代わり使い回しが多くなるので、画一的で新鮮味に欠けやすくなる。傍目には同じような作品を作り続けているようにしか見えないかもしれない。これを解決するには多彩なパーツを増やしていくことが最も容易な方法だろう。さしあたってこのモデルに基づいた創作法を続けていくならば、パーツを増加させるために既存作品を消化して経験知をためることが私の目下の課題となると思われる。

最後に今回のモデルから想定出来ることを指摘しておきたい。今回のような経験と仮説形成に知識の動員を分けるモデルは、折り図を見て作品を折る際にも適用できるのではないかと予想している。

最近、普段あまり折紙を折らない人に折り図を見て折ってもらう作業を観察し、いくつか気付いたことがあった。それは折り手は折り図の折り記号を全て見て次の折りを判断しているのではなく、いくつかの情報から大まかな折りの“あたり”をつけて折っていること、そしてその“あたり”の精度が折りの巧拙に繋がることである。

これを今回のモデルと合わせて考えると、折り手の中には紙の動かし方ともいえる経験知があり、それをある一部の記号や次の図などから仮説形成的に推定し、どのように折ったらよいか判断しているのではないだろうか。複数の折りで一気に紙を畳むような、経験で処理できない複雑な工程の場合、いくつかの記号や図の情報から一つの工程をいくつかの部分に分け、それごとに仮説を立てながら少しずつまとめていく。

上記の説はあくまでも仮説であるが、今後、折紙を折る際、我々の脳内ではどのようなことが起こっているのかについて、認知科学的な視点に立った実験心理学による検証が行われることを願う。

さらに、もし今述べたように折紙の創作、或いは折り図を見て折ることが仮説形成思考によって行われていることが明らかになれば、折紙が創造的思考、問題解決思考を育成する教育素材として意義を持つことを実証的に裏付けることが出来るだろう。特に折紙では触覚と視覚を活用させながら、そこで立てた仮説を検証することが出来るという利点がある。

折紙が創造的思考を高めるという考え方は今では広く流布しているが、これを検証しようとする動きは、現在活発な折紙を諸科学に応用しようとする動きの中でもあまり見られてこなかった。こうした仮説を検証することが出来れば、教育分野への貢献だけでなく、折紙を普及させる足支えとしても意味を持つのではないだろうか。

*1 折紙探偵団98号 2006 p.11

*2 今回のモデル化に際して、私の創作理論だけでなく、折紙探偵団の記事、その他多くの折紙に関する書籍、インターネット上の創作過程に関する記述なども参考にさせて頂いた。

*3 積分子蛇腹法についてはスペースの関係上ここでは詳しく述べることは出来ない。是非目黒氏のホームページ「ようこそ折紙のホームページへ」(<http://www.geocities.co.jp/HearthLand-Oak/5497/>)を参考にさせて頂きたい。

*4 折紙探偵団100号 2006 p.34

*5 この考え方はC.S.Peirceの「abduction」という概念を背景としている。興味のある方はそちらも参照されたい。

*6 例えば、折紙探偵団88号、マーク・カーシェンバウム作「ジャイアント/バンダ」の折り図3~9(p.22)など

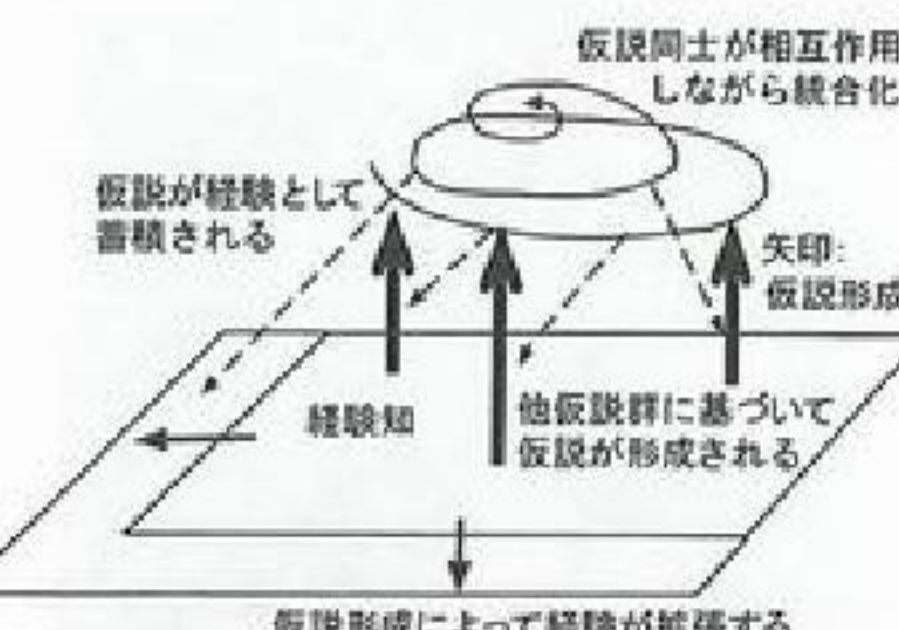


図2 創作活動のモデル図

過去の折り紙に学ぶ 第6回

Learning from the Paperfolding of the Past

デビッド・リスター
Writer: David Lister

訳: 羽鳥公士郎
Translator: Hatori Koshiro

西洋における折り紙革命: 1950年から1960年

The Paperfolding Revolution in the West, 1950 to 1960

折り紙は英国や米国に古くから存在していましたが、それはいつも個人によってばらばらに実践されていました。折り紙の運動といえるようなものは一切なく、20世紀初頭スペインのミゲル・デ・ウナムノによる、鶴の基本形による新しい折り紙も、北ヨーロッパにまで広がることはありませんでした。しかし、1950年から1960年の短い期間に、いくつかの偶然が重なったことによって、折り紙は英国と米国にまたがる運動となり、それがきっかけとなって、1960年代の西洋で新しい作家が次々と出現し、折り紙が急速に発展することになります。

この物語の口火を切ったのは、1945年、ニューヨークのガーション・レグマンです。彼は子供のころから折り紙を知っていましたが、学校を卒業するとそのことも忘れてしまいました。しかしこの年、足首を骨折して入院したレグマンは、暇をつぶすために再び折り紙を始めます。かつて折り紙を教えてくれた友人サイ・エンドフィールドが、「蝶ネクタイ」という作品を本で知ったといっていたので、レグマンはその本を探し始めました。彼は書誌学者であり、ニューヨーク公共図書館や議会図書館といった米国の主要な図書館に通いながっていました。見つかる限りの折り紙の本をリストにまとめ始めた彼は、旅行雑誌「Japan」1922年5月号にフレデリック・スタールが寄せた記事

に目を留めました。スタールは、日本滞在中に折り紙を見つけたと書いており、当時としては珍しい図版を掲載していました。1845年頃の「Kannomado」(寒の窓・現在では「かやらくさ」として知られています)と紹介されている本について、スタールは「トンボ」がもっとも印象的だと書いていますが、この記事には折り方が後半しか掲載されていませんでした。レグマンはどうしてもトンボを折りたいと思い、「寒の窓」を探し出すことを最優先課題としました。

1952年、レグマンは小冊子「A Bibliography of Paper-Folding (折り紙文献集)」をロンドンで出版します。これには、英語の本だけでなく、スペイン語やフランス語、ドイツ語や日本語の本も含まれていましたが、中でも重要なのはアルゼンチンのビセンテ・ソロルザノの本が何冊か含まれていたことで、その中に当時米国では知られていなかったウナムノの伝統を受け継ぐ折り紙がありました。レグマンはこの小冊子を、興味を持ちそうな人には誰彼となく送り、それ以来折り紙の歴史の研究が大いに発展することとなりますが、しかしこの分野の研究者は今日でもごくわずかです。

同年1月より、日本では吉澤章の革新的な折り紙がアサヒグラフに連載され、銀座で展覧会も開かれました。レグマンは、折り紙の本について日本にも問い合わせをしていましたが、その返信の1つが吉澤のこ

とを熱狂的に伝えていました。レグマンは吉澤に多くの手紙を書き、1953年、吉澤からレグマンの元に返信が届いたことで、日本で広く知られるようになってから2年後、吉澤が西洋でも知られるようになりました。

同じ1953年に、レグマンは米国を離れフランスに渡りました。そこで彼は、パリで吉澤の展覧会を開けないかと考えました。吉澤は寛大にもレグマンに作品を送り、展覧会が1955年10月にアムステルダムで開かれました。これが西洋における初の折り紙展となり、西洋人の目が、吉澤の芸術と、折り紙の想像を超える可能性に開かれました。

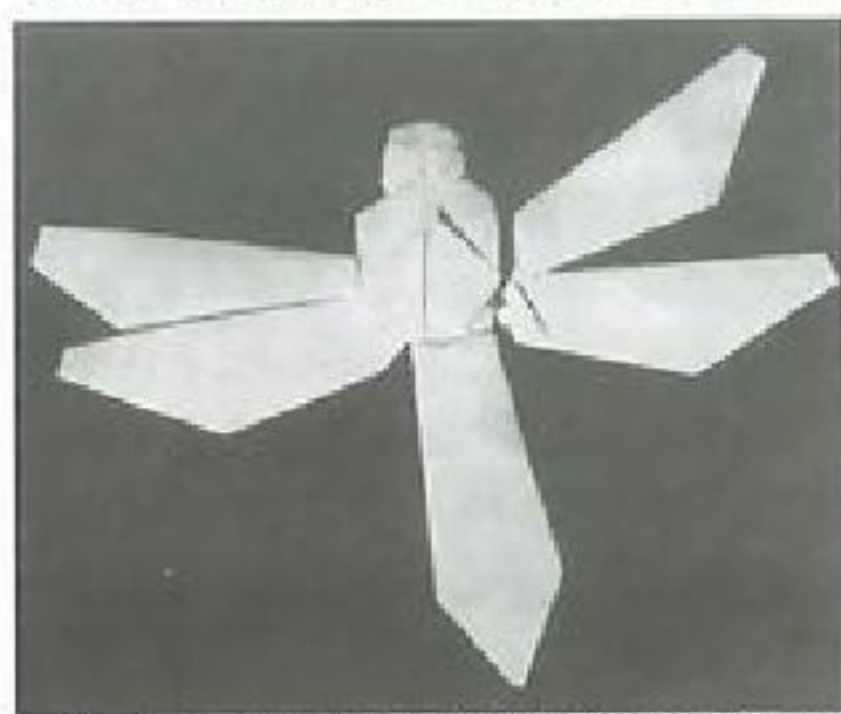
レグマンはまた、ある本にはさまっていたチラシでソロルザノの住所を知ると、アルゼンチンに手紙を送りました。ソロルザノからの返信で、ウナムノの後継者たちと彼らの鶴の基本形を使った作品が知られるようになりました。さらに別の偶然から、同じくアルゼンチンのリジア・モントーヤとも文通をするようになりました。

レグマンは、ジャック・スキルマン、ジョージ・ロード、マーティン・ガードナーといった米国の折り紙人たちとも文通を続けていました。1955年ごろ、レグマンの示唆により、ロードが座布団折りからの鶴の基本形やかえるの基本形を使い始めましたが、これは後に西洋の折り紙において重要な基本形となりました。

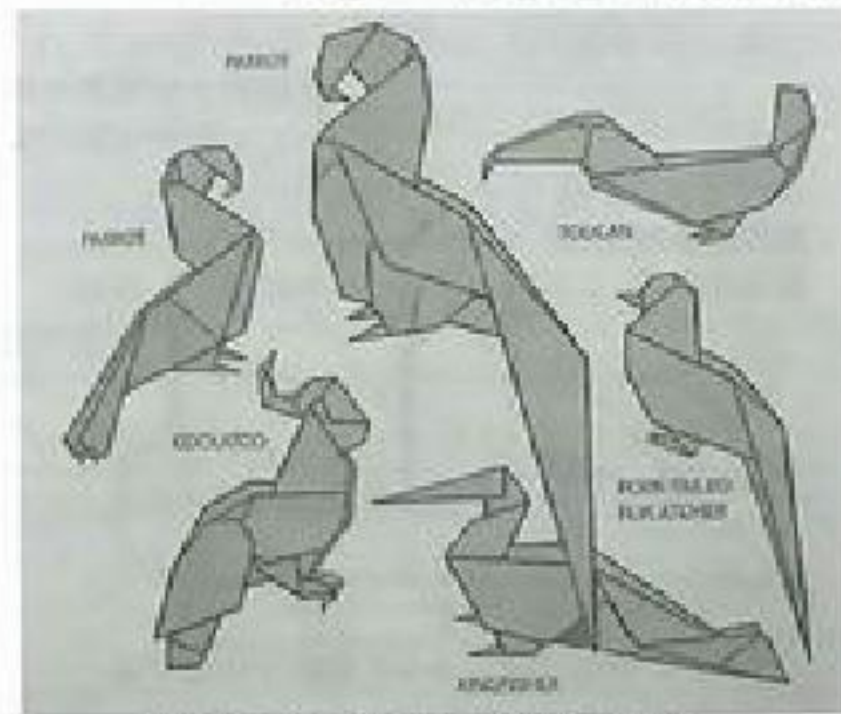
一方英国では、1946年にアルフレッド・ベストールが子供向けの



ミゲル・デ・ウナムノとその作品



ロバート・ハービン制作、「かやらくさ」の「トンボ」



ビセンテ・ソロルザノの作品

○David Lister(デビッド・リスター)=1930年生まれ。5才のときに父親などから折り紙を習い、それ以来興味をもつ。1953年ごろから本格的に折り紙の研究を始める。British Origami Societyの創設にも尽力し、1998年から2002年まで会長を務める。現在はBOSの副会長。



リジア・モントーヤ

『Rupert Annuals(ルーパート年鑑)』で折り紙を紹介したことで、折り紙熱が再燃していました。そして1953年、有名な手品師であったロバート・ハービンが折り紙を再発見し、熱心に折り紙を探求していました。

ハービンは、『The Limping Man(跛の男)』という映画に手品師として出演した際、撮影の合間の待ち時間に折り紙をしていました。これがこの映画の監督の目に留まります。この監督が、偶然にも、レグマンの学生時代からの友人であったサイ・エンドフィールドでした。彼はハービンに、ポンド紙幣で折る孔雀の折り方を教え、そしてフランスにいるレグマンの住所を教えました。

レグマンと同様、ハービンも折り紙の調査を足早に進め、ウナムノの娘フェリサとも連絡をとっていました。ハービンとレグマンとの出会いは、双方にとって有意義であり、互いに調査結果を交換し合いました。1955年、ハービンは、BBCのテレビ番組で折り紙を教えたことをきっかけに、折り紙の本を書く決心をしており、レグマンから受け取った情報は時宜にかなっていました。彼は本の中に、レグマンの手紙から、1880年頃にヨーロッパに伝わったことをレグマンが見出した「羽ばたく鳥」や、吉澤についての記述を含めることができました。また、スペインの折り紙作品や、当時手品師の専売特許だった紙幣折り紙も含めました。

日本語の「折り紙」という言葉を初めて英語圏に紹介したのも、この本です。

さまざまな折り紙を1つにまとめ、歴史についても言及したこの本『Paper Magic』が1956年にイングランドで出版されると、たちまちベストセラーとなり、その後何年にもわたり、西洋における折り紙の標準的な入門書となりました。さらに特筆すべきことに、日本語にも翻訳されています(訳注:日本語版については、本誌106号「折紙図書館の本棚から」参照)。

再びニューヨークに目を転じると、1953年頃、リリアン・オッペンハイマーが折り紙を再発見していました。羽ばたく鳥の折り方を知りたいと思っていた彼女は、エミリー・ローゼンタールのクラフト教室でついに折り方を学びます。さらにそこで折り紙愛好家フリーダ・ローリーと出会い、2人は折り紙を多くの人に教え始めます。リリアンの息子で数学者のジャック・クラスカルも、彼女の影響を受けて折り紙をしていました。彼はあるとき、ケンブリッジ大学にしばらく滞在し、統計学部のカリ・ダニエルズと会います。クラスカルの帰国後、ダニエルズはケンブリッジの書店で『Paper Magic』を見つけ、クラスカルに知らせました。クラスカルはその本を取り寄せ、母の元に送りました。

『Paper Magic』はオッペンハイマーにとって啓示的な書物でした。彼女はすぐにもハービンに会おうと決心しました。幸運なことに、彼女の娘ロザリー・イブニングがロンドンに住んでおり、彼女は毎年娘と孫に会いに英国を訪れていました。そこで1957年、リリアンはハービンと会うことができました。これは非常に重要な出会いとなりました。ハービンはレグマンに手紙で彼女を紹介し、レグマンを通じて、アメリカの折り紙愛好家や日本の吉澤、アルゼンチンのソロルザノとモントーヤにオッペンハイマーが紹介されました。ここに、世界的な折り紙ネットワークが出現したのです。

リリアンは、英語の「paperfolding」ではなく日本語の「origami」をあえて使い始めました。「オリガミ」という言葉の響きが魅力的だと考えたからです。彼女は折り紙の普及に力を入れますが、1958年7月にニューヨークタイムズの有名記者マイヤー・バーガーが書いた折り紙の記事が、電撃的な効果を生みました。リリアンはニューヨークのあらゆるテレビ番組に引っ張り馬となり、全く無料で折り紙の宣伝ができました。こうして、折り紙が米国に市民権を得ました。

リリアンは1958年10月にニューヨークの日本センターで折り紙教室を始め、それを「Origami Center」と名づけました。また、ニューヨークの教室に参加できない人のために、機関紙「Origamian」を刊行しました。最初の号から、吉澤が使用していた折り図記法が採用されました。

1959年3月、リリアンは夫とともにヨーロッパと日本を訪れます。ヨーロッパでロバート・ハービンと再会し、日本では吉澤と初めて会いました。しかし、彼女の兄が急逝したため、日程を切り上げて帰国しなければならなかった。帰国すると、ローリーが事故で亡くなったことも知らされました。

しかしリリアンはくじけず、1959年夏にニューヨークのクーパーユニオン美術館で開かれたペーパーアートの展覧会で、折り紙部門を担当しました。レグマンが吉澤の作品を送り、多くの西洋の折り紙作家からも作品が寄せられました。この展覧会は同美術館でも空前の人気となりました。また、リリアンは要望に応え折り紙教室も自宅で再開し、Origami Centerは西洋の折り紙の中心となりました。彼女は日本語やスペイン語の折り紙の本の販売も始めました。こうして整えられた舞台から、フレッド・ロームやニール・イライアス、ロバート・ニールといった新しい作家が出現し、1960年代以降革新的な作品を次々と生み出すことになるのです。

折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

小松英夫 Komatsu Hideo

6冊目『折り紙入門』桃谷好英著

"Introduction to Origami" by Momotani Yoshihide

今 回取り上げる本は、桃谷好英氏の初めての著書である『折り紙入門』（西東社）です。

著者は1928年大阪生まれ。年齢的には、佐野康博氏（故人）、中野獨王亭氏らと同世代の折り紙作家です。現在までの著書は70冊以上（国立国会図書館データベースを参考、共著含む）にも及び、夫人である澄子氏やふたりのお子様との「桃谷ファミリー」としての活動もよく知られています。

本 書が出版されたのは1971年、桃谷氏は42歳で大阪府立大学の助教授の職にありました。表紙（写真1）にも大きくその肩書きが書かれていて、大学の先生が出す折り紙本というところに少なからぬインパクトがあったであろうことが想像されます。

1970年前後の折り紙事情としては、1967年結成の作家集団「グループ67」が『新しい折り紙入門』（1970年）を発表し、河合豊彰氏、笠原邦彦氏らの著作活動が活発になってきていました。「創作折り紙」の芸術性を世に知らしめた、50年代の古澤章氏の活動が種をまき、その影響を受けた次世代の作家が活躍するようになってきた時期とまとめてもいいかもしれ

れません。その流れの中で1969年には、日本折紙協会の前身となった日本折り紙作家協会が発足しており、桃谷氏もまた参加メンバーのひとりでした。

前 書きに「音楽でいえば、演奏技術のための練習曲集ではなく、作曲法入門、つまり、折り紙の折り方の順序だけをならべたものではなく、『折り紙創作法入門』の書ということです」とあるように、前回取り上げた『創作折り紙をつくる』と同じく、この本も読者に創作をすすめる内容です。

目次

- 1章 折り紙の基本
- 2章 祖先からのプレゼント集
- 3章 新しい折り紙と新作品集
- 4章 幼児と折り紙
- 5章 創作へのプロセス・切り紙から折り紙へ（ママの育児記録から）

第1 章では、伝承作品（本書では「伝統的折り紙」）を紹介しながら、基本形（同「基本折り」、図1）や基本技法について解説しています。本書で示される創作法の中には、従来ある基本形をもとにして工夫するというもので、「折り紙設計」以前の創作法としては常套と言えますが、著者は最初に「イメージ」を持つこ

とを殊に重視します。ただ基本折りをもとに工夫するだけでは作品が類型的になると指摘し、基本形を機能的に捉えたりイメージに応じて見直したりすることでそういった問題が解決できるとしています。

第3章のはじめに書かれた文章では、紙を半分半分と折っていくだけで2の n 乗もの面ができることから、折り紙にも粘土細工にも比するだけの自由度があるはずだと説明します。そして「はじめから、基本折りのどれかにイメージをおしこめて（中略）ひねくりまわしていますと、イメージのほうがかわれてしまいます」と、ここでもやはり基本形の限界を指摘し、また別の箇所では「基本折りは『なにを折るか』によって生じるものですから、本来は自由に考えてよいものです」とも書いています。

折り紙設計の技術発展によって、不切正方形1枚で複雑な造形ができるようになった現在では、これらの主張を、パーツの造形についてのものと読み替えること

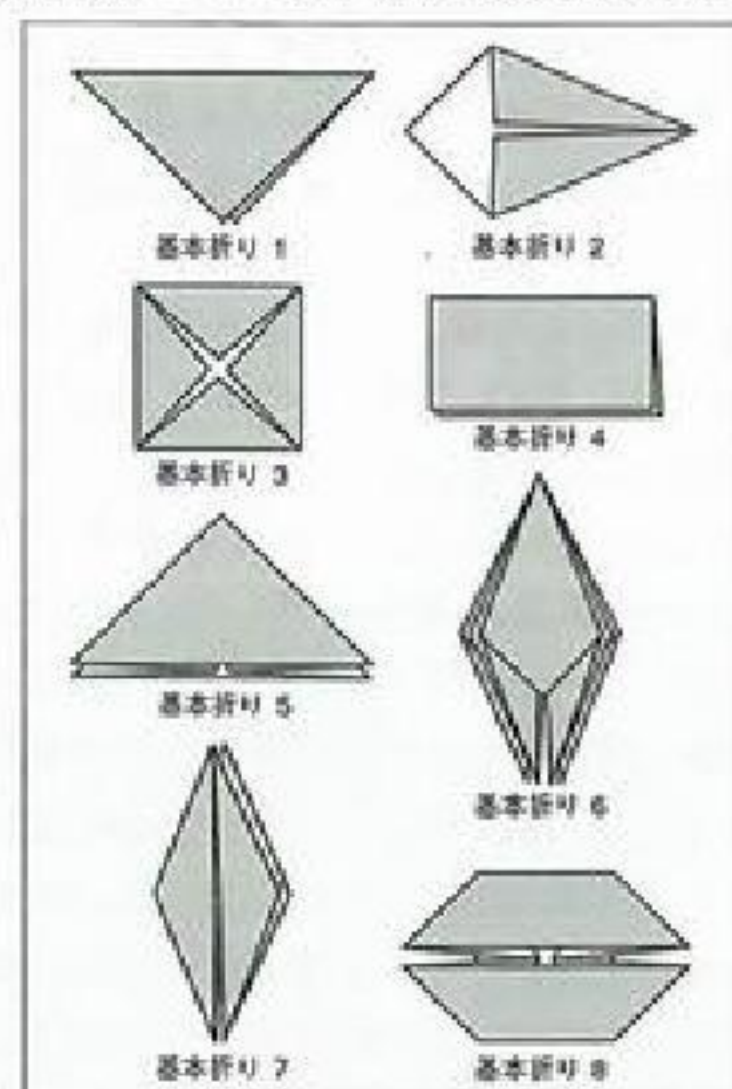


図1 登場する「基本折り」一覧（筆者作成）。正確には、基本折りは伝承作品と合わせてグループ化されているだけで、「このかたちが基本折り」という書かれ方にはなっていません



写真1 表紙。副題「あなたの夢と個性をはぐくむ」



写真 カラー口絵。情景作品。なお、本書の写真撮影は折り紙史研究で知られる高木智氏によるもの

○小松英夫(こまつ・ひでお)=1977年生
まれ。図書館担当。折紙探偵団のサイト内
に図書館ブログができました。
<http://www.origami.gr.jp/Liblog/>



によって今日性を持って受け止めることも可能でしょう。

著者の創作で構成された第3章は、はじめの「ひよこ(図2)」「ペンギン」からして基準がほとんど示されないままに折り進めるフリースタイルの作品で、1、2章で紹介された伝承折り紙とは全く異なり、特徴的です。発想的には絵を描くような技法なわけですので、こんなところに「イメージ」を重ねる著者らしさを感じられるかもしれません。

他にも、作品ごとに用いられている技法の多彩さは注目に値する点です。以下、めばしい作品をピックアップしてみましょう。新しいつるA…カドを6等分する折りを使っています。つまり15度の造形。

くじゃく…中心をずらした変則的な鶴の基本形を用いています。

いろいろな動物、ライオン、きつね…鶴の基本形や二そう舟を組み合わせた、2枚複合形式による動物作品。

ぞう…長方形用紙使用。

りす…小鳥の基本形を細く沈めた構造で、前川淳氏のいう「Yパターン(第2次三角形)」を用いた作品としては、かなり古い例だと思われます(図3)。

貝…細かい蛇腹折りをを用いた作品。かぶとむし…2枚複合ですが、大ツノでカドを2つに分ける技法がさりげなく使われています(図4)。特に言及なく登場しているのが不思議と言えは不思議です。

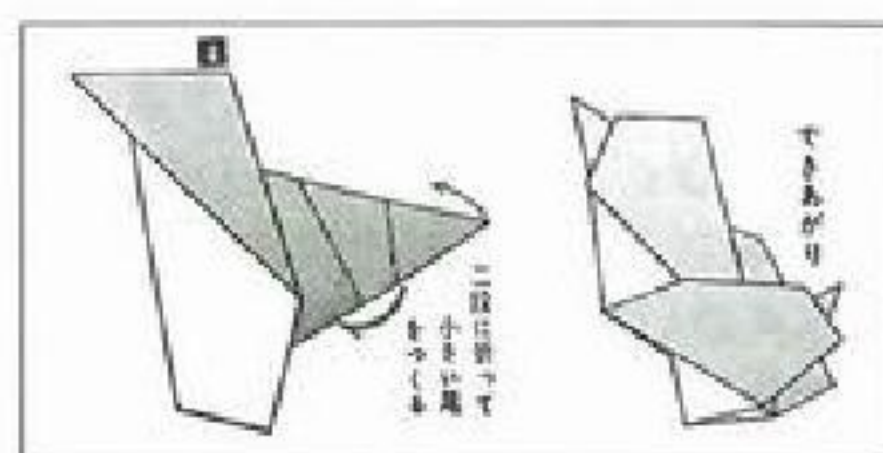


図2「ひよこ」の折り図。筆者も折ってみました。が、バランスよく仕上げるのは結構むづかしい

うさぎ、トナカイ、花…長いテープ状の用紙から折る作品。

あじさいの花…ねじり折りを連続させた、いわゆる平織り作品としては最初期のものとされます(写真2)。ねじり折りに対して、特に命名はされていませんが「一種の基本折り」と表現されています。

あげはちょう…2枚複合で、胴体部分を大胆に「結ぶ」ことにより造形。

この後に出版された桃谷氏の著作において、本書収録の作品や技法が再度紹介されることも多く、桃谷折り紙の技術的側面に関しては、この段階で大部分完成していたことがうかがえます。前書きによると、著者はすでに創作歴20年近くだったそうですから、それも当然のことかもしれません。

澄子夫人の筆による第4章と第5章は、折り方の紹介は無く、幼児教育と折り紙の関わりを書いた章となっています。それぞれ幼児教育に折り紙を取

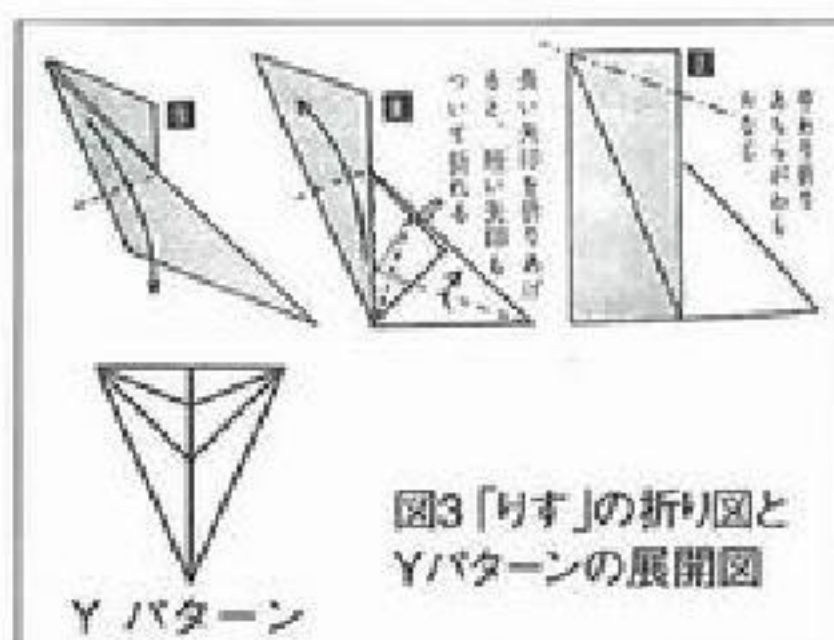


図3「りす」の折り図とYパターンの展開図

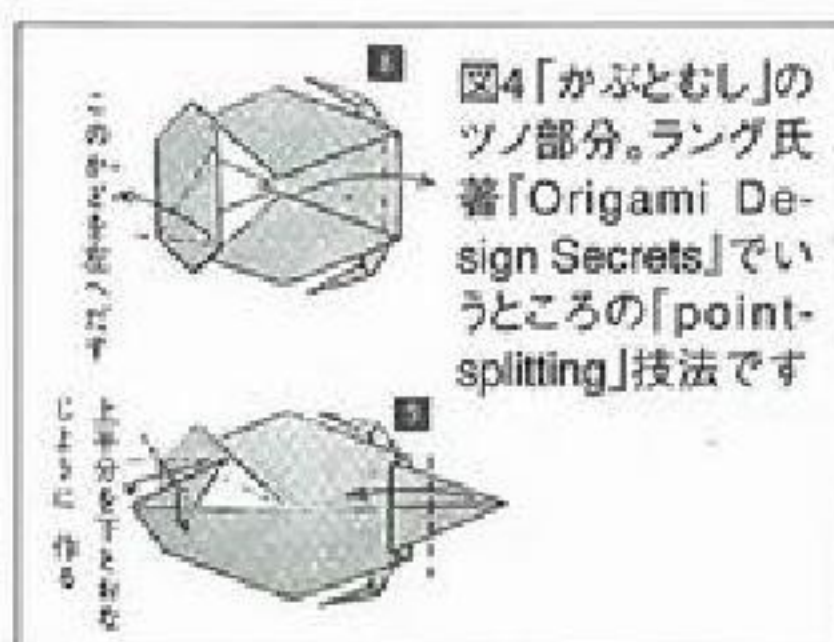


図4「かぶとむし」のツノ部分。ラング氏著「Origami Design Secrets」でいうところの「point-splitting」技法です

り入れることの効能と、長男長女の辿った折り紙体験を成長記録のかたちで記していて興味深い内容です。

ただ、この幼児教育における折り紙という視点が、本書をとおして読んだときにその対象としている読者像がいまひとつ定かになっていない印象を持つ原因となっているように思います。すなわち、大人のホビーという位置づけなのか、それとも幼児の情操教育のための参考書籍なのか。

これは全くの推測になってしまいますが、「レジャー・シリーズ」の他の書籍が総じて大人向けのテーマを扱っていることから考えるに、出版社としては大人のホビーとしての折り紙を考えていた、それに対して著者の興味は教育方面に向いていたのではないかと思います。

というのも、4年後の1975年に創元社から出版された桃谷氏2冊目の著書「折り紙 イメージと創作」(夫妻による共著)の内容は、まさに幼児教育に焦点を絞っているからです。前書きは「幼稚園の先生方やお母様方」に向けて書かれ、本自体が幼稚園のカリキュラムとしても使用できるようなものとして作られています。紹介されているモデルも、初手からぐらい折りをを用いる作品やねじり折りなどの複雑な技法を排した作品選定が行われていることが見てとれます。その結果、多様な技法を使いこなす桃谷氏の作品群と、澄子夫人の幼児折り紙論との統一性が高まっているのです。



写真3「あじさい」完成写真

同書は80年代にも再版されているので、「折り紙入門」に比べるとご存知の方も多いいと思います。

I walked along the Tsurumi River in Kanagawa prefecture, seeking for something with orizuru because the area has so many place names with "tsuru" (crane) as a prefix. It is not know why "tsuru" is used in place names, but I found orizuru used as a school logo and such. I got interested in the fact, though not related with orizuru, that there are many old shrines along the stream and it is not know why they had been built. Exploring them I accidentally found the "Origami-zuka" (Origami Monument) founded by the late Kawai Toyoaki 20 years ago. It is true that a flying crane always catches something.



鶴見川の流域には、神鳥前川(しとどまえかわ)神社という神社もある。前川神社という神社はありそうで案外少ない。もちろん、わたしとは無関係。

○まえかわ・じゅん 折紙制作・研究家。折鶴モノのコレクター。東京生まれで東京在住だが、1年の約1/3は、天文台の仕事のため長野・山梨で過ごす。好きなもの：阪神タイガース、星空、書店、喫茶店、漫才・学問的調和。



相模原南消防署 上鶴間分署
The Kami-Tsuruma Branch Office of
the Sagami-hara-Minami Fire Station

はほかでも広く見られる。ツルミやツルマキではなく、ツルギ…。思えば、越前の古社・劔神社も忌部氏の系統である。スギヤマもツルギヤマの転訛として、そんなに無理はない。さらに、鶴見川中流域にも、まさに劔神社という神社がある。また、かつては杉山神社とも呼ばれ、いまは集落の名から鐵(クロガネ)神社と呼ばれる神社があるが、これは、製鉄や鍛冶を連想させる。杉山神社は、鍛冶―これもまた忌部氏の技能のひとつである―と関係があるのではないか。あるいは、阿波の最高峰で霊山の剣山(ツルギサン)に関係するのではないか。日本武尊が製鉄と白鳥(大型の白い鳥一般をさす)の伝説に結びつくことも多いのも、意味ありげだ。

しかし、じつは、なぜツルなのかは不明のままでもよいのである。気になるのは「逆の流れ」である。すなわち、地名が鶴を含むために、各種のデザインに鶴を使うようになることである。そう、杉山神社、すなわち鶴見川水系をたどれば、折鶴モノが発見される可能性も高い…かもしれない。

というわけで、わたしの中で、杉山神社参拝と折鶴の探索が結びついた、というわけなのである。ふう。やっと『折紙散歩』のネタになった。じつは、鶴見において折鶴を探すということは、何年か前にもしている。横浜市鶴見区の鶴見神社(かつては杉山明神と呼ばれた)に初詣した。しかし、それはみごとに空振りに終わった。そして、今回もこの面の探索は豊作とは言えなかった。ところが、新たに知った杉山神社のロマンを抱えて、タマちゃんよりも深く鶴見川を遡ると、そこに驚くべき発見があったのだ。

その発見より前に、折鶴モノを数点紹介しておく。相模原市南消防署上鶴間分署の壁面レリーフ(以前、山田勝彦さんから情報をもらった)と学校の校章だ。

そして、発見。それは、「折り紙塚」なるものである。鶴見川の最上流の河岸、東京都町田市国師町の曹洞宗・圓福寺に、そのような塚があるのを見つけた。これはいったいなんなのか。

種明かしをすると、これは、1987年に故河合豊彰氏が建てた塚である。そういうものがあること自体は知っていたが、ここにあったとは知らなかった。



相模原市立鶴園小学校校章 横浜市立鶴見小学校校章
鶴園小学校と鶴見小学校の校章
School Badges (Turuzono Elementary School and Tsurumi Elementary School)

碑面には、「紙 ひと折りひと折りに無限の可能性を秘めていきづく紙 それは豊かで絶えることない創作の泉だ 折り紙作家 河合豊彰」とあり、上部に河合作品のダルマの図がある。ご母堂を亡くされたときに建てたもののようだ。歴史的なものではなく、鶴にも関係がないわけだが、このような経緯で遭遇したので、仏縁とか神意とかいうものをまったく信じないわたしにしても、ツルギの神(?)と河合さんの導きということにしておきたい。

そして、これまた奇縁なのだが、この文の下書きを書いた直後、日本折紙学会の事務局に寄って、会に寄せられた資料を瞥見したさい、昨年、折り紙による作図の本『折紙数学』を上梓された畠山一平氏から寄せられた手紙の中に、この碑に関することが記され、写真が同封されているのを知った。散文的な考えの持ち主であるわたしも、度重なる偶然の不思議さを思わずにいられなかった。



折り紙塚(河合豊彰氏建立:お墓ではない)
"Origami-zuka" Monument Founded by
KAWAI Toyoaki
This is NOT a gravestone of Kawai.

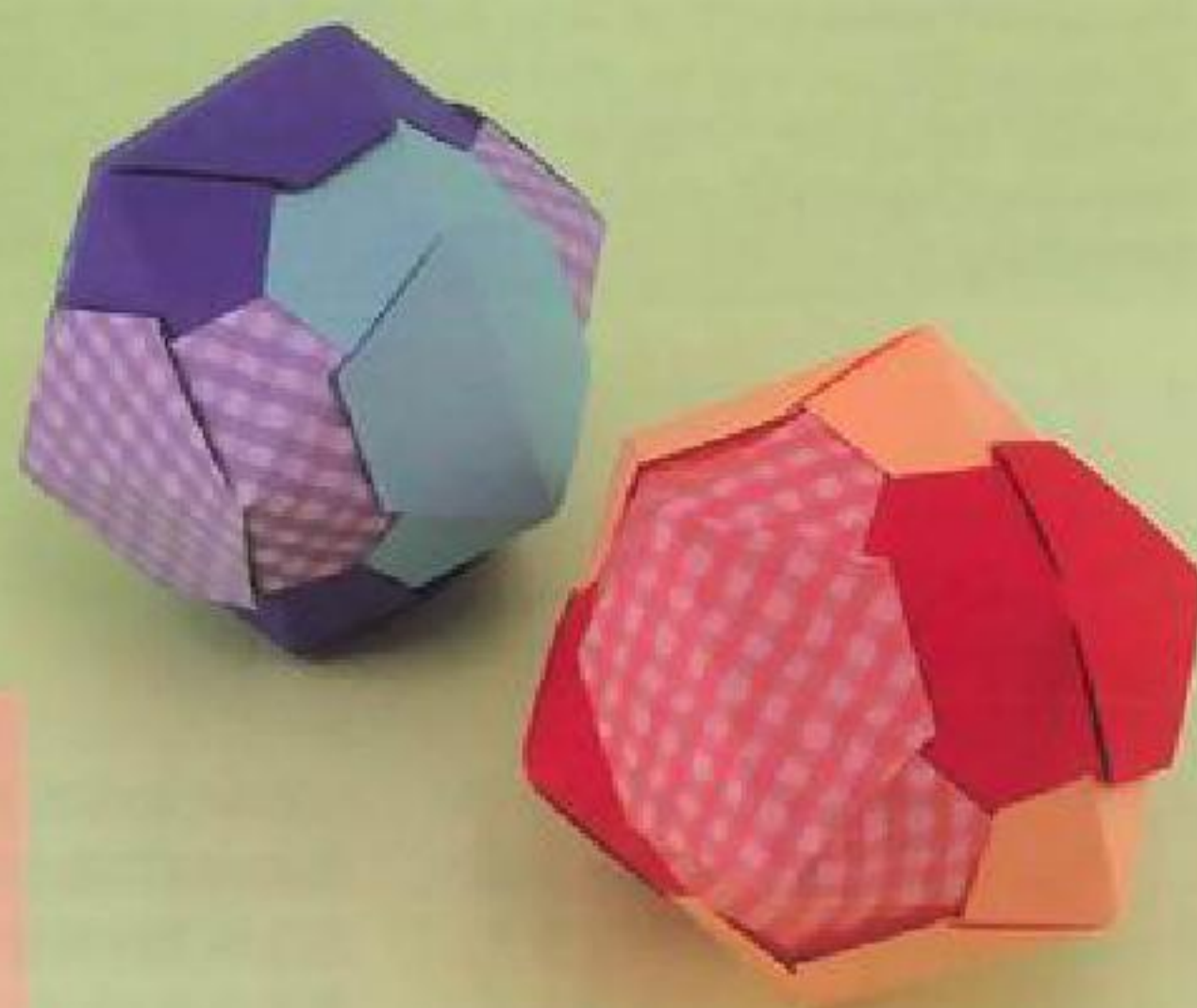
■寒さが少しずつ緩んでゆく時期には、いろいろな場所でなにか新しいことが動き出しています。期待の新世代軍団がついに登場したTVチャンピオンをはじめ、これからも続く新イベント・情報に乞うご期待!です。

「ユニッター規定種目 6枚組正二十面体」

作：田中将司 (P.4)

Compulsory Program for Modular Folders:
A Regular Icosahedron from 6 Sheets:
Tanaka Masashi (P.4)

■各部品が表出する部分と隠れる部分のバランス・表面の分割ラインの洗練されたイメージが印象的なユニット作品。時には厚めで風合いのある紙を使って、用紙の厚みで盛り上がった部分の重なり構成・陰影までも含めた「モコモコ感」を味わってみるのも良いかもしれません。



「T-バッグ」作：やまぐち真 (P.8)

A Bag with "T" : Yamaguchi Makoto (P.8)

■帯のような色違い部分のコントラストに強く惹きつけられるこの作品、クリスマス時期のCMからずっと気になっていたというかたもいらっしゃるはず。一般的なバッグの大きさにするだけでなく、さまざまな大きさに折ってから用途を考えてみるというのも、新しい楽しみ方を発見するのに有効な方法です。

「ラクダ -15°」作：西川誠司 (P.32)

15°-Based Camel : Nishikawa Seiji (P.32)

■各部パーツの構成角度が不思議なシャープさを持っているだけでなく、パーツ同士が相互作用で作り出す予想外のリズムも新鮮。15度の世界は秘宝の眠る広大な砂漠か、はたまた複雑怪奇な迷宮か、それとも未踏のジャングルか。西川氏に続く開拓者も、これから続々登場するかも?



「金剛力士像(吽形)」

作：北條高史 (P.34)

Vajrapani: Hojyo Takashi (P.34)

■「基本形まで」しかできていなくて消化不良だった折り図を、このたびやっと完成させました。最初は35センチくらいの紙で練習し、全身のおおまかな雰囲気をつかんで、慣れてきたらできるだけ大きな紙を使って、筋肉の微妙な流れや表情の細かい部分までしっかりと作り込んでみましょう。



「空から降りてきた英雄」

作：神谷哲史 (P.36)

Perseus Rescuing Andromeda: Kamiya Satoshi (P.36)

■天体・神話ファンにはたまらない、あの情景が迫力あふれるディオラマになりました。左右非対称構造で剣や盾やメデューサの首を表現した勇者ペルセウスをはじめ、鎖に繋がれたアンドロメダ姫、ペガサスや鯨座もそれぞれ繊細にデザインされ、しかも全体としてバランスの良い情報量密度にまとめられています。



「老人と海」作：宮本宙也 (P.36)

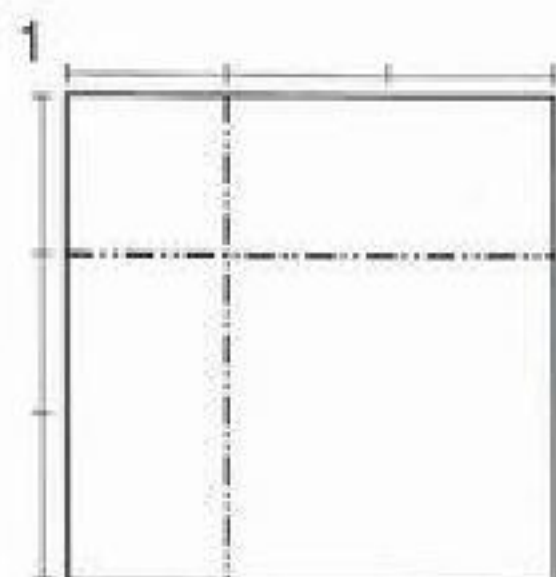
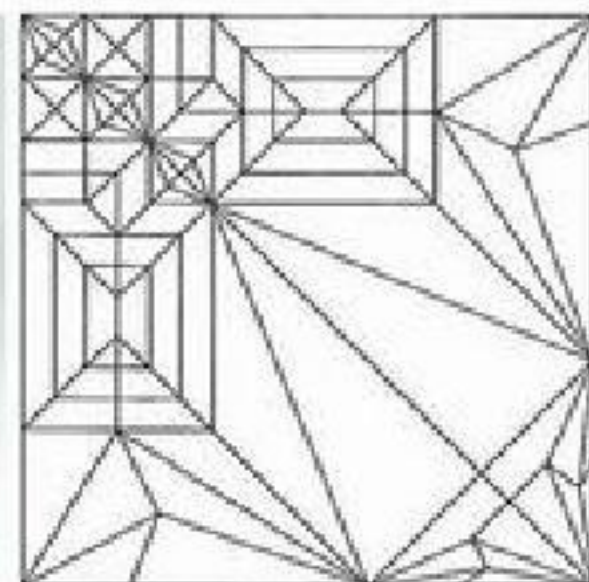
The Old Man and the Sea:

Miyamoto Chuya (P.36)

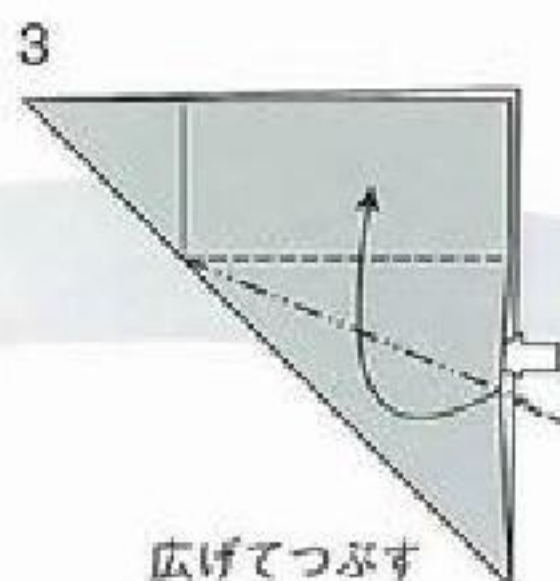
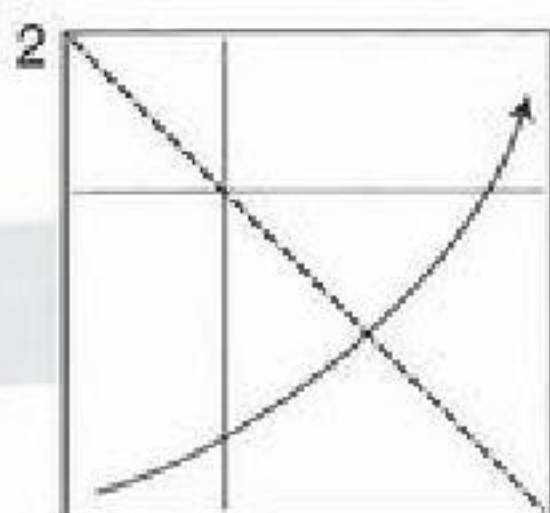
■巨大カジキの胴体模様をインサイドアウトで表現、生じた厚みはそのまま重量感として活用されています。人物の顔面に深く刻まれたしわも魅力的。激しい格闘を思わせる釣り糸のダイナミックな動きにも作者の構成技術が満ちあふれ、動きを動きのまま切り取らないでまとめあげてしまっているかのようです。

シベリアンハスキー Siberian Husky

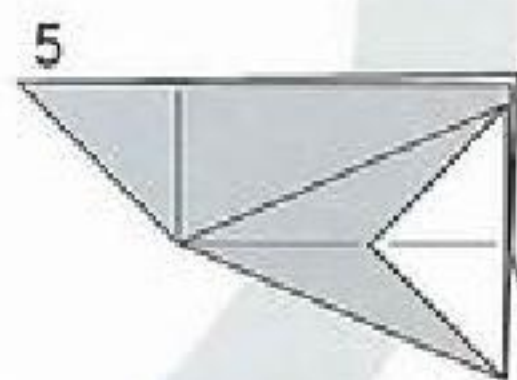
川畑文昭 Kawahata Fumiaki Feb. 4, 2007



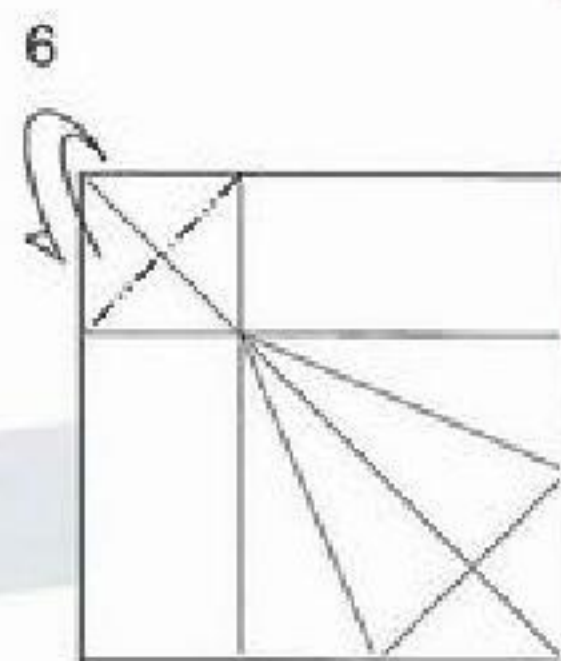
折りすじをつける



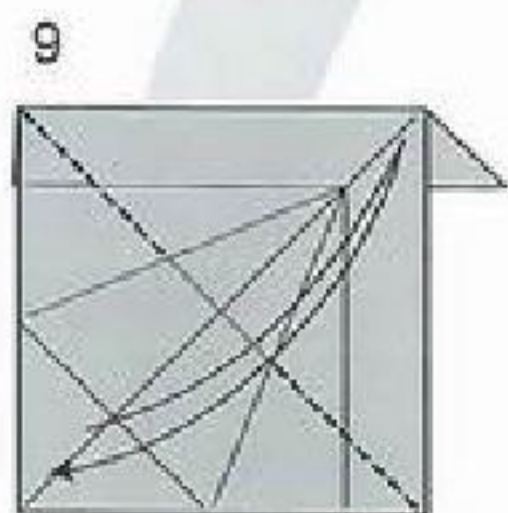
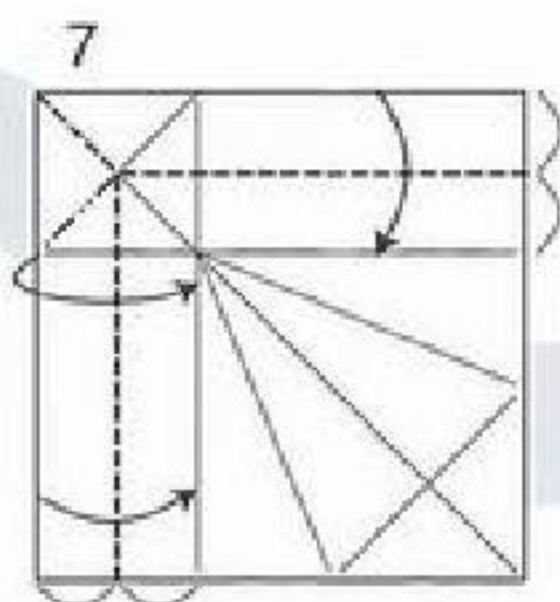
広げてつぶす



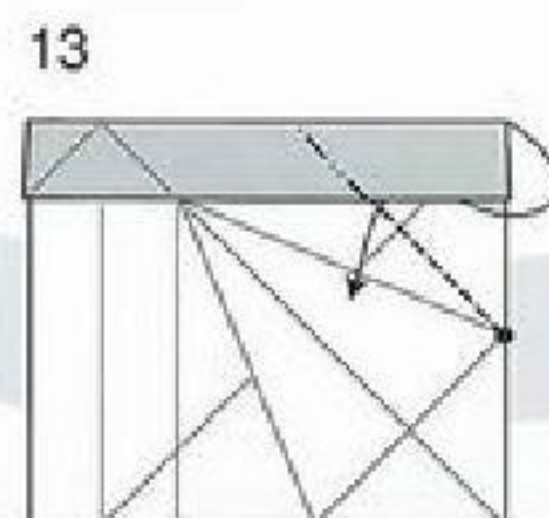
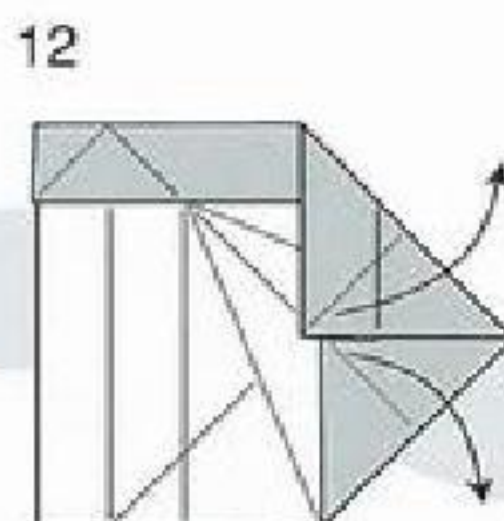
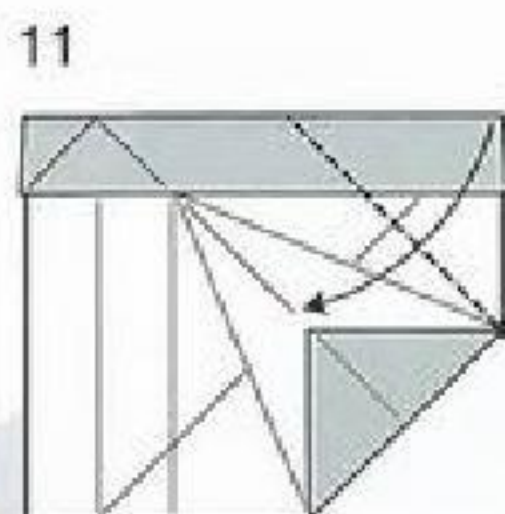
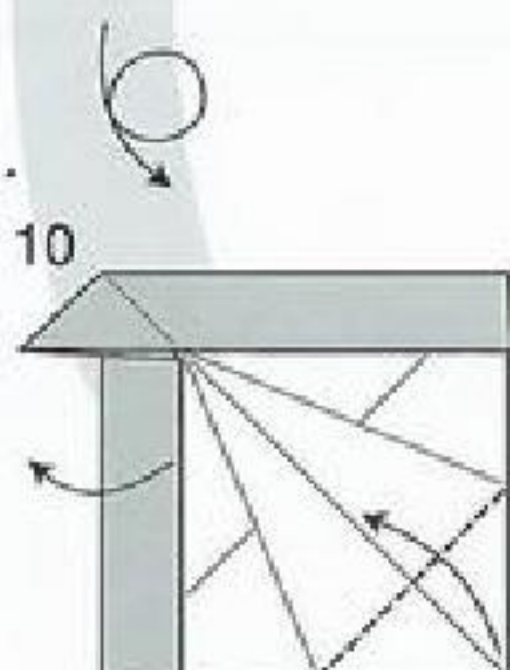
全部広げる



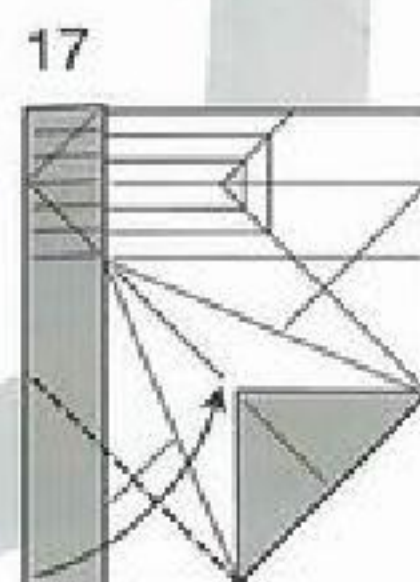
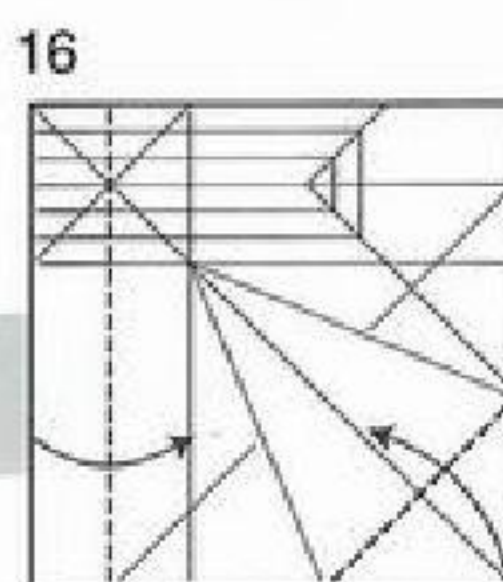
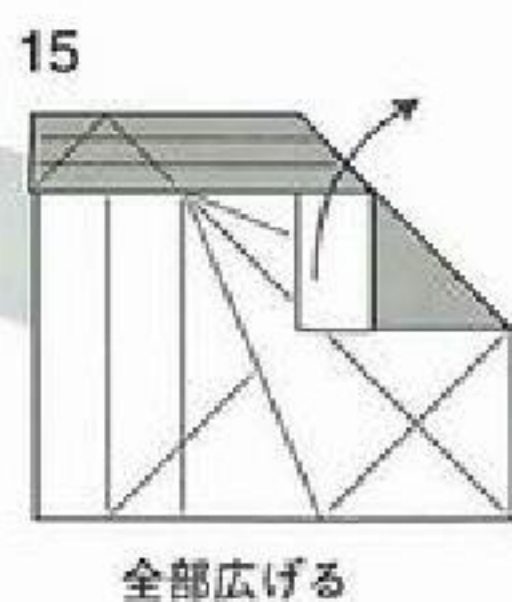
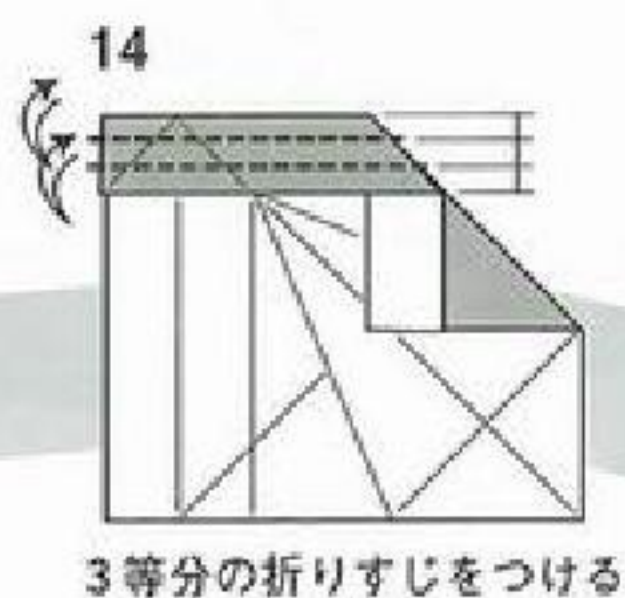
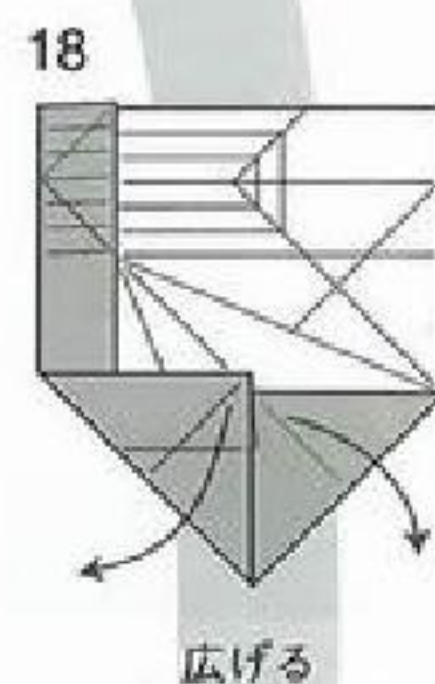
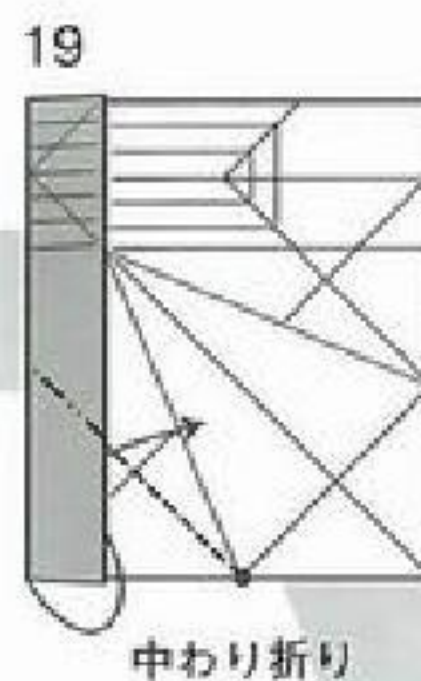
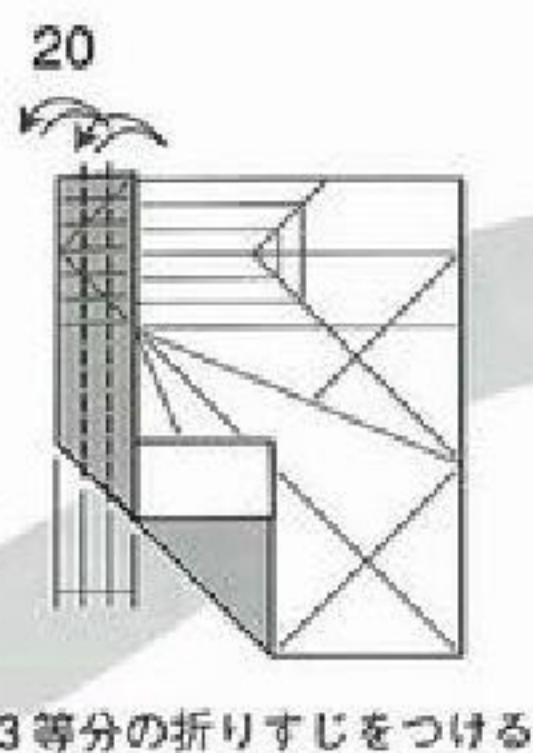
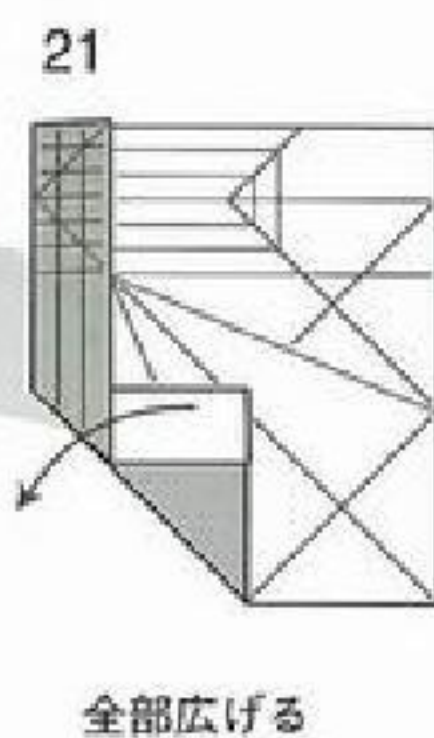
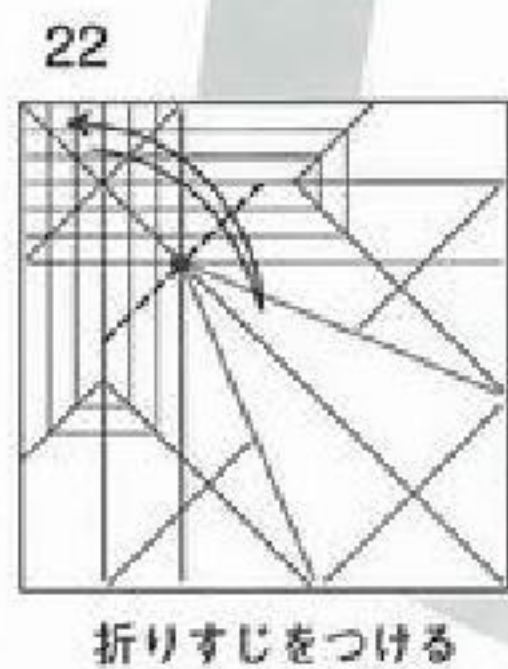
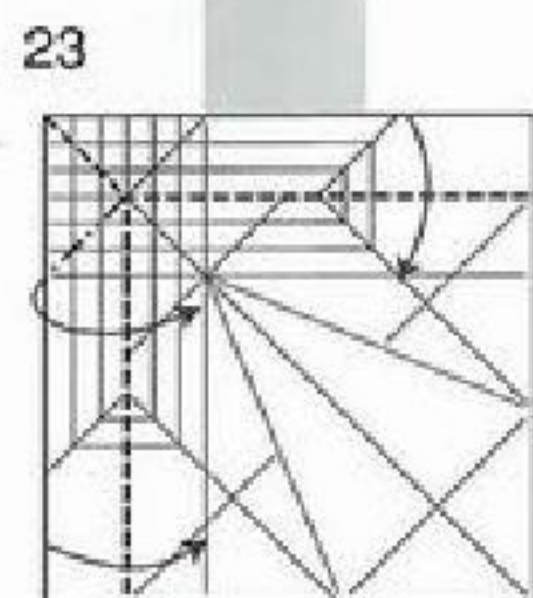
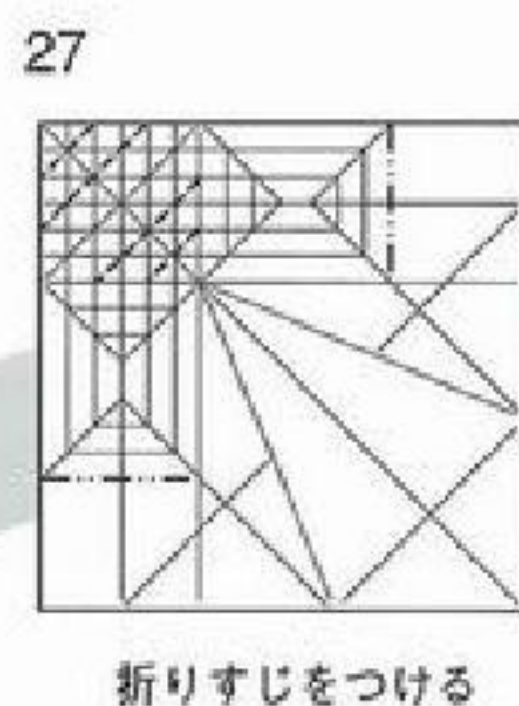
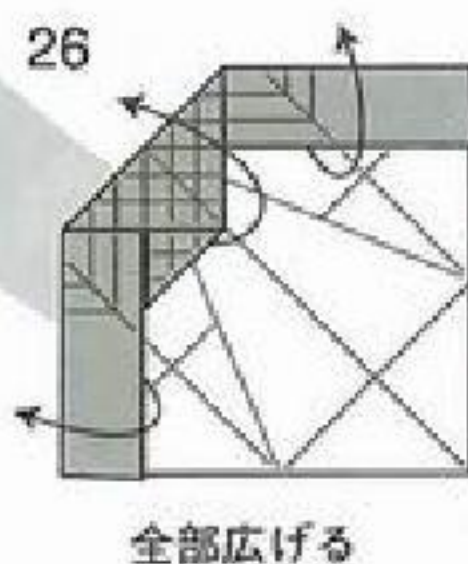
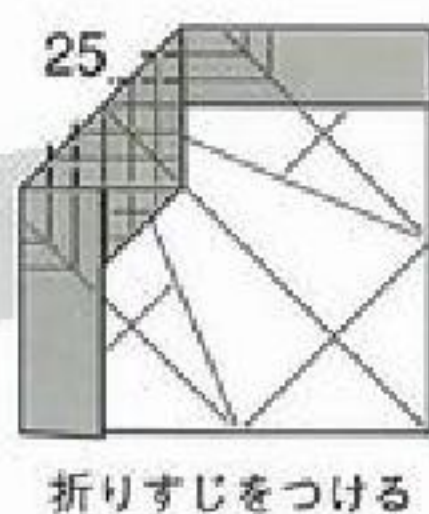
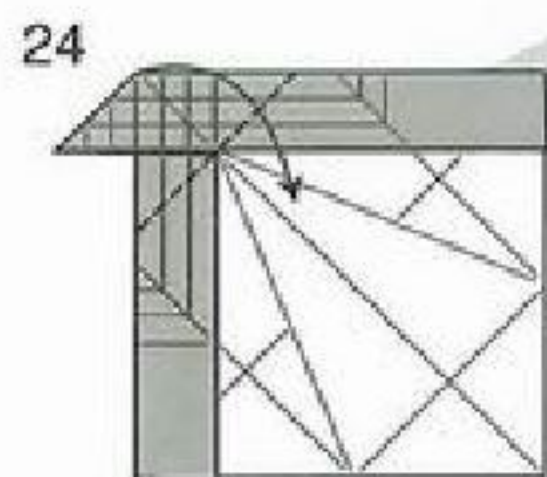
折りすじをつける



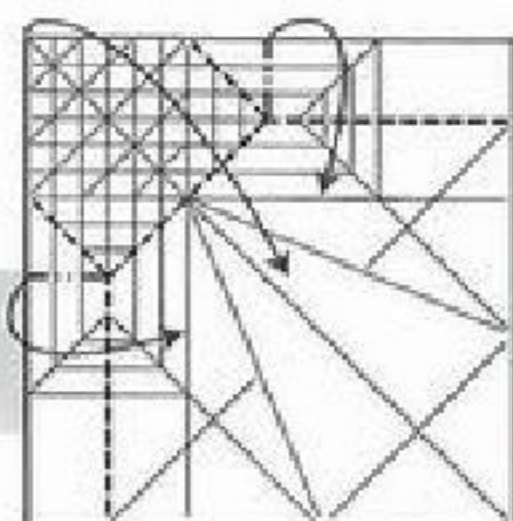
中央の部分は除いて
折りすじをつける



中わり折り



28

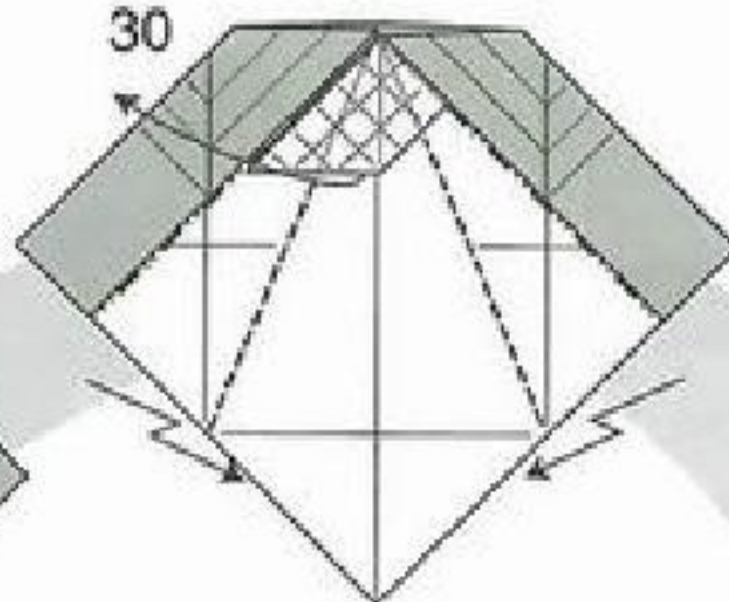


折りすじに沿って
まとめる



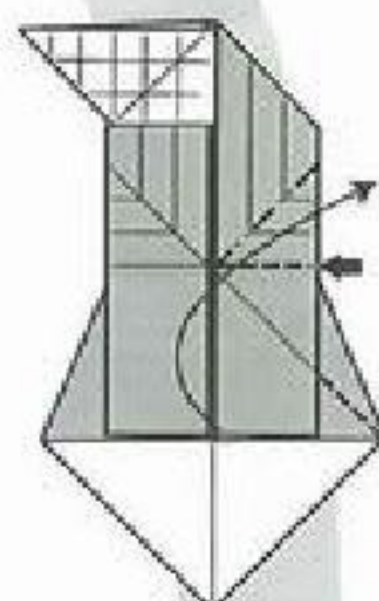
29

30



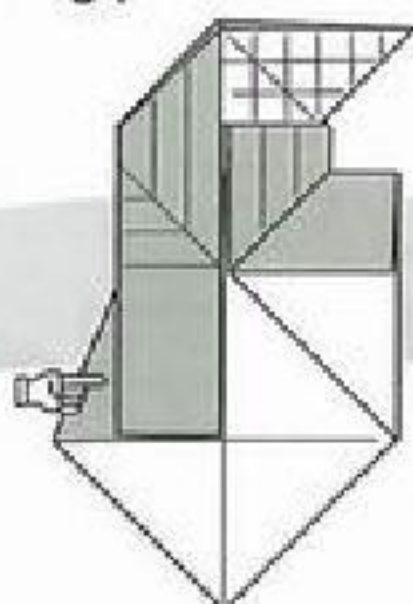
中央部を手前に引きながら
両側を段に折る

31



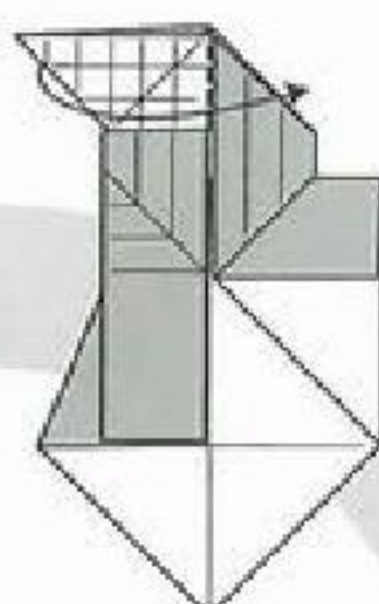
右側から押し込む
ように折る
図の山谷によく注意

34

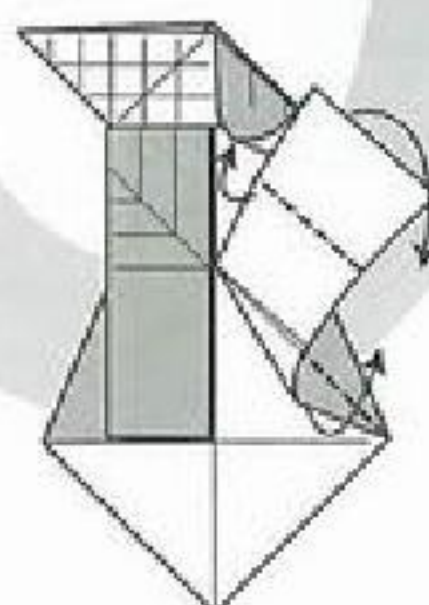


左側も31~32と
同じように折る

33

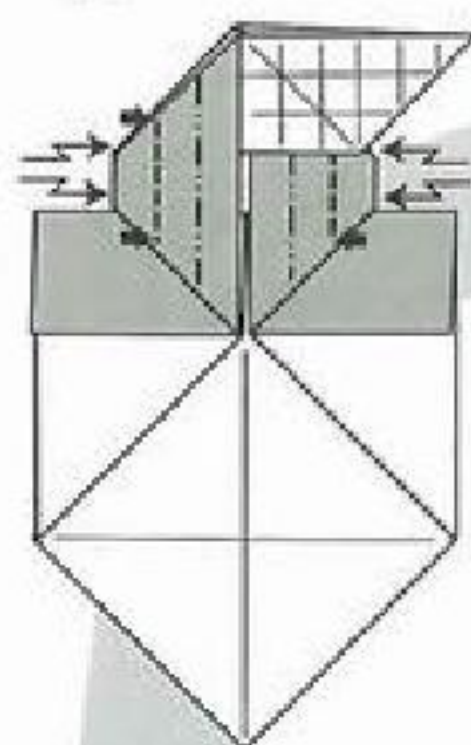


32



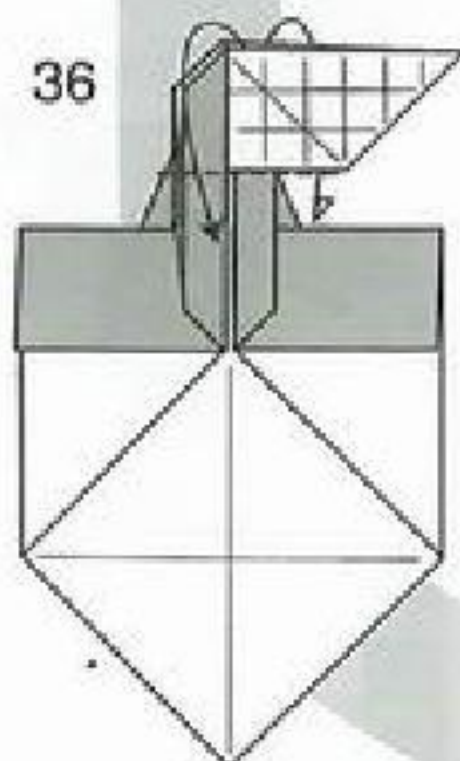
途中図

35



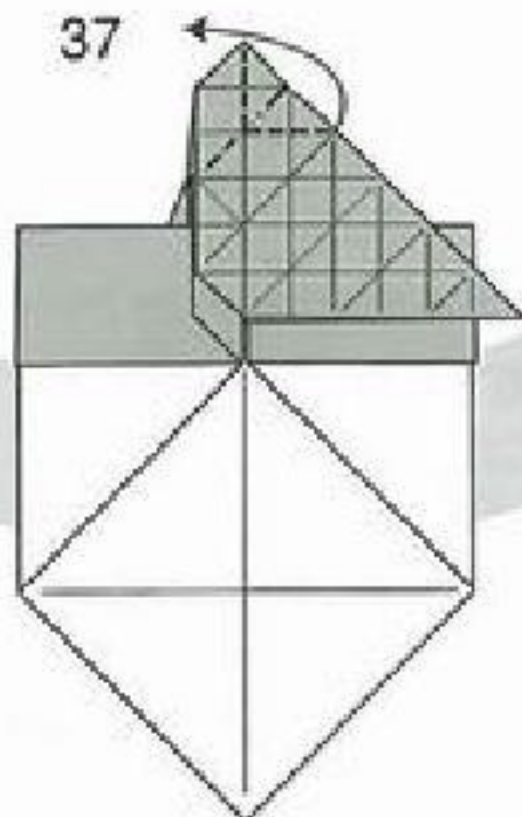
段に沈め折り

36

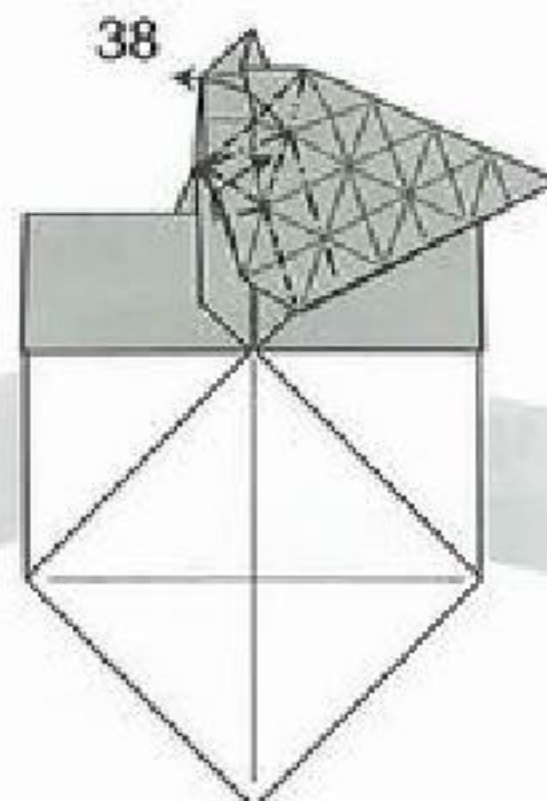


向こう側も同時に
折り返す

37

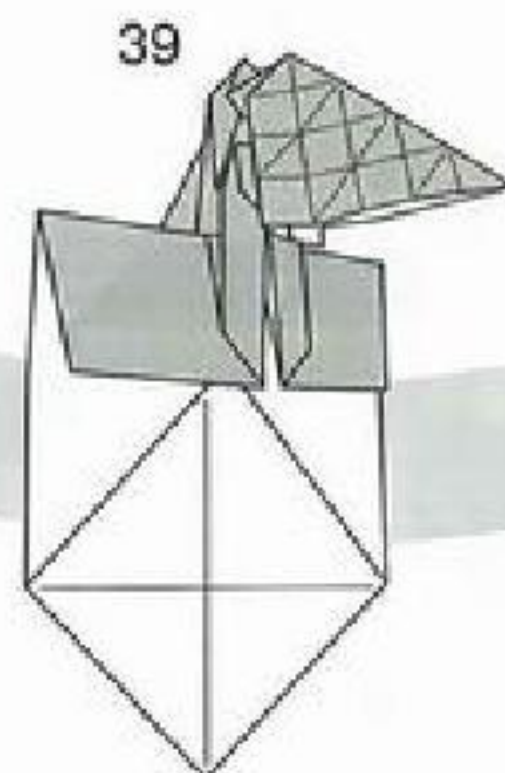


38



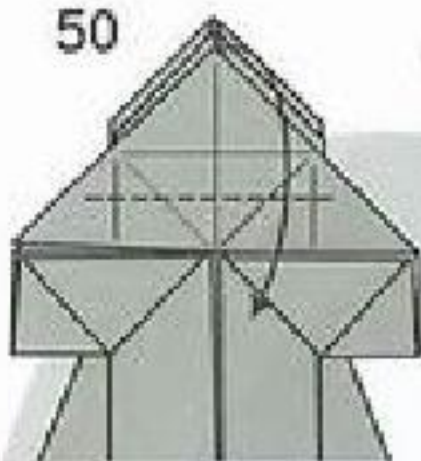
途中図

39

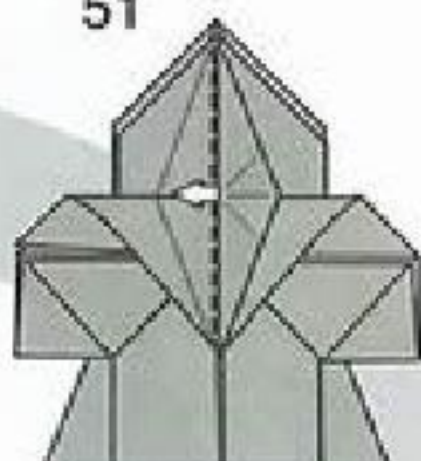


途中図

50

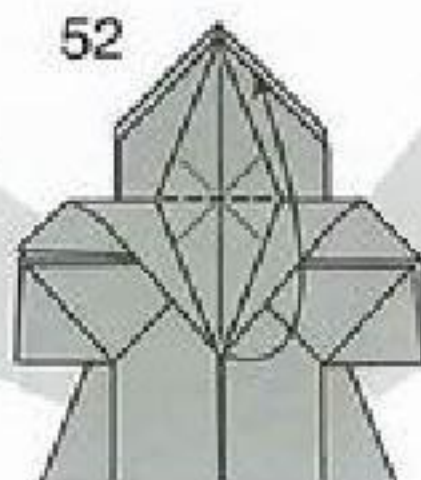


51

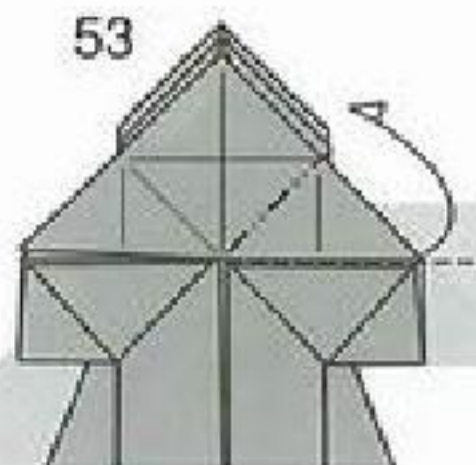


内側から1枚を引き出す

52

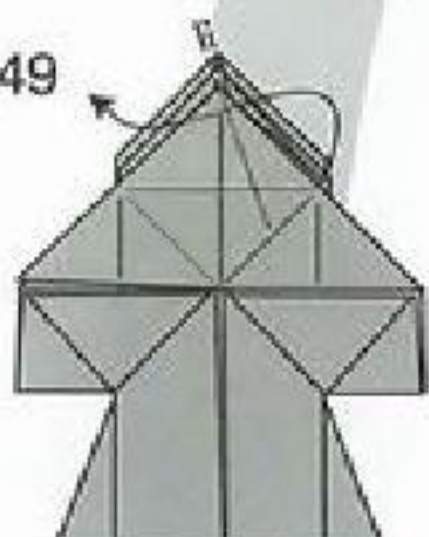


53



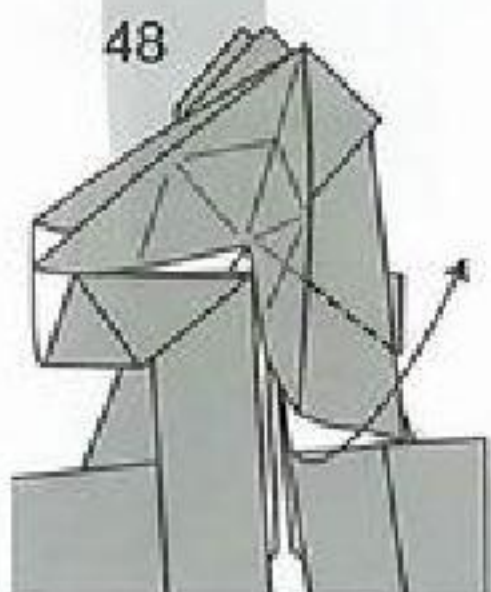
向こう側に段に折る

49

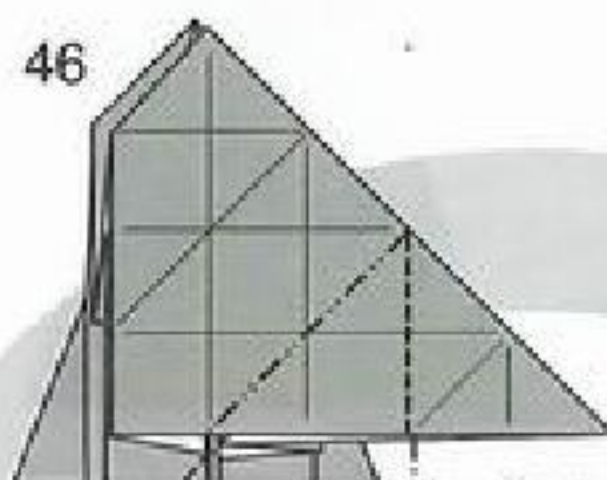


申わり折り

48

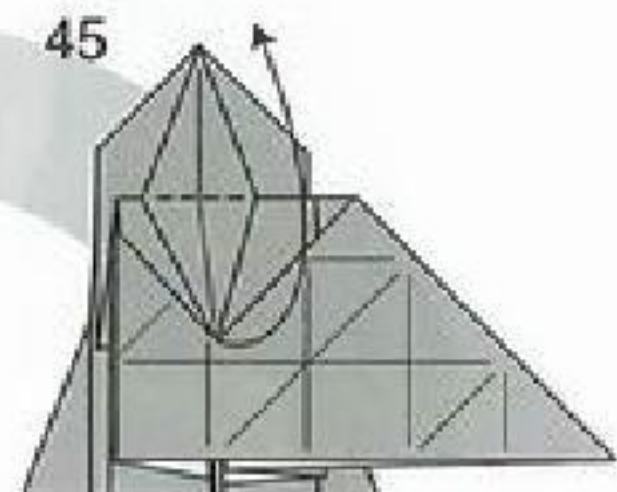


46

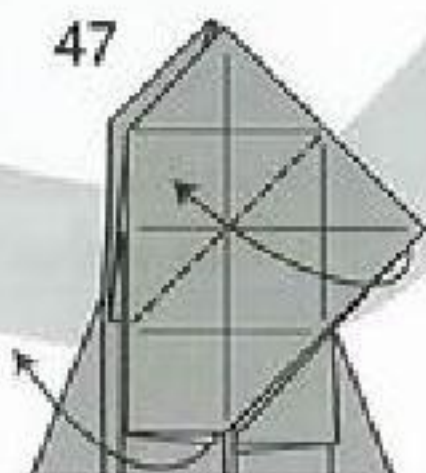


内側に段折り

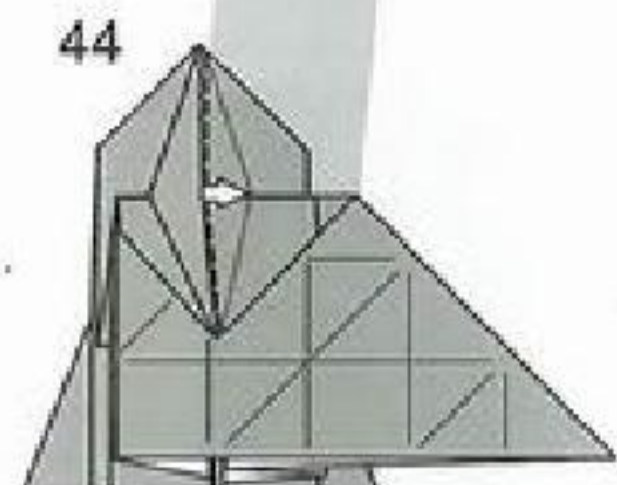
45



47

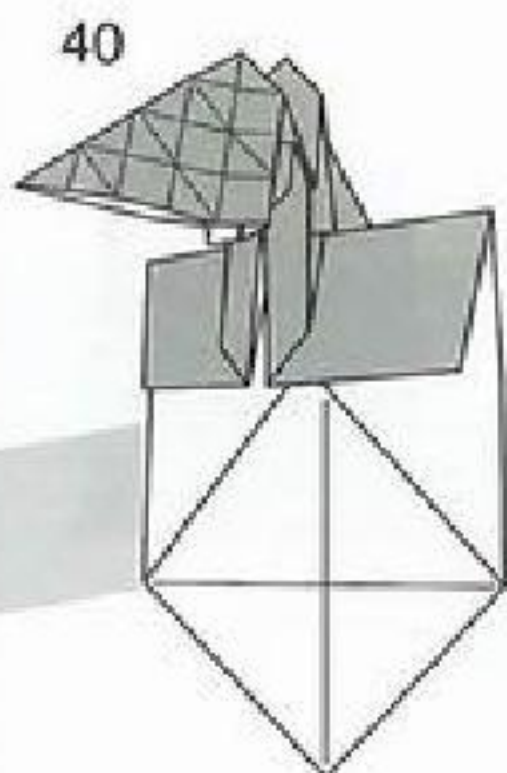


44

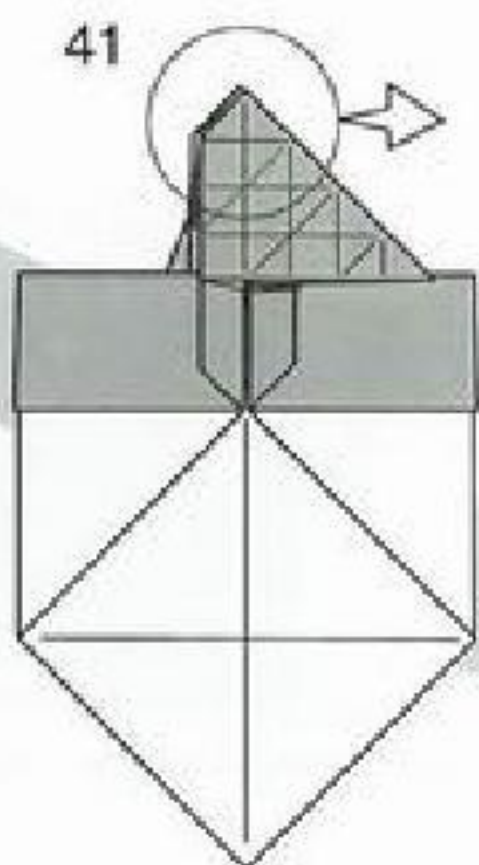


内側から1枚を引き出す

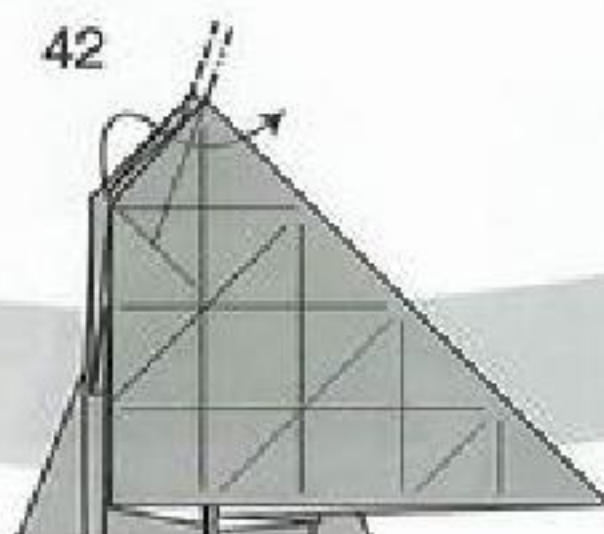
40

右側も38と
同じように
同時にまとめる

41

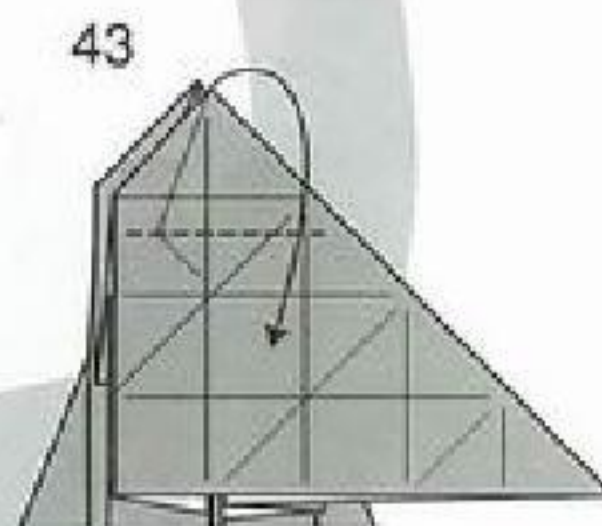


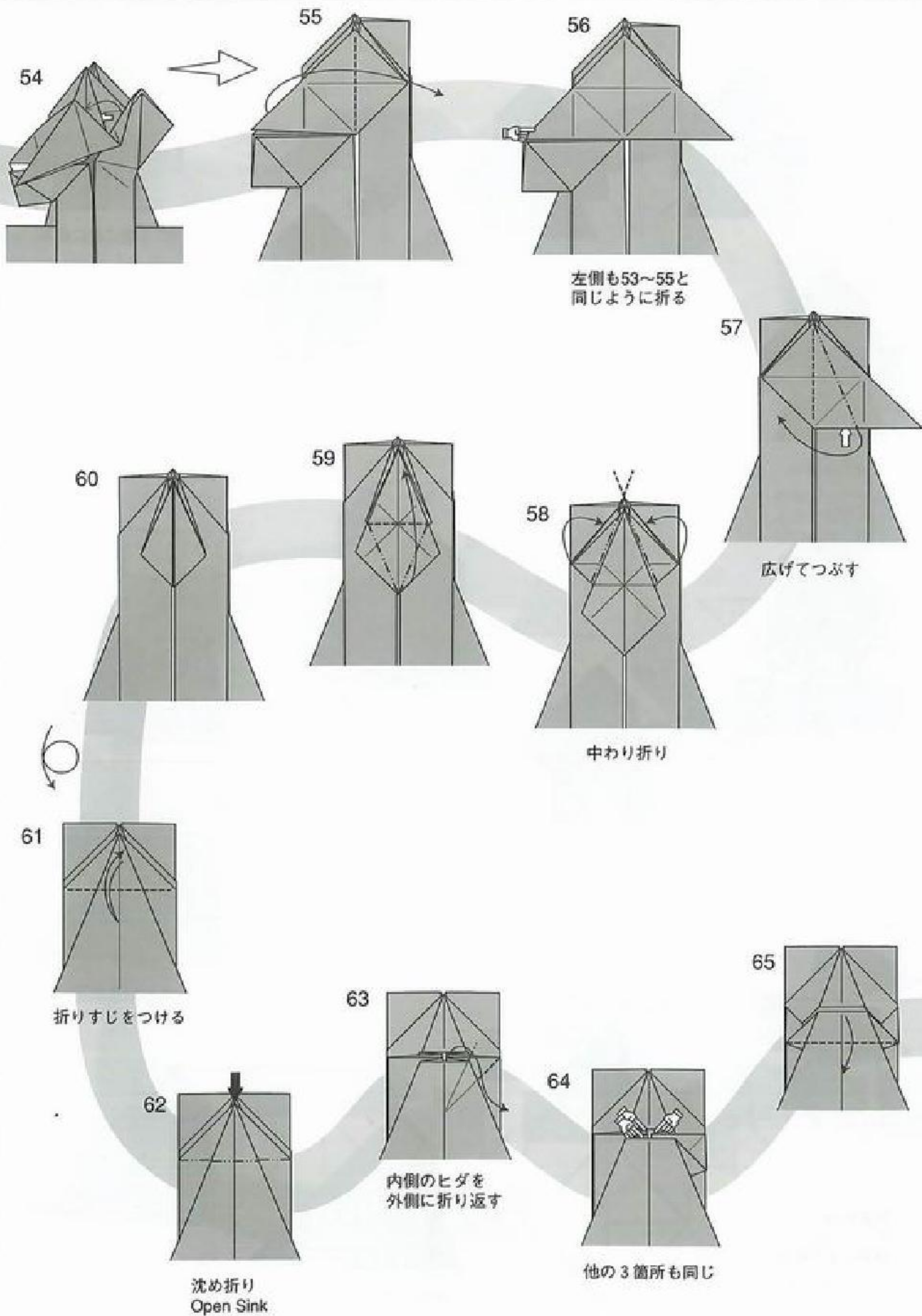
42

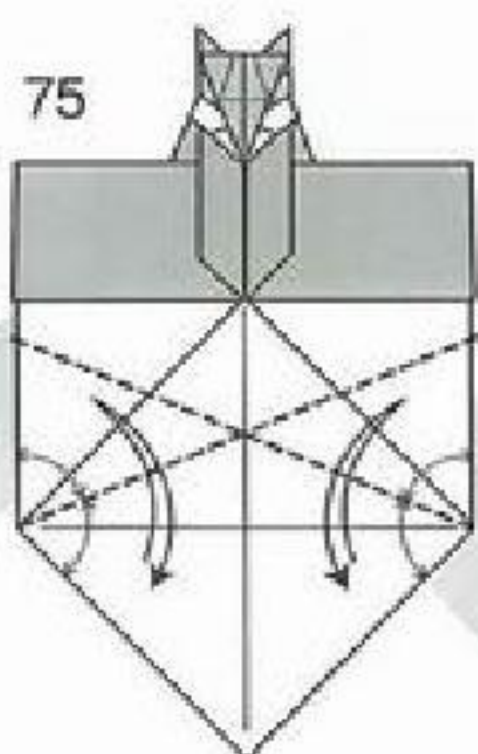
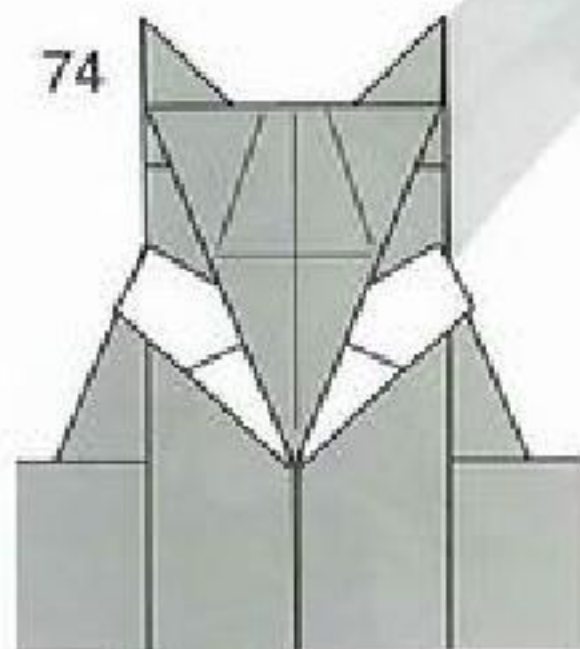


申わり折り

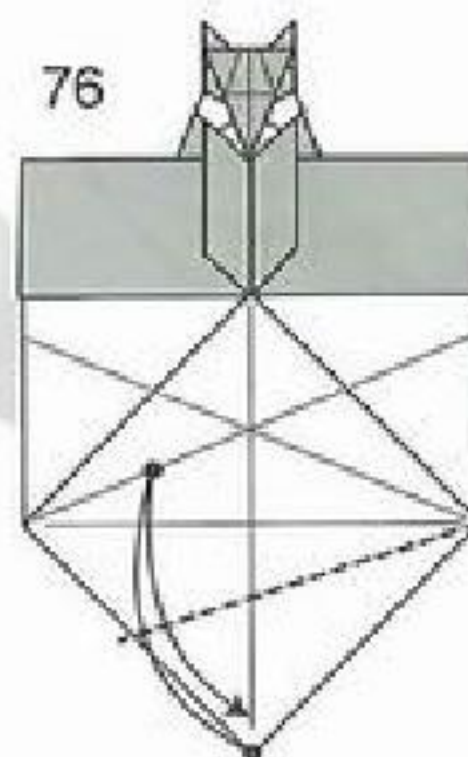
43



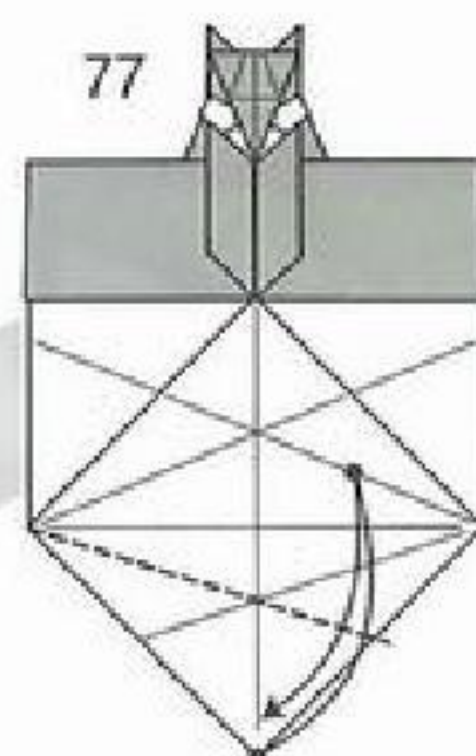




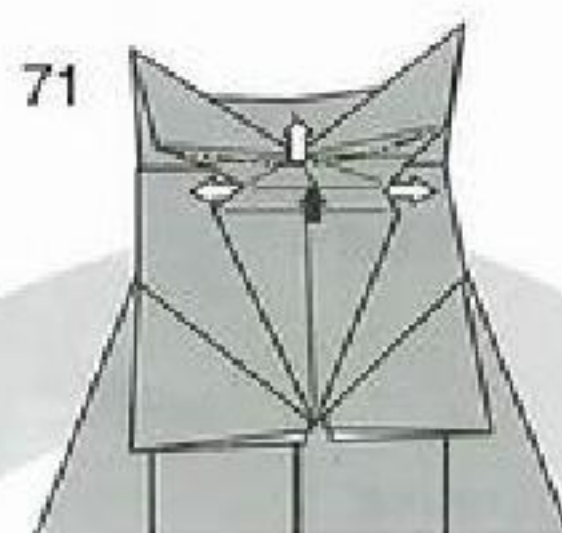
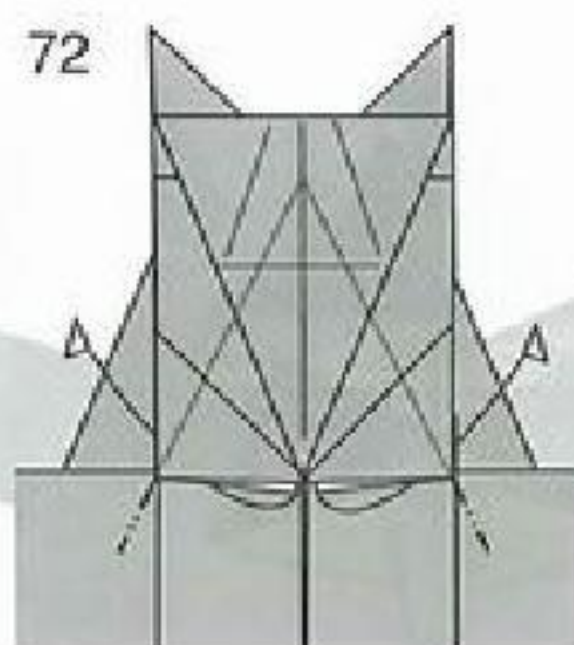
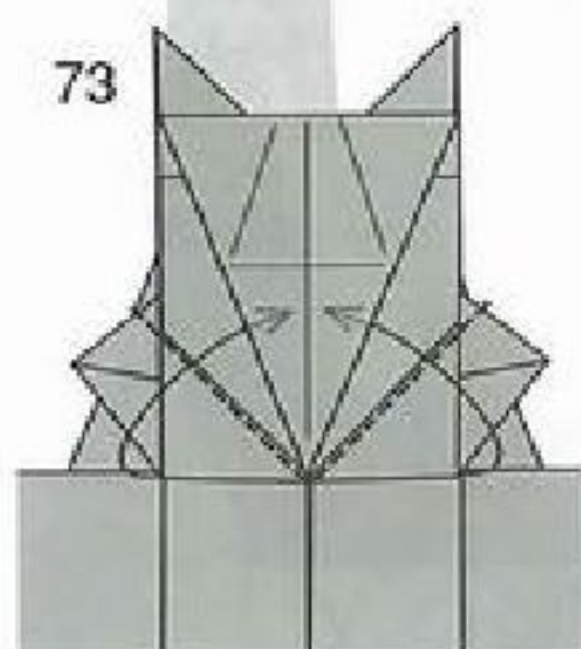
折りすじをつける



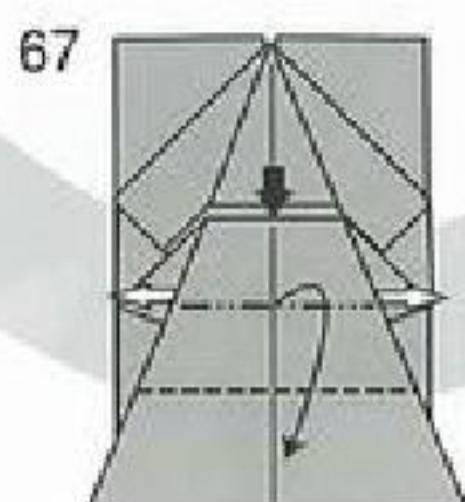
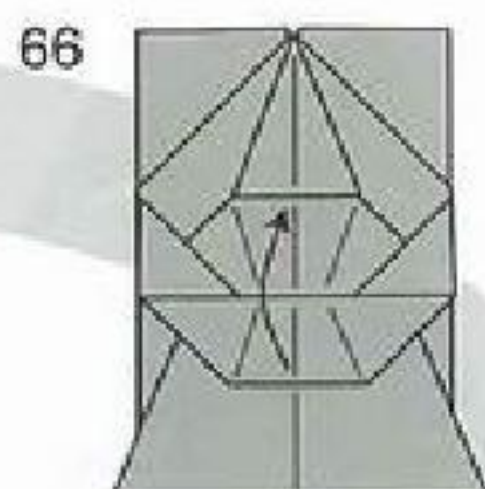
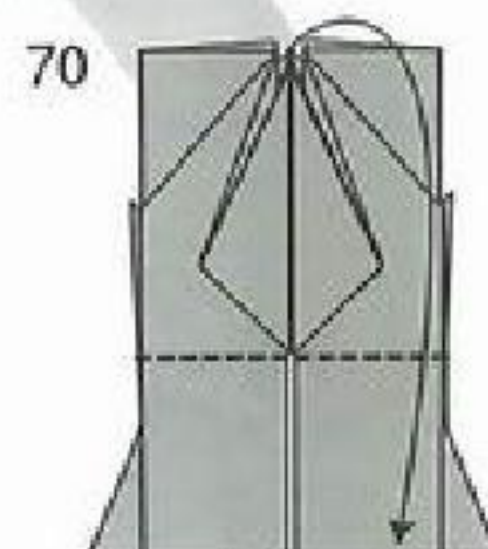
折りすじをつける



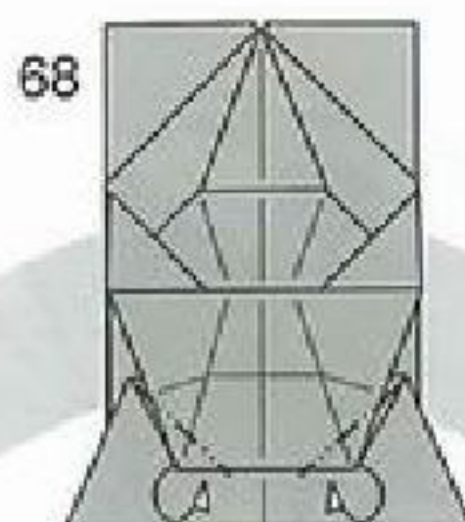
折りすじをつける



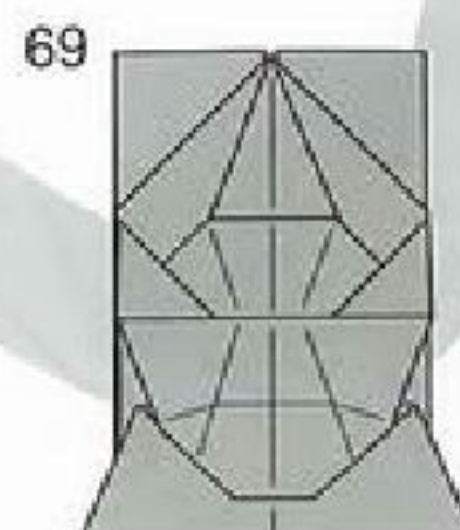
カドを平らにつぶすようにしながら折る

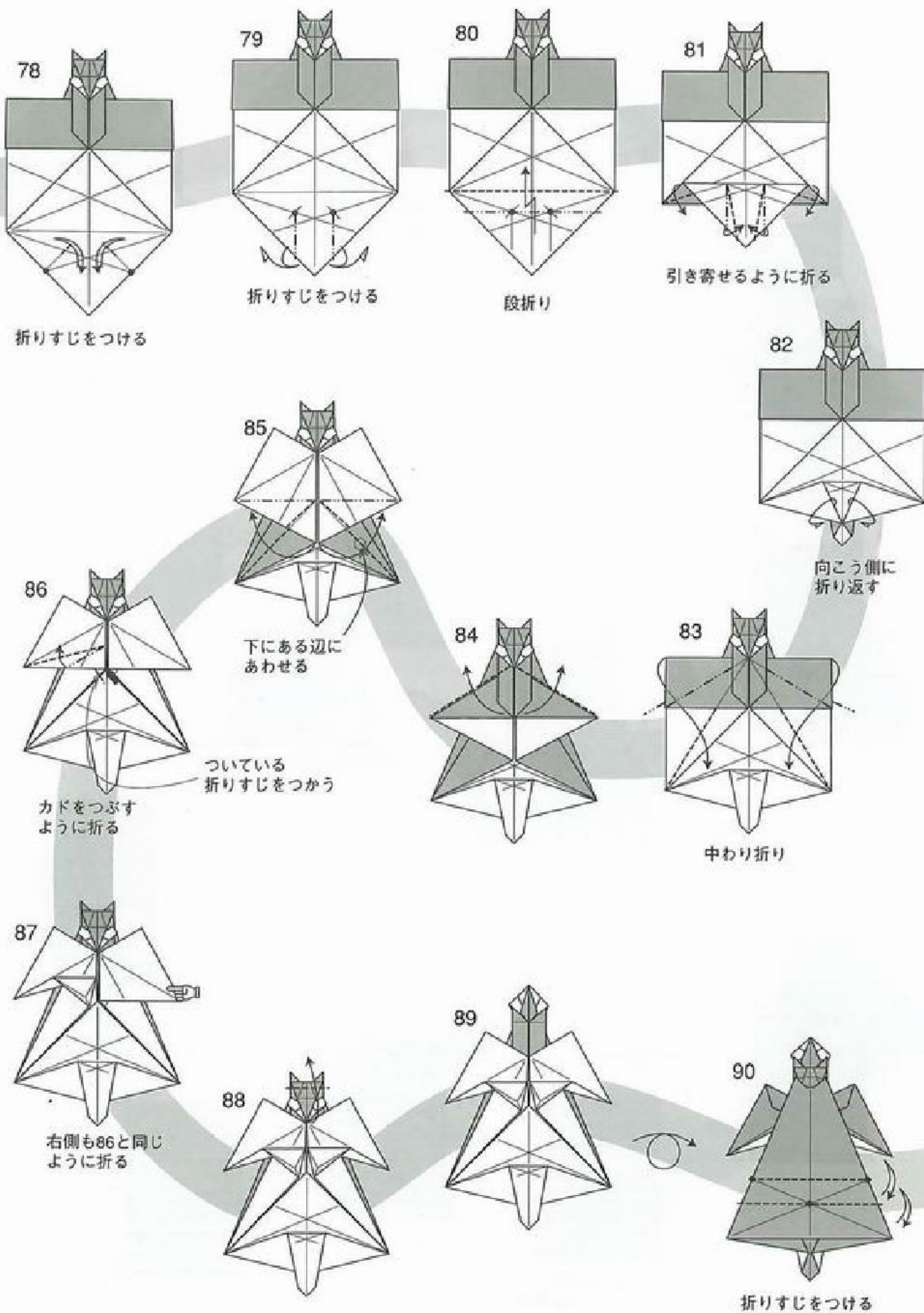


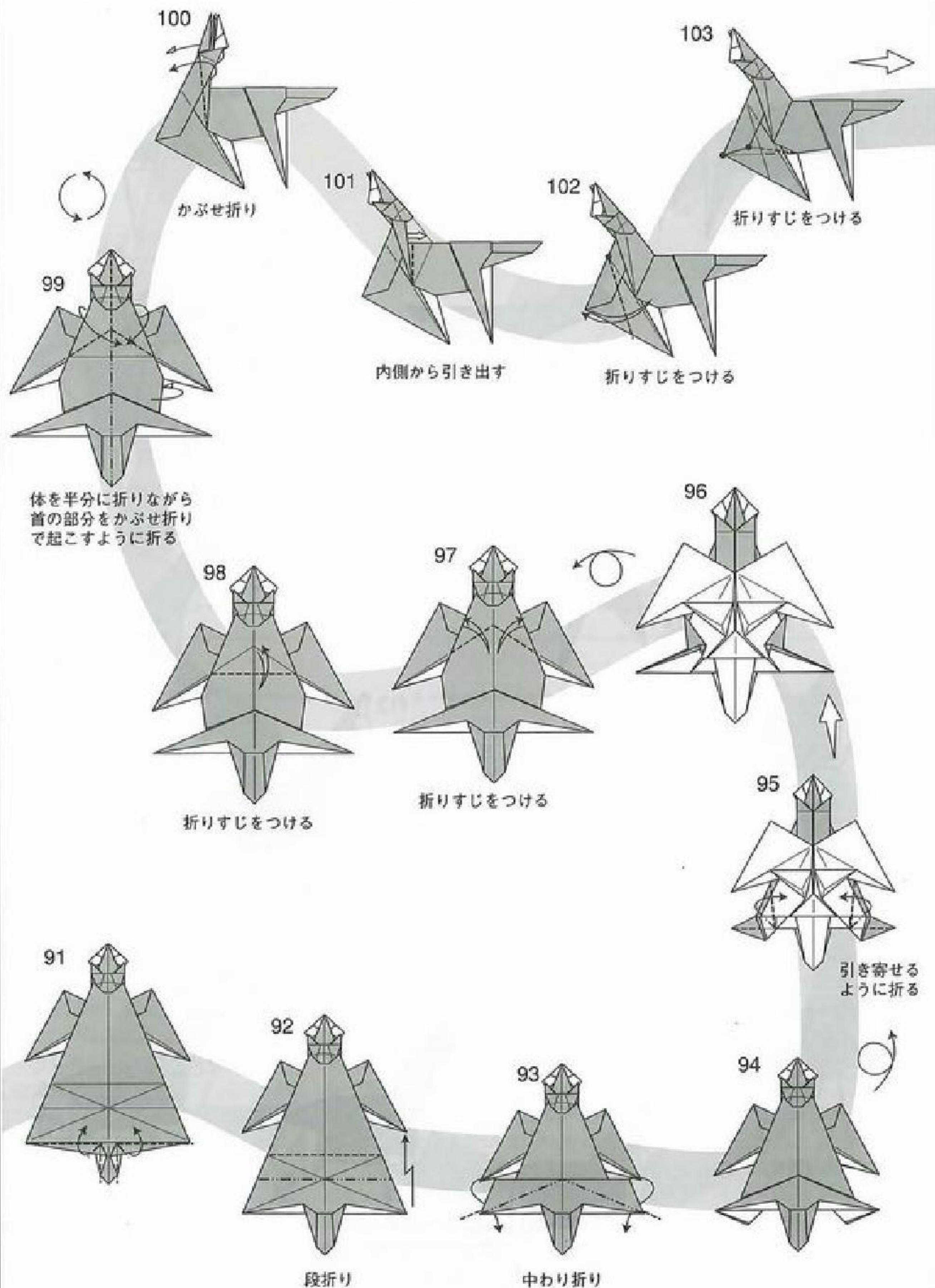
左右に広げながら
つぶすようにまとめる

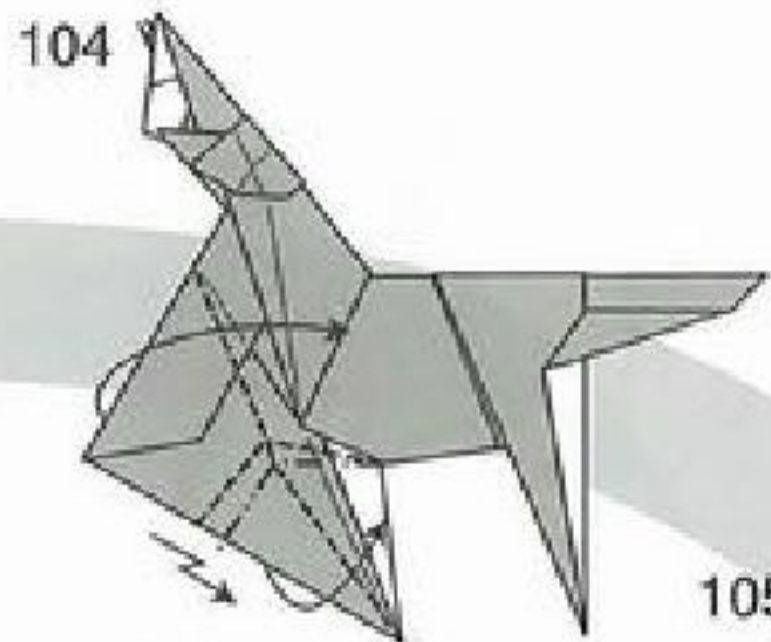


向こう側に
折り返す

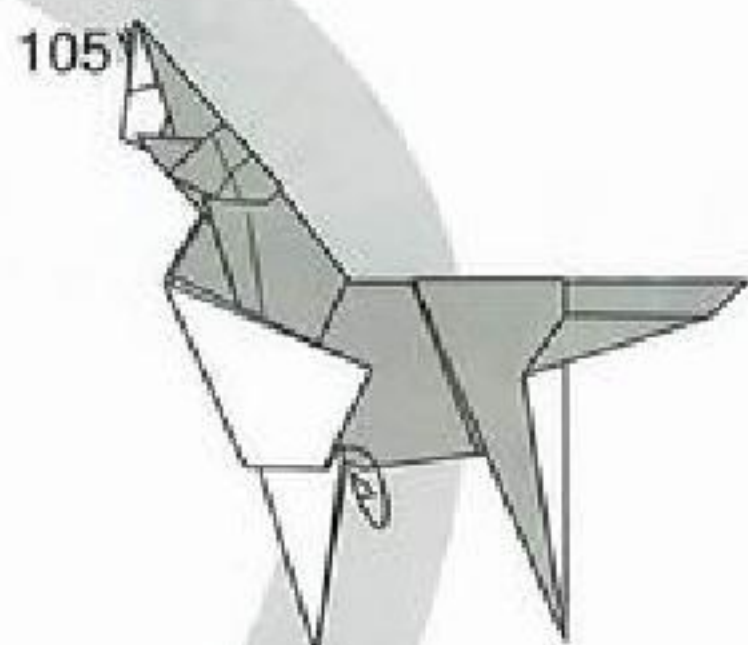




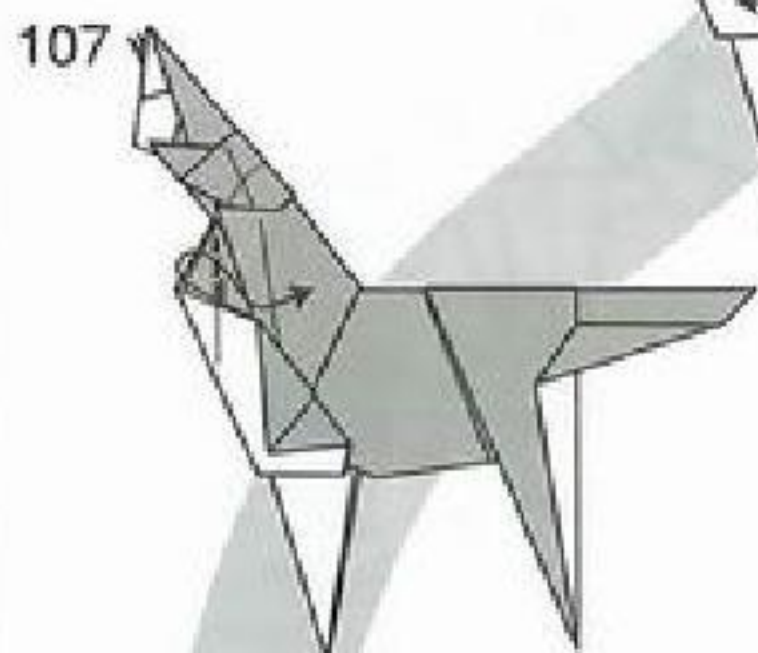
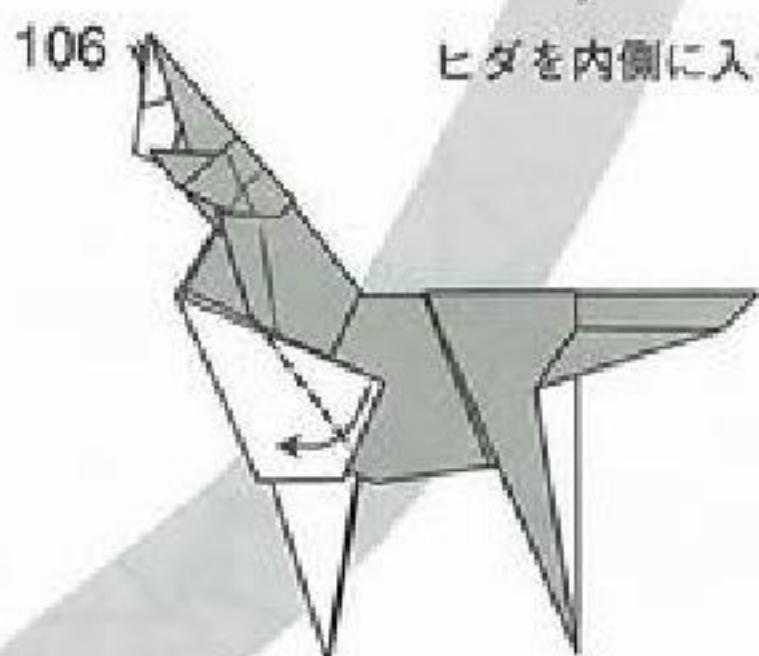




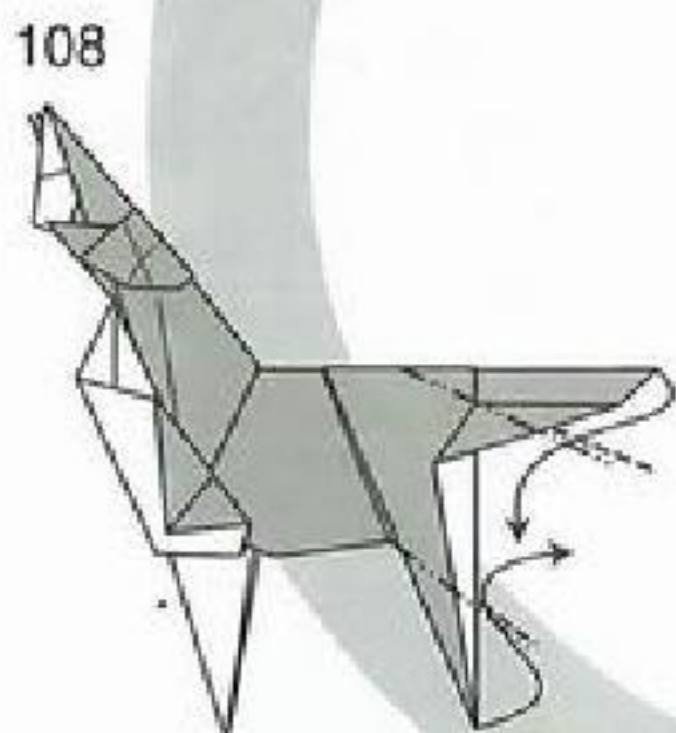
つけた折りすじを
使って足を半分に折る



ヒダを内側に入れる



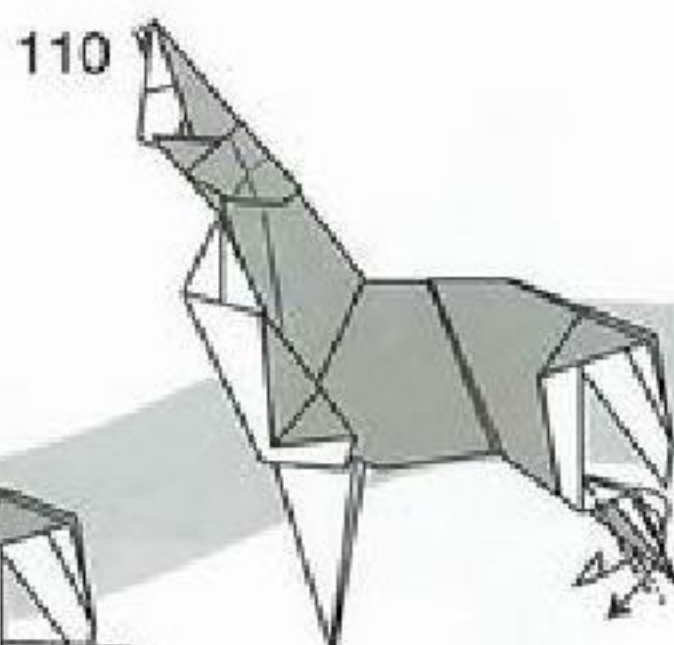
内側の紙を折り返す



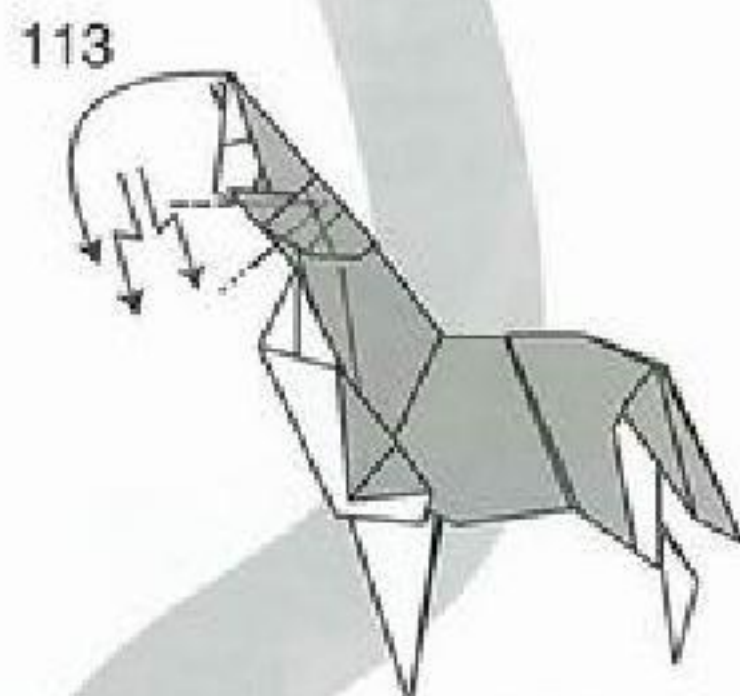
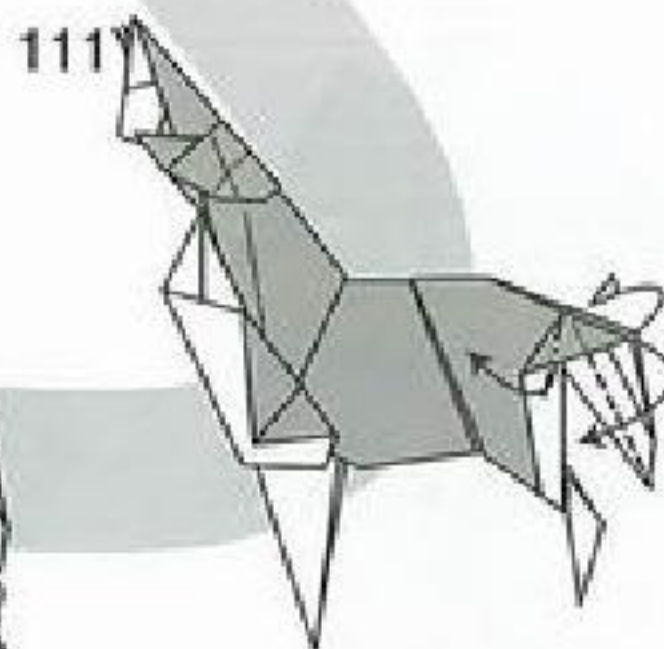
中わり折り



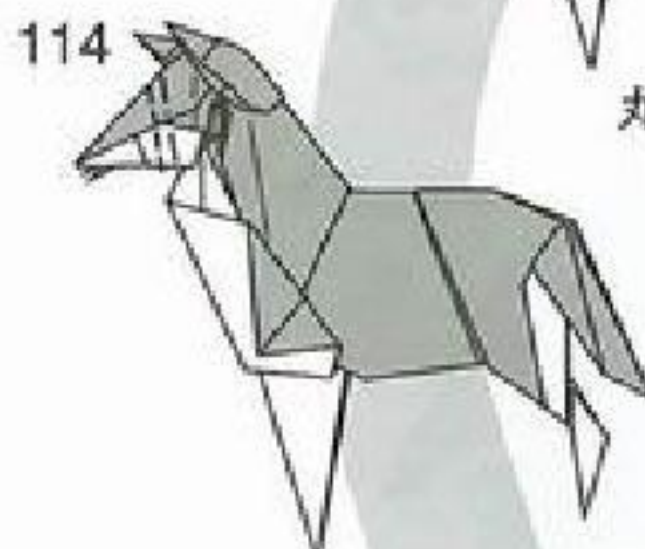
中わり折り



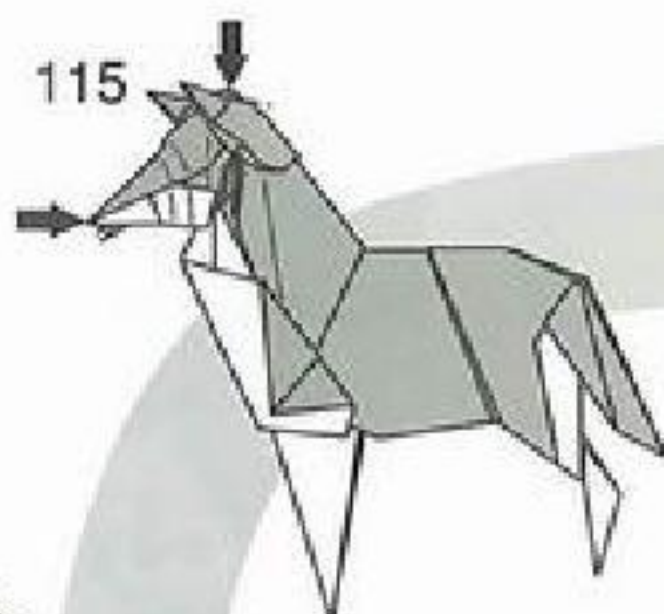
かぶせ折り



段折り

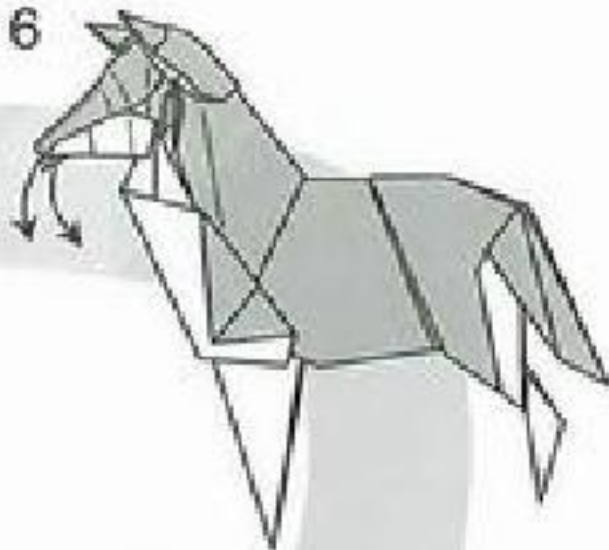


段折りして
顔の表情を出す



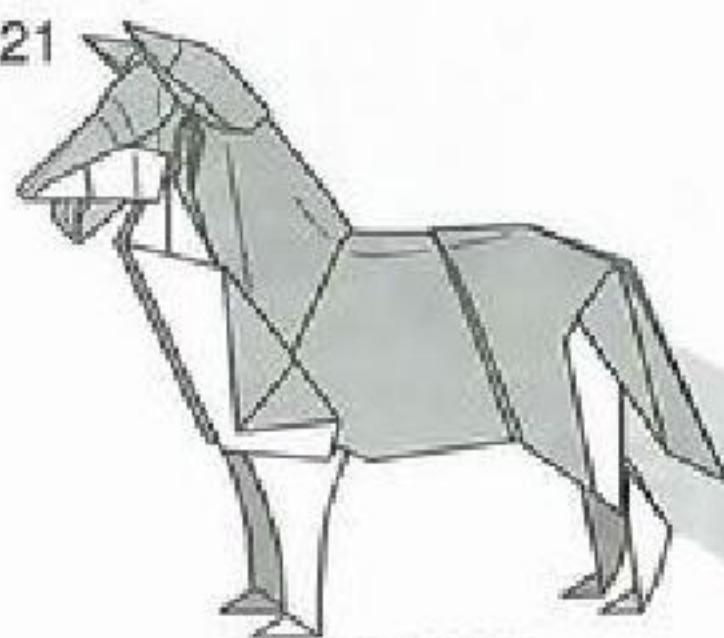
丸みをつける

116



舌と下あごを下に引き
表情をつける

121



できあがり

117



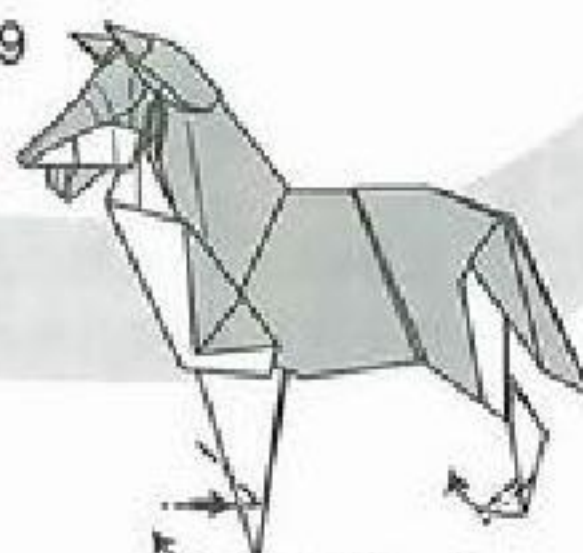
下あごの先に丸み

118



舌らしく

119



足らしく

120



丸みをつける



Orisuzi ("Fold-Creases")

“いま”の元

Why What I Am Is What I Am

原 司

Hara Tsukasa

僕の初めての折り紙の本は、山口さんの「おりがみ事典」です。6歳の時くらいに母に買ってもらったこの本に載っている作品はほとんどすべて折りましたが、一番最初に折りたいと思ったのは表紙の折り返しの山口さんの写真の中に写っている、たぶん古生代の生物の作品です。ところがこの細長いたくさんの節のある作品は、この本の中には載っていないのです。インターネットなど知らない当時の僕にとってその作品を探す事は出来なかったもので、どうにかして同じ形にならないかと紙と格闘した事を覚えていています。

しかし写真の写っている作品の一部をただけでは当然折れる事はないと見えなところがどうなっているのか考えました。そんなところに折り紙の楽しさを見つけていました。そんな時です。僕は当時名古屋に住んでいて、とある用事の帰り道母と2人で本山の和菓子屋さんの前のバス停でバスを待っている時、1人のおじさんが青い雷竜の折り紙作品をくれました。そのアパートサウルスに見入ってしまった僕は広告の紙で折られたアパートサウルスを、僕も折りたい、と思いさっそく広げて折り方を考えました。ああでもない、こうでもない、と、その広げた紙をいじって

いるうちに紙が真っ二つに割れてしまいました。しかし、やはり僕の諦めきれない気持ちは、その作品の形を記憶を頼りに折ろうとしていました。

結局それらの出来事が僕を折り紙をやる方向に持っていったのだと思います。その後僕は、恐竜の折り紙を片っ端から折っていきました。そして東京に引っ越してきた後は、例の「おりがみ事典」をたよりに、折紙探偵団を探し出して今の僕に至るわけです。

そう、「バニースーツ」や「ネコミミ」などを折っている今の僕に至るわけです。

展開図折りに挑戦

Crease Pattern Challenge!

第52回

ラクダー15°

15°-Based Camel

西川誠司

Nishikawa Seiji

Created: 2006.10.22

Paper Size: 35×35cm

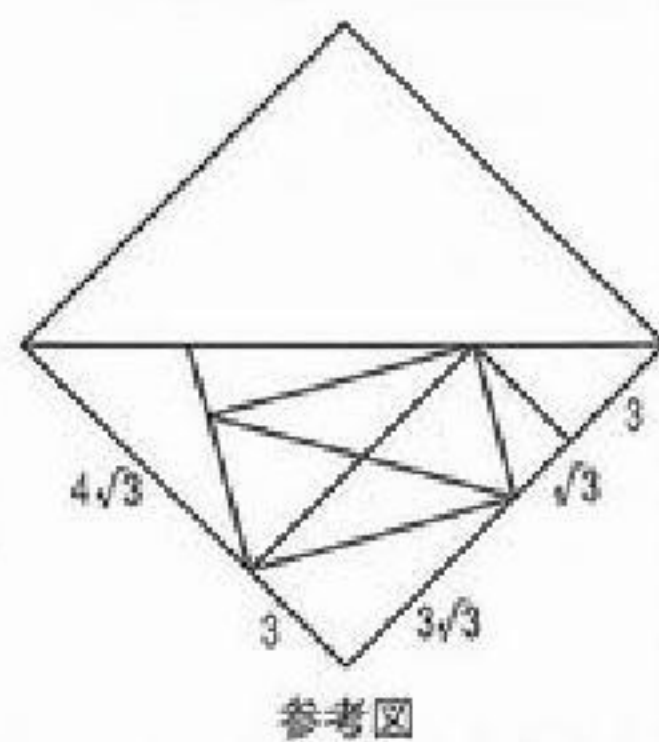
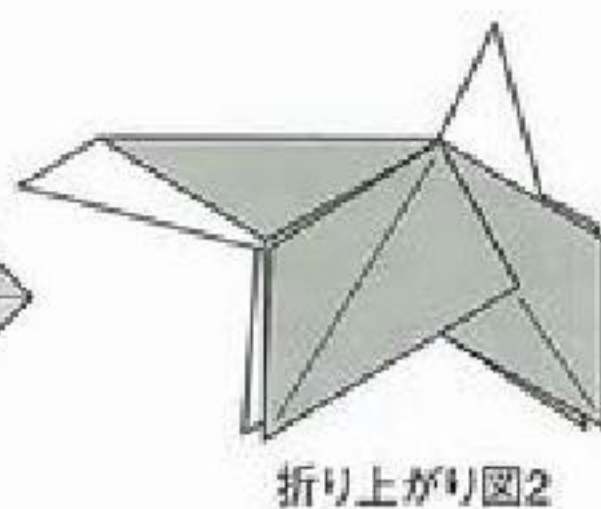
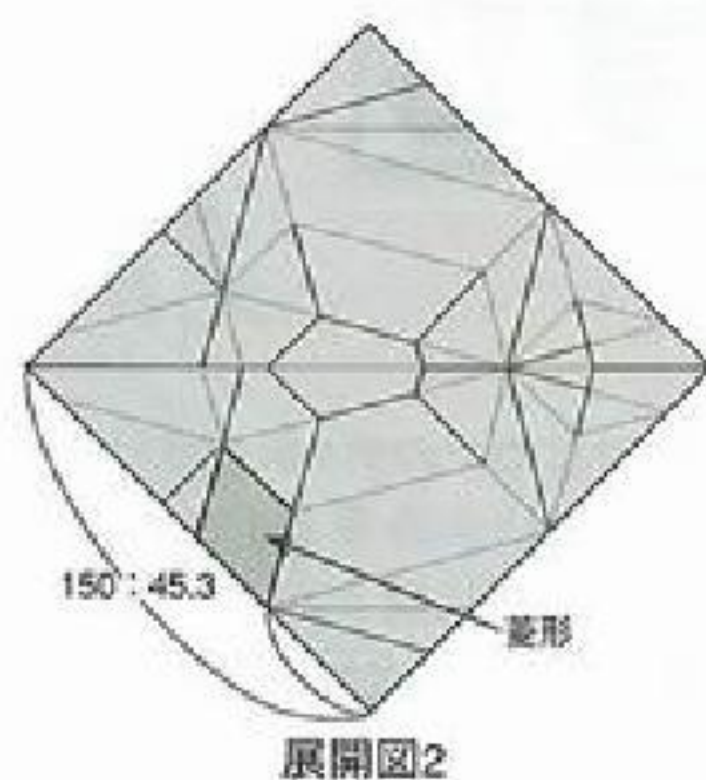
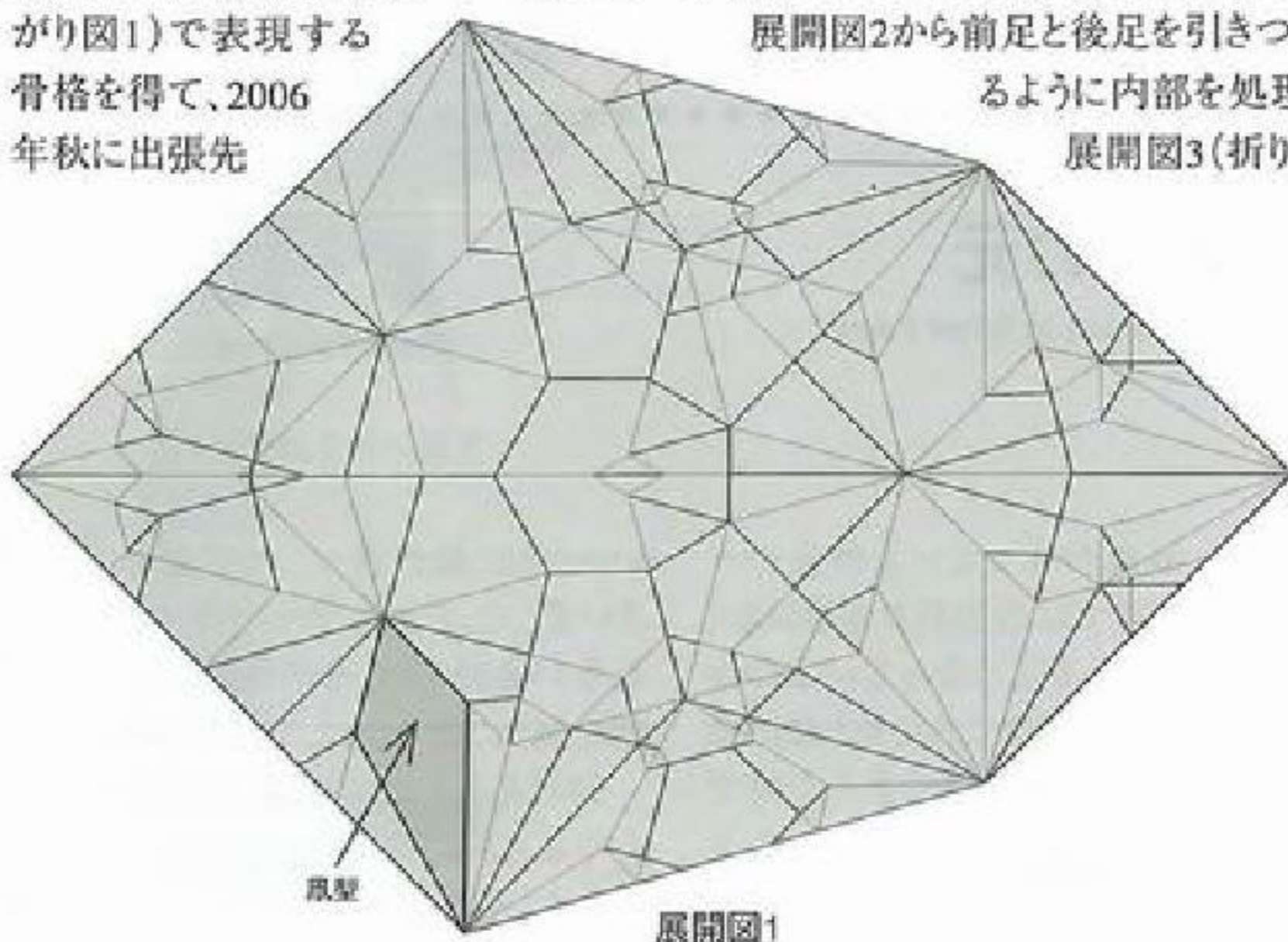
Height: 11cm



ラクダのコブに60度の内部角をあててるのは、15度系に取り組み始めた当初からあった構想だが、全体の構成はスリムな胴体など小松英夫氏の麒麟に引っ張られてうまく形にすることが出来ないうでいた。3年ほど放置していたが、コブと足を一つの細長い鳳型の四辺形(展開図1、折り上がり図1)で表現する骨格を得て、2006年秋に出張先

で一気に仕上げ、直後の名古屋コンベンションで展示することが出来た。細長い鳳型の四辺形は60-120度の菱形の60度の角の一方を半分に折れば得られるので、展開図の設計では60-120度の菱形がきれいに入る点配置を模索し、基本骨格(展開図2)となった。前のコブが実は二つの内部角から出来ている。展開図2から前足と後足を引きつけるように内部を処理、展開図3(折り上

がり図2)を得れば比較的自然的に展開図1へ至るだろう。展開図1、3は不用部分を省略しているが、展開図2のように処理しておくが良い。展開図2から展開図3への移行が一番悩むところかも知れないが、展開図2の用紙中央の6角形を展開図3のように7角形に変形することに注目するとわかり易い。展開図2には折りだしの比率を示した。定規で測るのをお勧めするが、要は参考図の比率なので折り出し方を考えるのも楽しみ方の一つ。



File-27

マーク・ロビンソン

Mark Robinson

マーク・ロビンソン(Mark Robinson)=イギリス、ケンブリッジ在住。家族は妻カレン、息子ダグラス(10歳)、二男マックス(8歳)。本業はテストパイロット。



■折り紙を始めたきっかけを教えてください。

兄弟の友達が折り紙をしていて、その人に折り鶴を習ったのが初めだと思います。だいたい1969年ごろ、10歳位くらいの時です。それから、他の作品も知りたくなり図書館で本を借りたりして折っていました。また、私の本業はテストパイロットなのですが、とても集中力のいる仕事ですので、リラックスする時にも折り紙を折っています。

■BOS(British Origami Society)に入会したのはいつ頃ですか。

趣味として折り紙を始めてから長い間、BOSには入っていませんでした。ロバート・ハービンの本などでBOSという会がある事は知っていましたが、会の活動はよく知らなかった事もあり敷居が高く感じていました。

実際に入会したのは8年くらい前です。仕事でアメリカに行った時に、たまたまロバート・ラングさんの本を探そうと思いつき、そして本屋で探してみたらそこには沢山の折り紙の本が並んでいたのです。これにはとても驚きました。そしてその中でデビッド・ブリルさんの著書『ブリリアント・オリガミ』をみて、ブリルさんが自分の家の近くに住んでいる事を知りました。BOSを通してブリルさんと会えるかもしれないと思い、それをきっかけに

してBOSへ入りました。そして折り紙がとても大きな世界である事を知ったのです。今はAEP(スペイン折紙協会)やJOASのメンバーにもなっています。

■好きな作家や作品について教えてください。

私は小松英夫さんの作品がとても好きです。複雑すぎない形で題材の特徴をとらえていますし、折る手順の紙の動きも楽しめるものとなっています。テッド・ノーマントンは、無駄がない質の高い作品を創っていると思います。またローマン・ディアスさんの作品も好きです。彼の作品はとても生き生きとしていて、複雑であっても生命感が感じられます。この3人が私の好きな作家です。もしいつか自分が創作をするのであれば、彼らのような作品を創ることができればと思います。また、神谷さんのスズメバチも好きな作品です。実はインターネットで初めて作品の画像を見た時、とても1枚の紙から折られているとは信じられませんでした。

■これまでBOS以外のコンベンションに参加した事がありますか。

残念ながら私の家族は折り紙をしませんし、子供はまだ小さい事もあってなかなか海外のコンベンションには行けませんが、昨年、フランスのコンベンションに参加する事ができました。この時にはインターネットで知り合った人と実際に会う事ができました。特にローマン・ディアスさんやニコラス・テリーさんとはいろいろな事を話し、親しくなることができました。とてもいい経験でした。

■今回のコンベンションの会場のカエツ・センター(嘉悦ケンブリッジ教育文化センター)はあなたを通して借りたと聞きました。

私の住んでいる町に、日本人の奥さんを持つ知り合いがいます。その人は

最近の折り紙を知らなかったもので、私が折っている複雑な折り紙を見てとても驚いたようです。そして、ジャパン・デーにカエツ・センターに来て折り紙の教室を手伝ってもらえないかと聞かれました。私は教える事は好きですので引き受ける事にしました。そしてカエツ・センターの責任者に紹介され、センター内を案内してもらった後、ここでなら大きなコンベンションができるのではないかと思います。この施設は日本の文化を紹介する事も目的としていますので、折り紙のコンベンションにはとても好意的に対応してくれました。そしてこの会場を借りてコンベンションを行う事ができたのです。

■BOSでの活動について教えてください。

私はBOSで特別な役職をもっているわけではありませんが、会に属している全ての人は会の一部だと考えていますので、自分が会のためにできる事は進んで手伝うようにしています。たとえばコンベンションでの雑用など、小さな仕事でも責任をもって引き受けて手伝え、重要なポジションにいる人は違う事に集中できるはずです。沢山の人が少しずつでも仕事を分担すれば、よりスムーズな運営ができるのではないかと思います。



コンベンションで行われたゲームでは、途中でブリル氏と入れ替わり笑いを誘っていた



BOS40周年記念コンベンションの会場となったカエツ・センター

日本折紙学会(JOAS) 18期事業報告と19期予定

JOAS Report of the 18th Year (2007) and Prospects of the 19th Year (2008)

1) 会員・定期購読者

第18期は前期に比べ購読者横這い、会員微増で推移しております。この傾向は11期以降連続して続いているものです。会員は8期にわたって増加を続け18期会員数は370名を超えました。18期会員の皆様へは、配付資料として館知宏氏の論文「三次元折紙設計入門」および北條高史氏の折り図「金剛力士像」を送付させていただいております。19期につきましても引き続きご購読・会員継続していただきますようお願いいたします。

また、海外へはこれまでSAL便を用いて発送しておりましたが、19期よりすべてAir Mailにて行うこととし、これに伴い海外向けの購読費・会費を引き上げ(購読費:\$42→\$50、会費:\$94→\$100)させていただきたく、お願いいたします。

2) 吉野一生基金

「吉野一生基金」には2007年度も多くの皆様のご寄付をいただいております。改めてお礼申し上げます。「吉野一生基金」では8月にマヌエル・シルゴ氏(スペイン)、ベン・マラー氏(アメリカ)を第13回折紙探偵団コンベンションに迎えることができました。また、5月には関西コンベンションでのジューン・サカモト氏(アメリカ)招待について、11月には名古屋コンベンションでのデビッド・ブリル氏(イギリス)招待に対して助成を行いました。2008年度も8月の折紙探偵団コン

吉野一生基金2007年度収支報告 (2008年3月1日)

残高合計	2,084,407円
寄付等入金計	402,260円
支出	650,000円
(海外からの招待4名、招待に関わる雑費)	

ベンション第14回大会に加え、5月の関西コンベンション、11月の名古屋コンベンションでの海外作家招待に助成を行う方針です(地方コンベンションは半額助成)。また、日本人の海外渡航助成につきましても引き続き募集しておりますのでご希望の方は事務局まで応募用紙をご請求ください(募集要項は102号を参照ください)。

3) 折紙探偵団コンベンション

2007年8月17-19日に第13回折紙探偵団コンベンションを東洋大学で開催いたしました。2007年大会も350名の参加を得て盛会に行うことができました。ひとえに愛好家の皆様の支援の賜です。今後ともよろしくお願いいたします。2008年も東洋大学を会場にして第14回折紙探偵団コンベンションを開催する予定(8月15-17日)です。詳細決定次第、お知らせいたします。2007年の折紙探偵団地方コンベンションとしては、第8回関西コンベンション(神戸女学院大学)、第3回名古屋コンベンション(名古屋芸術大学)を開催することができました。2008年も関西地区、名古屋地区でのますますの盛り上がり期待しております。2008年の関西コンベンションにつきましては5月5日、6日の開催を既に誌上、web上でご案内の通りです。招待者としてエリック・ジョワゼル氏(フランス)をお迎えする予定となっております。世話役となつていただいている友の会の皆様にはこの場を借りて心よりお礼申し上げます。

4) その他の事業報告・計画

◇折紙資料の収集整理を目的とした折紙図書館事業では2007年4月より、これま

で収集整理した資料の蔵書目録をweb公開いたしました。収蔵図書はキーワード、著者での検索も行えますので、活発なご利用をお待ちいたしております。

◇折紙指導員制度につきましては、2007年も数名の方に新たに資格認定をさせていただきました。2007年度末には、指導員取得の皆様に対して作品の講習利用等のためのガイドを送付いたしておりますのでご活用下さい。本制度につきましてはさらに有用なものとなるよう検討を継続いたします。

◇2007年度もギャラリーおりがみはうす隣に得た常設のスペース「JOASホール」の運営を行ってまいりました。これまで東京友の会例会、布施知子氏、北條高史氏、神谷哲史氏など有名作家ならではの特徴ある講習会、更に2007年5月、12月には第2回、第3回折り紙の科学・数学・教育研究集会を開催しました。この活動は、本誌クローズアップへの記事(107号 栗林氏)や今年度の会員向けの配布資料(館氏)など確実に充実度を上げています。話題提供いただいている研究者の皆様にはこの場を借りてお礼申し上げます。折り紙の科学・数学・教育研究集会は第4回を2008年6月に計画しております。今後とも折り紙の様々な活動拠点としてJOASホールを有効に運営してまいります。

◇既にweb上でもご案内していますが、評議員の川村みゆき氏を中心として、折紙探偵団九州友の会の発足の準備を進めています。ブログ等で適宜情報発信しておりますので、お近くの方は、是非参加してみてください。

5) 総会・その他

◇日本折紙学会2007年度の会計報告

【第18期会員特別配布物】
館 知宏氏の論文「三次元折紙設計入門」と北條高史氏の折り図「金剛力士像」



につきましては、第14回折紙探偵団コンベンション開催期間中に予定している総会においてご報告いたします。2008年6月30日までに第19期会員に登録いただきました皆様には追って総会のご案内を送付申し上げます。

◇19期の評議員体制は、8期務めていただいた川崎敏和氏、北條高史氏の退任、代わって筑波大学准教授の三谷純氏、元JOAS評議員代表の西川誠司氏の2名に入っていただくことを予定しています。継続の川畑文昭(3)、川村みゆき(4)、立石浩一(6)、津田良夫(3)、羽鳥公士郎(9)、前川淳(9)を合わせた8名で運営を進めてまいります。評議員代表は引き続き前川淳となります。今後ともますますのご支援よろしくお願い申し上げます(カッコ内は勤続年数:最長任期9年)。

1) Membership and Subscribers

In the 18th year, we had about the same number of subscribers as the previous year, with members increasing a little, the trend which continues to be the case since the 11th year. The number of JOAS members in the 18th year is now over 370. Members will find an article by Tachi Tomohiro ("Introduction to 3D Origami Design") and Diagrams of Hojyo Takashi's "Vajrapani". We expect all members and subscribers will renew for the 19th year as well.

There is one change for subscribers and members abroad in the 19th year: As we will change our shipping method from SAL to Airmail, we would like for you to allow us to raise fees (Subscription \$50 (previously \$42) and Members \$100 (previously \$94)) starting from the 19th year.

2) The Yoshino Issei Fund

We thank you for your continuing support of the Yoshino Fund for the year 2007. In August, 2007, we have invited Manuel Sirgo (Spain) and Ben Muller (USA) to the 13th Origami Tanteidan Convention with the Fund. We have also invited June Sakamoto (USA) to the Origami Tanteidan Kansai Convention in May, 2007, and David Brill (UK) to the Origami Tanteidan Nagoya Convention in November, 2007 with the partial aid from the Yoshino Fund.

As of March 1st, 2008, the Fund has 2,084,407 yen (contributions from members 402,260 yen, and expenses 650,000 yen (mainly invitation of the four origami creators)).

3) Origami Tanteidan Convention

We held the 13th Origami Tanteidan Convention at Toyo University on August 17-19, 2007. We had 350 participants and the Convention was a success. We thank you for cooperations of folders of the world. This year, we plan to have the 14th Convention on August 15-17, 2008, at Toyo University. Details are to be announced. We also had the 8th Kansai Convention at Kobe College, and the 3rd Nagoya Convention at Nagoya University of Arts. As for the Kansai Convention, the 9th one will be held on May 5-6, 2008 at Kobe College, with Eric Joisel (France) as an invited lecturer. We JOAS thank staff members of these conventions.

4) Other Prospects

The Origami Library has started making the list of materials in the archive there open on the web in April,

2007. Sorting by authors and keywords is available, so feel free to use it.

We had licenced a few people as new JOAS Origami Instructors in 2007. We have sent the instructors the guidelines for using models for teaching and so on. We hope to have this license become more beneficial for the awardees in the near future.

The studio space we have gained in 2005, JOAS Hall, are being used for regular meetings of Tokyo Tanteidan Group, occasional origami classes by Fuse Tomoko, Hojyo Takashi, Kamiya Satoshi, and so on. We also had held the second and third Workshop on Origami in Science, Mathematics and Education there in May and December, 2007. Excerpts from the presentations there are published in the Origami Tanteidan Magazine and JOAS annual present materials for the members. The next workshop will be held in June, 2008.

The Origami Tanteidan Kyushu Group will be acting with the acting chair Kawamura Miyuki. They are about to have the 1st regular meeting.

5) General Meeting and the Board

The fiscal report of JOAS in 2007 will be reported in the General Meeting immediately preceding the 14th Origami Tanteidan Convention. Members will be notified of the meeting if they register their membership by June 30th, 2008.

The Board members for the 19th year will be: Kawahata Fumiaki (3), Kawamura Miyuki (4), Tateishi Koichi (6), Tsuda Yoshio (3), Hatori Koshiro (9), Maekawa Jun (9), Mitani Jun (1), and Nishikawa Seiji (1) (numbers indicate the years for which they have been the Board members consecutively). The chair of the Board will be Maekawa Jun.

Rabbit Ear

つまみおり

Information

▶講習中のエリック・ジョワゼル氏。今年一月には「奇跡体験!アンビリバボー」でも紹介された



講習受付順位のお知らせ:当日(初日・2日目)の順位は異なります)

会場は西宮の閑静な住宅街の中にありますので、行き帰りはお静かに。車でのご来場はスタッフなど一部の方を除き不可能です。また、昨年と同じく、建物の床材保護の関係上、建物内では、底の固い靴は禁止です。ゴム底など、やわらかい上履きをご用意下さい。

参加申し込み用紙をまだお持ちでない方は、下記のアドレスよりダウンロードしてご利用ください。

<https://sv34.wadax.ne.jp/tatekoo-net/>
(Xoopsのリンクをクリック、会員登録をしてから、関西友の会のページよりPDFをダウンロードして下さい。)

関西コンベンションに関する問い合わせ
立石 浩一 TEL 078-861-6337(昼間はおりません、また、一般家庭の電話ですので、深夜はご遠慮下さい)もしくは、電子メール origami_kansai_@kcc.zaq.ne.jpまで

◆第9回折紙探偵団 関西コンベンション参加募集中

現在、今回で9回目となる折紙探偵団関西コンベンションの参加申し込みを受け付けている。今年のスペシャルゲストは106号のクローズアップでも紹介したフランスのエリック・ジョワゼル氏。芸術性の高い人物造形やユーモアあふれる講習を披露してくれるだろう。

開催日:2008年5月5日(月)・6日(火)
(ともに祝日)

場所:神戸女学院大学文学館

神戸大学ではありません。(兵庫県西宮市)新幹線新大阪・新神戸駅より1時間弱かかります。

参加費:大人4000円、子供3000円(2008年4月1日時点で中学生以下)
折り紙、折り図集つき。

(親子割引、神戸女学院関係者割引については、申し込み用紙をダウンロードして、ご覧下さい)

懇親会参加費:大人5000円 子供3000円
宿泊:今年は宿の紹介等はしておりません。各自ご手配下さい。

参加申し込み締め切り:4月18日(金)、ただし、原則として200名に達した時点で締め切ります。

◆第14回折紙探偵団コンベンション日程決まる

夏の一大イベント、折紙探偵団コンベンションの日程が決定した。講演、教室など折り紙漬けの3日間。折り紙を通して知り合った知人や友人に会うことを楽しみにしている方も多いだろう。スタッフ一同、今年も充実したイベントの開催を目指している。

会場は例年通り東洋大学の白山キャンパスで開かれる。また、時期も例年通りで、お盆の時期の8月15、16、17日である。

15日は午前中が日本折紙学会総会で、午後には特別講演会が開かれる。講演者は未定だが、折り紙に関する話題を広く扱った内容となるだろう。

16日、17日は折り紙教室となる。作家や愛好家によるシンプルな作品から超難解作品まで幅広い講習を予定している。初公開作品の教室や、海外からのゲストの教室も見逃せない。また今年は、折紙指導員資

格保持者を対象として、折り紙についてより深く知るための教室も企画している。指導員ではないが興味のある方、これから指導員になろうと考えている方も是非参加して欲しい。

今年の吉野一生基金招待者はヘルマン・バン・グーベルジャン氏(ベルギー)を予定している(氏の作品「シブス・パッシング・イン・ザ・ナイト」は本誌107号に掲載されている)。

コンベンションの詳細や、参加申し込み等の情報は、次号(109号)に掲載予定。

14th Origami Tanteidan Convention

2008 August 15-17 at
Toyo University, Tokyo.

▶談笑するヘルマン・バン・グーベルジャン氏。昨年ケンブリッジで行われたBOSSのコンベンションにて



◆折り紙の著作権とその扱いについて

ニック・ロビンソン

翻訳：立石浩一

現在、折り紙の著作権およびその扱いについて声明を出すべく、ロバート・ラング氏と検討中です。世界の折紙協会・団体が下に書かれている基本的原則について同意して下さることを切に望んでいます。法律は国により異なりますが、モラルと尊厳は普遍的なものだと、私たちは信じています。

著 著作権は折り紙創作者にとってますます重要な問題になりつつあります。創作者のみならず、折り紙作品を使用して、生計を立てている編集者・業者にとってもこれは重要な問題です。この声明では、法律的側面に立ち入る事は致しません。法律は国により異なるからです。しかし、ここで私の考えを述べておく事は重要であると思い、筆を執りました。同意するかどうか、修正すべき点があるかどうか、など、ご自由にご指摘ください。ただし、単なる感情的な攻撃は御断り致します。

昔 々は、折り紙の芸術性というものについてはいまいな扱いしかされず、「誰が始めたのか・創ったのか」しか問題として扱われませんでした。吉澤章氏が他の創作者を「作品を盗んだ」とのカードで攻撃したりもありましたが、それはブライドの問題として、でしかありませんでした。折り紙界の内部では、作品の創作者への敬意は大体において尊重されてきましたが、外部の出版社・著作家などは作品に対して、それがまるで伝承作品であるかのような自分に都合のいい扱いしかしてきませんでした。

ドイツにおいて、イルムガルト・クナイスラーとジュラル・アイテュール・シェーラが創作者名を一切伏せた形で本を出版し、ベストセラーになった事がありました。笠原邦彦氏と本田功氏の作品は其中でも多く無断で使用されておりました。確かに、これらの本が、折り紙という芸術作品の普及に寄与した事は間違い無いのですが、無知ゆえか、結果として著作権について非常に低い基準を作ってしまった事は否めません。

現 代の出版社の多くは(例外もあります)が、著作物の使用の許諾とそれの明記に関する専門家を雇うことが多く、その人たちに許諾面などの著作権処理を任せる傾向があるのですが、その場合、一般的には、契約書に出版社は書籍内の全ての創作物のデザイン使用の許諾を得る義務と責任があると書かれている事が多いです。原則として、これでほとんどの問題はなくなるのですが、中には折り紙の世界を良く知らない、あるいは原則を都合でコロコロ変える著作家も多いのは事実です。間違いは、したがってどうしても起こります。マーク・カーシェンバ

ウム氏に許諾を得ておきながら、彼の創作物を彼の作品であると明記しなかった、という困った事例も実際にありました。それ以来、私自身は、実際に書籍のゲラが出来る前に何度も著作権の所在の記載についてチェックする事にしています。

最 近の折り紙本の中にも、かなり経験のある出版社・著作家でさえ、作品の創作者の名前が書いてあったりなかったり、許諾がとれていなかったり、といった事例が見受けられます。これは創作者としては受容し難いことです。もちろん、作品が出版される事は名誉であり、金銭の問題ではありません。しかし、創作者の信用と理解は、創作者の権利の保護、つまり、事前の許諾と著作権の明記、そして、献本などによる感謝の気持ちの表現などが無い限り、得る事は出来ないのです。

著 作家、出版社に対しては、書面による許諾、著作権の明記の確認を徹底させることが一つの解決方法になります。そのためには、不適切な作品の利用をした者に対して、責任を追求し、何らかの補償を求める態度が必要になるでしょう。これが当たり前になるのが将来的には理想です。山口真氏、笠原邦彦氏、川崎敏和氏はおそらく最大の犠牲者と言っているでしょう。川崎ローズが盗用された回数は数知れません。おそらく最も不正使用された作品でしょう。中には、ウェブサイトで何の許可も見返りもなく、川崎氏の作品である事も明記されず、完成品を販売しているような例も見受けられます。このような例は法的手段に訴える事もほとんど不可能です。そもそもウェブサイト管理者と連絡を取る事も難しく、そのようなことで作品あるいは創作者の品位を貶める可能性も、創作者の側としてはどうしても考えてしまうからです。しかし、電子メールなどによって、そのようなサイトの管理者に問題点を指摘し続けることはどうしても必要です。反応は無いかも知れませんが、公開の場で問題を指摘し、信用を失墜させる事は、一つの有効な手段です。

各 国の折紙協会・団体にもこの種の行動を援助する態度が必要です。サイト上の作品の創作者、著作権の所在を明記するなどの措置は当然必要です。創作者の



多くは一つ一つの不正使用の事例に関わっていく時間も、知識も、資金もありません。国によって著作権に関する法律が違うのも問題点の一つではあります。しかし、普遍的なガイドラインの策定、そしてそれを各国の協会・団体のウェブサイトで公開する事により、出版社・個人の不正使用に対する、無知、という言い訳を拒絶することは可能です。ロバート・ラング氏、ジョセフ・ウー氏らが現在これについて精力的に活動しています。

電 子出版物の普及というのも頭の痛い問題です。eBayなどを使って簡単に出版物を売ることが出来る状況は、人々に簡単な金儲けの手段を提供し、その誘惑に人が抗う事は往々にして難しいものです。ひどい例では、既存の出版物をただスキャンして売っている例も見受けられます。この種の海賊版は、匿名サイトなどにあることが多いので、防ぐ事が難しいのは確かです。しかし、私たちは、著作権を侵害し、創作者の良心を悪用し貶めるような人々、またそれに乗じて無許可出版物を売り利益を得る者に対して、断固たる措置を採る必要があります。それには、人に対する措置のみならず、この種の悪用を許す手段への措置も必要になります。折り紙界全体でこのことについて協同でアピールする事が、この種の事例に対抗する最良の手段であることは言うまでもありません。

著作権を考える国際会議

今年の10月か11月をめぐり著作権を考える国際会議を開きたいと思っている。これはおりがみはうす20周年記念行事として、おりがみはうすが、デビッド・ブリル氏、ロバート・ラング氏をはじめ、海外から8～10名の折り紙の識者を招待し、開く予定である。この会議では何かを決めようというものではない。皆さんと一緒に今起きていることやこれから起こるだろうことに対して我々折り紙人がどのように考えていけばいいのか現状確認と意見を交換する程度の会を考えている。(山口真)

日本ブラジル交流年 作品募集

マリ・カネガエ

今年は、ブラジル日本移民100周年となる年で、日本ブラジル交流年として、サンパウロで2008年6月12日から22日の間、日本とブラジル間の文化や芸術に関する数多くのイベントが行われます。

私はこれまでずっと、探偵団のアーティストの作品をブラジルの人々に紹介したいと思っていました。今回のイベントは、新聞やテレビなど多くのメディアに注目されていますので、折り紙を広く紹介し、折り紙が芸術であることを示す絶好の機会であると考えています。

私は、この展示を「オリガミ・クンティダ・アート」として、探偵団の全ての作家に向けて、このイベントのために作品を送ってもらえるようお願いします。(もし他に良いアイデアがあれば教えてください)。

もし協力して頂ける方は、作品名と作品の大きさを知らせてください。なるべく早めに展示のためのスペースを確保して、準備を始めたいと考えています。また作品の到着締め切りは5月末(必着)です。

第4回折り紙の科学・数学・教育研究集会

標記の会を、下記要項で行います。

◇日程:6月22日(日)10:00-16:00

◇場所:JOASホール(東京都文京区白山1-33-8 朝日マンション2F)

◇参加資格:なし

◇参加費:500円

◇主催:日本折紙学会

発表者を公募します。特別な資格(会員であるなど)は必要ありません。発表をご希望するかたは、5月末日までに、電子メール

東京友の会 ※折り紙は各自持参

会場=JOASホール/参加費=500円(中学生以下300円)/講習会=14:00~/研究会=16:00~

●4月5日(土)/講師:未定(TVチャンピオン出場者)/作品:未定

●5月10日(土)/講師:未定/作品:未定

東海友の会 ※折り紙は各自持参

会場=名古屋芸術大学 西キャンパスG棟204・205/参加費=大人500円(中学生以下は200円)/時間=13:00~16:30

●4月19日(土)/G204講師:未定/作品:未定/G205講師:未定/作品:未定

■ORIGAMITANTEIDAN / No.108 / Published on 25, March 2008 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216 HAKUSAN BUNKYO-KU 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "Siberian Husky" Produced by Kawahata Fumitsuki / Photographed by Matsuura Eiko / Publisher: Maekawa Jun / Editor in Chief: Yamaguchi Makoto / Editor: Matsuura Eiko, Kamiya Satoshi / Editorial Design: ORIGAMI HOUSE / Translator: Tateishi Koichi

送り先:

Mari Kanegae

Rua Fagundes Dias, 298, Ap. 134 A CEP 04055-000 Sao Paulo SP Brasil.

この活動がブラジルと折り紙にとって非常に重要なイベントになると信じています。

TVチャンピオン



▲大きな布製の看板の前で競う堀口VS宮本
この看板はOUSAのコンベンションに送られる

予選を勝ち抜いた一人がチャンピオン神谷氏に挑戦する形式で行われた、およそ3年半ぶりのTVチャンピオン。この間に番組名がTVチャンピオン2と変わり、放送枠も1時間半から1時間に縮小されている。そのため、放映

にて、下記項目をご連絡ください。郵送でも受け付けますが、できるかぎり電子メールでお願いします。

◇メールの表題:第4回OSME研究集会発表希望

◇内容:氏名、連絡先、発表タイトル、発表概要(200文字まで)、発表予定時間(30分以下としますが、交渉に応じます)

◇連絡先:webman@origami.gr.jp

●5月17日(土)/G204講師:未定/作品:未定/G205講師:未定/作品:未定

関西友の会 ※折り紙は各自持参

●4月19日(土)/会場=神戸女学院大学デフォレスト館D-201教室/13:00~16:00/参加費=なし/講師:菅原良子・肥下徳志/作品:こいのぼり・カブト(土戸英二作)・チェリー(MNZ作)

静岡友の会 ※折り紙は各自持参

●5月11日(日)会場=「紙友館ますたけ」増武ビル3F/参加費=500円/時間=10:30~12:00/問い合わせ:054-254-4541(増武内 山口16~20時)

された映像は収録されたもののごく一部といった感じを受けた。特に長時間拘束され折り続けた出場選手にとっては、物足りないし、良いとこなしに終わったようにも思える。

次号のクローズアップのページでは、出場選手にその辺を含め大いに語っていただく予定である。乞うご期待。

折紙探偵団九州友の会

JOASの評議員であり、本誌連載でお馴染みの川村みゆきさんが中心となって、折紙探偵団九州友の会が発足することになった。九州コンベンション開催を目標に設立されるので、いずれ九州コンベンションが開催されることだろう。これで、大相模本場所があるところには折紙探偵団コンベンション在りということになる。

JOASホール今後の予定

◆4月27日(日)「ある折紙作家の教室」

神谷哲史/参加費=3,000円/11:00-16:00/講習作品「セミの幼虫・完全版」

◆5月17日(土)「知子の部屋」布施知子/参加費=2,500円/12:30-16:00

■4月の「知子の部屋」はお休みです。

■参加の申し込みはFAX(03-5684-6080)か、メールinfo@origamihouse.jp宛でお願いします。これをできない場合は電話でも受けます。上記の予定は講師の都合により変更される場合があります。事前にお問い合わせください(03-5684-6040)。

編集後記

■八坂村、折り紙界では布施さんが住んでいるところでお有名(?)。■その布施さんのお世話でご近所(といっても徒歩20分)の一軒家が借りられることになった。■折り紙愛好家の交流の場、溜まり場になってくれたらという願いを込めた場に。■家は手入れが必要だがとてもいいところだ。■夏頃には住めるようにしたいと思っている。■家の手入れはできるだけ手作りだと思っている。■そこで、大工仕事得意な人、手仕事好きな人、手伝ってやろうというきとくの方を捜しています。(や)

ホームページ

折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>
団員パスワード/Pyramid(大文字・小文字別)

折紙探偵団

2008年3月25日発行 第18巻6号通巻108号
発行所/日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人/前川 淳

編集人/山口 真

編集スタッフ/松浦英子、神谷哲史

デザイン/おりがみはうす

翻訳/立石浩一

発売元/おりがみはうす

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

定価635円(本体605円)

おりがみはうす商品案内

website = <http://www.origamihouse.jp/>

E-mail = info@origamihouse.jp

このページの商品の取扱いはすべておりがみはうすです。
日本折紙学会とは別になります。

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



第13回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.13

日本折紙学会 編/2,000円/送料420円
B5判/全256頁/39作品収録

好評発売中!

世界の新作折り図ばかりを集めました。第6回TVチャンピオン決勝戦で神谷氏が折った「ライオン」、本誌「折紙探偵団」に展開図が発表された小笹氏の「翼のあるライオン」、昨年の招待者ニコラス・テリー氏の「ネズミ」、モズリー氏の動くユニット「バルサー」収録。

書籍名/著者・編者	価格(税込)	送料	内 容
神谷哲史作品集 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,000円	国内一律 1冊 420円 (梱包込)※ 複数冊は 異なります	B5判/全228頁/カラー口絵4頁/19作品収録 超複雑系折り紙の創作活動8年間の集大成。
西川誠司作品集 西川誠司 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,200円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折紙図鑑「昆虫1」 川畑文昭・西川誠司 共著 山口 真 編	3,100円		B5判/全196頁/カラー口絵 4頁/17作品収録 '93~'94年の「昆虫戦争」で誕生した作品の記録
折紙図鑑「昆虫2」 ロバート・J・ラング 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,500円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/18作品収録 初心者お断り、世界で一番難しい昆虫折り紙の本
折り紙色紙百花 田中具子 著 山口 真 編	2,500円		B5判/全120頁/カラー口絵8頁/31作品収録 色紙に貼り込んで飾る花の折り紙作品集
面~The Mask~ 布施知子 著 山口 真 編	3,300円		B5判/全200頁/全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前の、お面だけの作品集
空想おりがみ 川畑文昭 著	2,900円		B5判/全180頁/カラー口絵4頁/18作品収録 1995年6月初版発行の恐竜と空想動物の本
第12回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.12 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作52作品を収録
第11回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.11 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作55作品を収録
第10回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.10 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作50作品を収録

※第1回~第9回の折り図集は全て絶版です ※書籍は郵便の「ゆうメール」で発送しております。送料には梱包材代が含まれています

限定版 折紙探偵団Tシャツ

折紙探偵団のロゴが入ったTシャツ。
色は黒のみで布は厚手。

XS, S, M, L, 各サイズ 定価 2,000円/2着まで送料500円
※数に限りがありますので、ご注文の際は在庫を確認してください。

商品名	価格(税込)	送料	内 容
恐竜柄おりがみ用紙	1,000円	国内一律 1~2セット 440円	35×35cm/10枚入/70kgの 洋紙に細かい恐竜模様を印刷
恐竜柄おりがみ用紙 折り図つきセット	1,200円		恐竜柄おりがみ用紙+ ドラゴン(北條高史作)の折り図

※紙製品は定形外郵便で発送しております(書籍とは別発送になります)。送料には梱包材代が含まれています

書籍2冊の送料は530円/書籍3冊の送料は670円(例外を除く・下記参照)
例外「折り図集」又は「色紙百花」だけを3冊の場合(例:折り図集1,2,13と色紙百花1冊)のみ530円

上記以外の場合はお問い合わせください/書籍と紙製品は別発送となりますのでご了承ください

只今制作中 発行日は未定です。気長に待っていて下さい
小松英夫折紙作品集/小松英夫・著 じんわりと進行中。待て次号。
北條高史折紙作品集/北條高史・著 あの名作がバージョンアップ?
折紙図鑑「犬」/佐野康博・著 犬の折り紙第一人者の選作集

本ページに記載していない商品は、現在取り扱っておりません
ご送金頂いてもお送りできませんのでご注意ください

GALLERY ギャラリー **おりがみはうす**
〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080
E-mail: info@origamihouse.jp 10時~18時 日・祝休

商品の申し込み方法

先に郵便振替か現金書留で料金(商品価格+送料)をお送り下さい。入金を確認後、商品を送らせて頂きます。ご希望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 **00120-9-715400**

加入者名 **おりがみはうす**

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。
※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。
※現金書留の場合は左記の住所へお送りください。
※商品のお届けは通常、送金から約1週間~10日です(お盆・年末年始等を除く)。

同数と料金をよくお確かめの上ご注文ください。

おりがみ小物入れシリーズ

●スイーツタイプの5種類の小物入れが作れます

¥300
(税抜き)



チョコレート
ケーキBOX



シュークリーム
BOX



ショートケーキ
BOX



キャンディBOX



クッキーBOX

英訳付き折り方説明書入り

●和風柄をプリントした千代紙を使用し5種類の小物入れが作れます

¥300
(税抜き)



お手玉箱



結び箱



華箱



菱形箱



六角箱

英訳付き折り方説明書入り